Aflac Incorporated

The Aflac Way

パーパス（企業存在意義）とパフォーマンス（業績）の両立を図りつつ変化を生み出す

2024年 ビジネス&サステナビリティレポート

アフラック・インコーポレーテッドについて

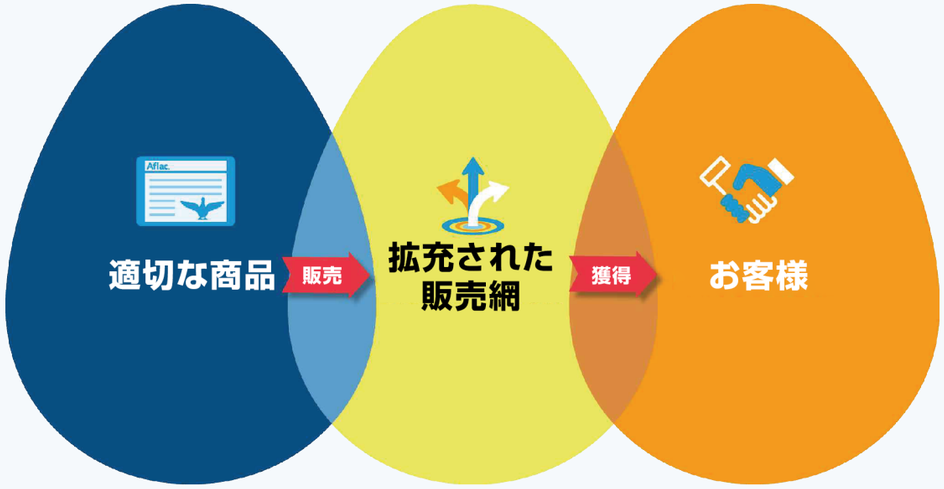
アフラック・インコーポレーテッド（以下「当社」）は、子会社を通じて世界中の数千万人ものご契約者及びお客様に経済的保障を提供しています。当社の主要な事業は補完医療保険及び生命保険事業であり、日米においてご契約者に最高の価値の商品を提供することを目標としています。70 年近くにわたり、当社子会社の保険契約は、ご契約者の皆様が経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。米国では、アフラックは補完医療保険商品 No.1 の会社です *。日本では、アフラック生命保険株式会社は、がん保険・医療保険の保有契約件数における最大手の会社です。

当社のゴール

日米両国のお客様に補完保険商品の分野で最高の価値を提供すること。

当社の長期的な成長戦略

米国と日本における当社の成長戦略は、長年にわたりシンプルかつ一貫したものです。当社は、お客様の主な健康保険ではカバーされない病気や医療の利用によって生じる思わぬ自己負担からお客様をお守りするための補完的医療保険を開発しています。また、お客様のニーズに合わせて、その他の任意保険、雇用主負担の健康保険及び生命保険商品も提供しています。さらに、当社は、代理店やブローカー、販売パートナー、あるいはお客様への直接販売など、お客様が保険に加入したいと思う場所で販売することにより、より多くのお客様を獲得することを目指しています。



* LIMRA 2023年米国補完医療保険総合マーケットレポート

目次

4 アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者ダニエル・P. エイモスからのメッセージ

6 本レポートについて

8 アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）について

10 アフラック（日本法人）
16 アフラック（日本法人）保険商品
21 アフラック(米国法人)
28 アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメント及びメンバーシップ

29 アフラック・インコーポレーテッド財務ハイライト

29 アフラック・インコーポレーテッド投資家情報
31 財務諸表からの抜粋
31 主要な業務指標

33 サステナビリティ・ハイライト

35 従業員の構成
35 コミュニティ投資とフィランソロピー

36 ガバナンス

37 取締役会による監督
37 アフラック・インコーポレーテッドの取締役会及び委員会体制
39 統合的リスク管理
40 倫理とコンプライアンス
40 報告

41 サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護

41 サイバーセキュリティガバナンス
42 サイバーセキュリティリスク管理
42 サイバーセキュリティコンプライアンス
42 セキュリティ運用
43 レジリエンシーと対応
43 セキュリティ意識向上とトレーニング

44 政治活動報告

45 資産運用

48 環境

48 アフラック SmartGreen
49 温室効果ガス削減とカーボン・ニュートラルの進捗
51 廃棄物の削減
52 エンゲージメント
54 スコープ1、スコープ2、スコープ3の温室効果ガス排出量
54 未来へのコミットメント

55 人財

56 従業員の健康増進とワーク・ライフ・バランス
58 従業員への感謝
59 従業員のエンゲージメント
60 人財開発
62 アフラックの人財

68 アフラックの戦略的フィランソロピー

68 アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター
70 *My Special Aflac Duck®*
73 アフラックペアレンツハウス
74 がん啓発活動

82 付録

82 GRI 内容インデックス
87 独立監査人によるレビューレポート
87 アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明

88 取締役及び経営陣

ダニエル・P. エイモスからのメッセージ

アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者

アフラックは、がん保険で知られる補完保険のイノベーターでありパイオニアとして、およそ 70 年にわたり、ご契約者の皆様が最も必要とされるときに寄り添うことをお約束してきました。私たちのゴールは、**日米両国のお客様に補完保険商品の分野で最高の価値を提供する**ことです。2024 年もまた、当社の経営陣、従業員、販売代理店チームがこの目標を達成するため、献身的にビジネスに取り組み続けた年であったことを大変誇りに思います。

アフラックは 2024 年、日本での創業 50 周年とニューヨーク証券取引所上場 50 周年という 2 つの大きな節目を迎えました。2025 年に向けては、創業 70 周年、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター開設 30 周年、アフラックダックの誕生 25 周年など、さらに重要な節目を迎えます。これらの注目すべき節目はいずれも、アフラックの商品が提供する経済的保障の持続的な価値を証明しています。しかし、最も重要なのは年数ではありません。人生で最も困難な時に経済的な保障と安心を提供することで、何百万人もの人々の生活にお役立ていただいているということを光栄に思っています。

ご契約者に価値を提供する一方で、当社の 2024 年の純利益は 54 億ドルに達し、希薄化後 1 株当たり純利益は 23.8% 増の 9.63 ドルとなりました。希薄化後 1 株当たり調整後利益 * は当社史上最高を更新する 7.21 ドル、為替の影響を除いた希薄化後 1 株当たり調整後利益 * は前年比 18.6% 増の 7.39 ドルとなりました。

好調な業績を背景に、私たちはビジネスを進化させ、改善する方法を検討し続けています。その一つが、日米両国における商品ラインナップの拡充です。日本では、6 月に資産形成と介護保障などのオプションを組み合わせた「ツミタス」を発売しましたが、いまだその勢いは衰えていません。「ツミタス」の投入は、新たに若中年層のお客様を獲得すると同時に、当社の第三分野の保険商品をご案内するという戦略の一環です。米国では、団体生命保険、休業管理、就業不能保険事業を引き続き拡大しました。また、ネットワーク歯科保険の運営を第三者に移管したことで、この保険と併せて販売されている任意保険も成長させることができると考えています。さらに、引受規律の強化を通じて、より収益性の高い成長に引き続き注力しました。

2024 年は 42 年連続の増配となったことを嬉しく思います。私たちは増配の実績を大切にしており、強固な資本とキャッシュ・フローにより今後もその継続に努めていきます。前四半期に、取締役会は 2025 年第 1 四半期の配当を 16% 増の 0.58 ドルに増配し、この記録の継続に道筋をつけました。さらに、当社は戦術的な自社株買いのアプローチを継続し、2024 年に 3,000 万株以上の自社株を買い戻すために 28 億ドルの資本を投入しました。配当と合わせると、2024 年は 39 億ドルを株主に還元したことになります。同時に、業界で最も高い資本収益率と最も低い資本コストを誇る一社であり続けています。

アフラック・インコーポレーテッド及びアフラック(米国法人)社長のヴァージル・ミラー(右)は、クレムソン大学フットボールヘッドコーチのダボ・スウィニー(中央)と共に、小児がん患者の孤独感を和らげる対話型のスマートなパートナー、*My Special Aflac Duck*®を贈呈しました。*My Special Aflac Duck*が、小児がん患者の治療に伴う苦痛や不安の軽減を手助けするという、私たちの期待どおりの効果を上げていることを示す臨床研究の情報については、72ページをご覧ください。

アフラックが正しいことをすることに注力しながら、これほどの成功を収めたのは偶然ではないと思います。実際、すべての条件が同じであれば、多くの人は良き企業市民でもある企業と取引することを選ぶと信じているのです。私たちはこれを「The Aflac Way」と呼び、当社の企業文化、日常業務、そして私たちを日々お役立ていただいているコミュニティとの交流の基礎となる一連の行動指針としています。

ご契約者が私たちを最も必要としているときに寄り添うこと、小児がんに向き合うご家族に手を差しのべること、多様な従業員や販売チャネルに機会を提供すること、環境への影響に配慮すること、そして株主価値をお守りすること――こうした当社のアプローチは正しい行いというばかりでなく、ビジネスとしても理にかなったものであると確信しています。ひいては、お客様、従業員、販売部門、投資家などの人々に、当社の一翼を担いたいという気持ちを強めていただくことになると考えています。

The Aflac Wayを基盤として、当社は、特に戦略的重点分野である「多様で生産性の高い販売網」、「認知度、信頼度、ブランド力の高さ」、「適切で必要とされる商品」、「安定した収益と強力なキャッシュ・フローに裏付けられた強固な資本基盤」、「日米で業界をリードするマーケット・シェア及び規模」をてこに、持続可能な成長に向けた基盤の構築に継続的に取り組んでいます。

敬具

ダン・エイモス

会長兼最高経営責任者

* 調整後利益は、調整後収益から保険金給付金及び調整後費用を差引いたものです。1株当たり調整後利益(基本あるいは希薄化後)は、当該期間の調整後利益を期中の加重平均発行済株式数(基本あるいは希薄化後)で除したものです。収益及び費用に対する調整は、予測不能あるいは経営のコントロールが及ばない一部の項目から構成されています。調整後収益は、調整後資産運用損益(純額)を除いた米国会計基準(米国GAAP)ベースの収益合計です。調整後費用は、社債等に係るデリバティブからの金利キャッシュ・フローへの影響を含み、当社の保険事業の通常の業務に関係せず当社の基礎となる業績を反映しない非経常的損益及びその他の損益を除く、米国GAAPベースの新契約費及び事業費の合計です。当社経営陣は、当社の連結ベースの保険事業の財務業績を評価するにあたっては、調整後利益及び希薄化後1株当たり調整後利益を用いています。また、これらの財務指標を表示することは、当社の保険事業に内在する利益の原動力や傾向を理解するに際して、極めて重要であると当社経営陣は確信しています。調整後利益及び1株当たり調整後利益(基本あるいは希薄化後)と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ当期純利益及び1株当たり当期純利益です。当期における為替変動の影響を除く調整後利益は、比較対象の前年同期における平均為替レートを用いて計算されており、これにより、為替レートの変化のみによってもたらされる変動を消去しています。当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は、当該期間の為替変動の影響を除く調整後利益を期中の加重平均発行済株式数(希薄化後)で除したものです。当社は、当期における為替変動の影響を除く調整後利益及び当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益は重要であると考えています。なぜなら、当社の事業の重要な部分は日本で行われており、為替レートは経営のコントロールの及ばないものだからです。したがって、当社は米ドルに対する為替換算(主として日本円)の影響について理解することは重要であると考えています。当期における為替変動の影響を除く調整後利益及び当期における為替変動の影響を除く希薄化後1株当たり調整後利益と最も比較可能な米国GAAPの財務指標は、それぞれ当期純利益及び1株当たり当期純利益です。1株当り調整後利益の7.21ドルには、1株当り調整後資産運用益(純額)の2.65ドル、その他及び非経常益の0.04ドル、調整後利益への調整項目に係る法人税費用の0.18ドル、及び為替変動による影響の0.18ドルが含まれていません。

本書では、アフラック・インコーポレーテッドの事業を総称して「アフラック」または「当社」、当社の米国事業を「アフラック(米国法人)」、当社の日本事業を「アフラック(日本法人)」と表記する場合があります。

本レポートについて

アフラックでは、全社的なサステナビリティに係る戦略と活動について、オープンで透明性の高い報告に努めており、そのために、パーパス（企業存在意義）とパフォーマンス（業績）を両立させる当社の継続的な取り組みをまとめています。「ビジネス&サステナビリティレポート」は、従業員、お客様、投資家、地域社会、そして地球に与える影響を当社がどのように測定し、管理しているかという情報とともに、当社の事業内容と財務業績を統合したものです。

報告範囲と境界

本レポートは、アフラック・インコーポレーテッドとその事業セグメントであるアフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）の環境、社会、ガバナンスに関する戦略、進捗、データ、及び成果に係る、財務情報及び非財務情報を記載しており、特に記載のない限り、2024 年度（1 月 1 日から 12 月 31 日まで）の情報です。財務情報は、特段の記載がない限り、すべて米ドル建てで表示されています。その他の当社のサステナビリティ活動やその開示情報については、当社ウェブサイトの投資家向け情報セクションの「サステナビリティ」をご覧ください。

本レポートでは、「アフラック」、「私たち」または「当社」という用語は、アフラック・インコーポレーテッドを指します。「アフラック（米国法人）」とは、当社の米国保険子会社であるアメリカン・ファミリー・ライフ・アシュアランス・カンパニー・オブ・コロンバス及びその完全子会社であるアメリカン・ファミリー・ライフ・アシュアランス・カンパニー・オブ・ニューヨーク（アフラック・ニューヨーク）、アフラック団体保険のブランド名を用いるコンチネンタル・アメリカン・インシュアランス・カンパニー（CAIC）、ティアワン・インシュアランス・カンパニー（TOIC）、及び米国でアフラック・デンタル&ビジョンのプラットフォームを提供するアフラック・ベネフィット・ソリューションズ・インク（ABS）を総称したものです。「アフラック（日本法人）」とは、事業セグメント及びその主たる保険子会社であるアフラック生命保険株式会社を指します。

基準と枠組み

本レポートの内容は、正確性、バランス、明瞭性、比較可能性、信頼性、及び適時性の原則に則って定義されています。

本「2024 年ビジネス&サステナビリティレポート」は、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）を含む、いくつかの主要な報告フレームワーク及び基準に準拠しています。特に本レポートは、IFRS S2「気候関連の開示」（気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の勧告を包含）、国連の持続可能な開発目標（UN SDGs）、グローバル・レポーティング・イニシアティブ（GRI）に準拠しています。

当社は、事業にとって最も重要な情報の開示に重点を置いています。これらの基準に沿った開示は、指標ごとに本レポート内及び付録に注記されています。

アフラック・インコーポレーテッドは、2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの期間において本レポート及び GRI 内容インデックスに引用されている情報を、2023 年 GRI 基準を参照して報告しています。環境データは 2023 年のものです。

本レポートでは、アフラック・インコーポレーテッドとそのステークホルダーにとって最も重要な問題を反映するため、前記の報告の枠組みが「重要トピックス」と呼ぶ用語を含む特定の用語を使用しています。こうした文脈で使用されるこれらの用語は、証券取引法により定義・解釈される、あるいは財務諸表や財務報告の文脈で使用される「重要な」または「重要性」などの用語と混同されるべきではありません。

アフラックは、本レポートについて、第三者による検証を求めておらず、データを内部検証する方法をとっている点にご留意ください。

本レポートに関するご質問やご要望は、AflacIR@aflac.com までお寄せください。

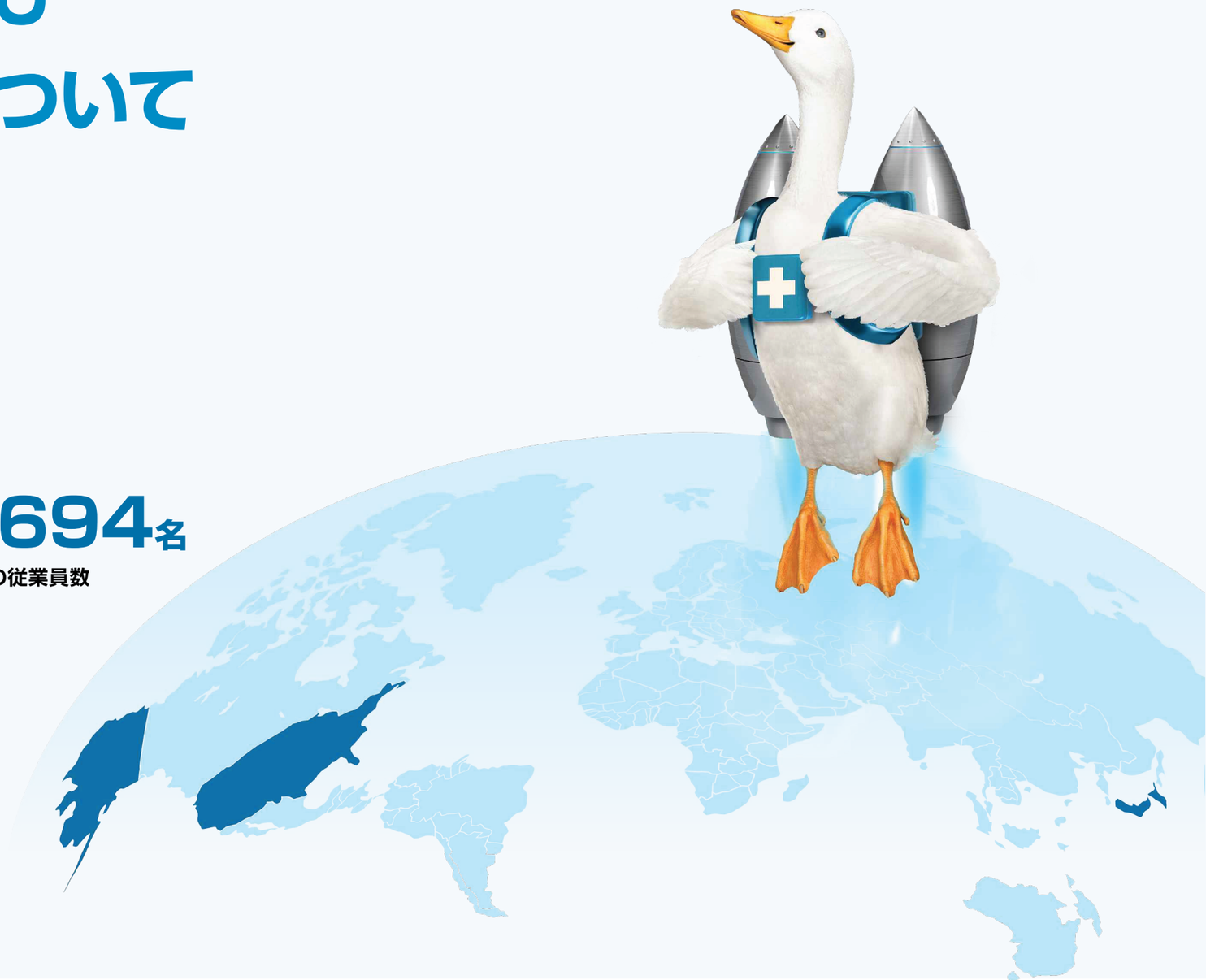
予測情報について

1995 年の私募証券訴訟改革法は、企業が将来の見通しに関する情報を提供することを奨励する「セーフ・ハーバー（免責条項）」を定めています。ただし、これらの情報提供に関する記述が将来予測に関する記述（forward-looking statement）として特定され、実際の結果が将来予測に関する記述に含まれるものと大きく異なる可能性のある重要な要因を特定する意味のある注意喚起がなされている場合に限ります。当社は、この規定を活用したいと考えています。

本書は、将来予測と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある重要な要素を記した注意事項を記載しています。こうした将来予測は、本書の中、あるいはアナリストと当社役職員との議論、米国証券取引委員会（SEC）に提出された文書の記述に含まれています。

将来の見通しに関する記述は、過去の情報に基づくものではなく、将来の事業、戦略、財務業績及びその他の進展事項に関するものです。更に、将来予測に関する情報は、さまざまな仮定や、リスク、不確定要素から影響を受けます。特に、「期待する」「予想する」「確信している」「目標」「目的」「可能性がある」「はずである」「推定する」「意図する」「見積もる」「するつもりである」「仮定する」「潜在的」「目標」「見通し」、あるいはその他の類似した言葉を含む記述、また将来の結果についての特定の予測は、一般的に将来予測に関する記述です。当社は、将来予測に関する記述について、最新情報を提供する義務を負いません。将来予測に関する記述に含まれる内容と大きく異なる結果を引き起こす可能性がある、前提、リスク、不確実性及びその他の重要な要素の詳細については、SEC に提出した当社の最新のフォーム 10-K 及びフォーム 10-Q をご参照ください。

アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）について



高品質の補完保険商品を提供するリーディング・カンパニー

ご契約者が当社を最も必要とするときに寄り添い、お役立ていただくという約束を守り、The Aflac Way に即した事業を展開することで、当社は公正かつ迅速な保険金のお支払いを期待されている世界中の数千万人のご契約者、お客様からの信頼を得ています。

No.1
日本におけるがん・医療保険の保有契約件数

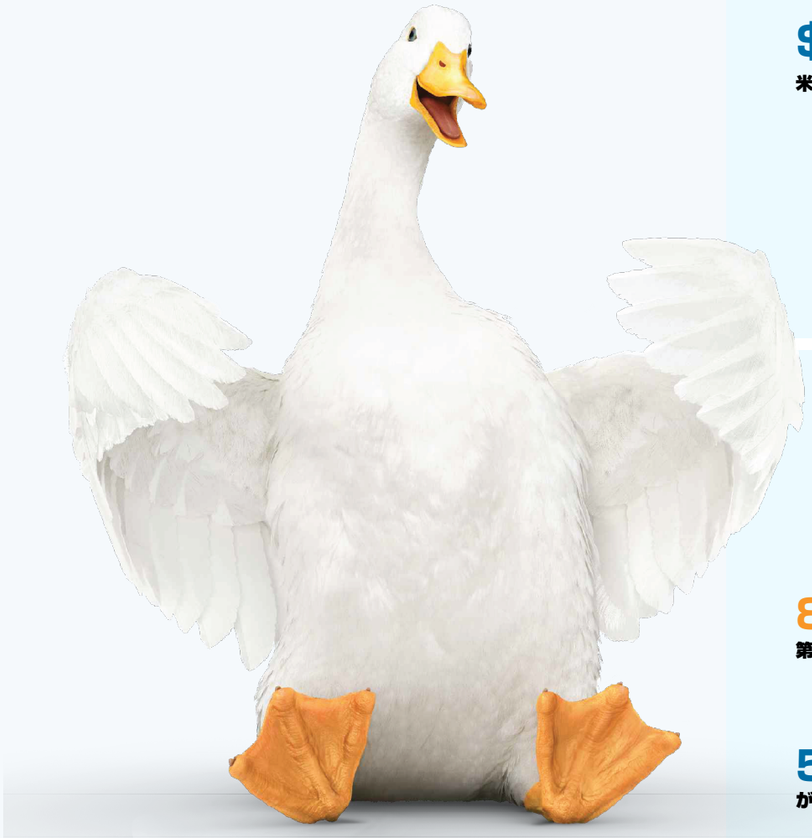
No.1
米国の職域における補完医療保険分野

12,694名
2024 年度の従業員数

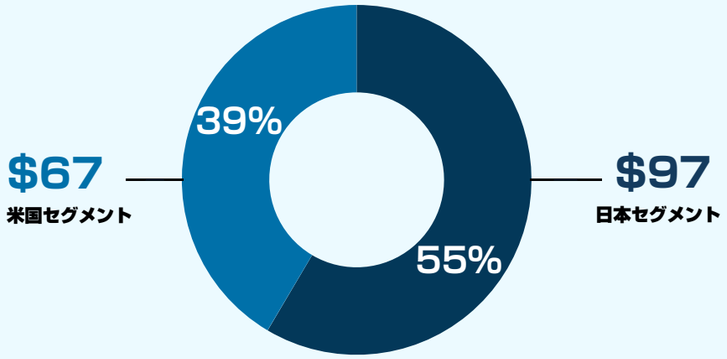
575億ドル*
株式時価総額

189億ドル
2024 年度の収益

* 2024年12月31日の終値に基づく。

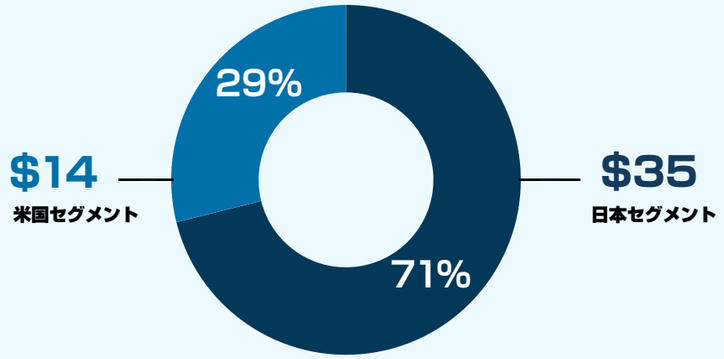


2024年度 調整後収益
（億ドル）[*1]



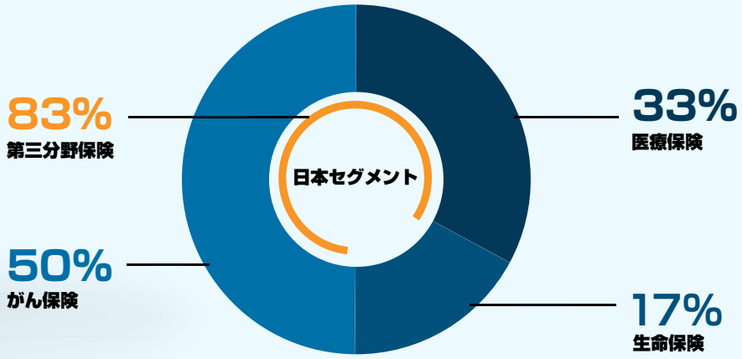
*1 全社（アフラック（日本法人）及びアフラック（米国法人）を除く）及びその他は、2024年の調整後収益の6%に相当する10億ドル

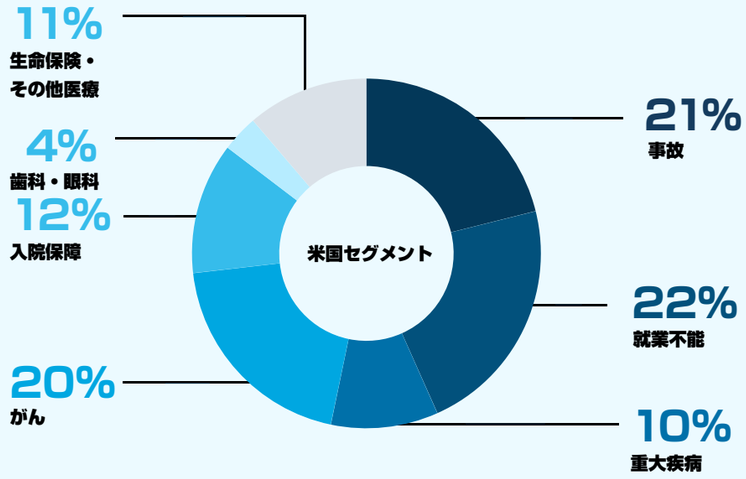
2024年度 税引前調整後利益
（億ドル）[*2]



*2 全社（アフラック（日本法人）及びアフラック（米国法人）を除く）及びその他は、2024年に32百万ドルの税引前調整後利益を計上

2024年度 保険料収入（純額）の内訳





アフラック（日本法人）

アフラック（日本法人）について

1974 年、アフラック（日本法人）は日本で初めてがん保険を提供する保険会社として創業し、2024 年で創業 50 周年の節目を迎えました。また、現在、がん保険・医療保険の保有契約件数において、日本の最大手の保険会社となっています。アフラック（日本法人）は、こうしたがん保険や医療保険の第三分野商品を始め、資産形成や介護等老後保障、死亡保障といった第一分野商品において、お客様のニーズに応える商品・サービスを統合的に提供しています。

アフラックは、1974年に日本での事業許可を取得し、同年11月15日に日本初のがん保険とともに営業を開始しました。写真は、福田 赳夫 副総理（右）がアフラックの設立披露パーティーで鏡割りを披露したところです。中央はアフラックの創業者であるジョン・B.エイモス氏、左はアフラック初代日本支社長の渡部 信社長。

2024 年、アフラック（日本法人）は、税引前調整後利益 5,277 億円、強固な利益率 36.0%と、全般的に堅調な財務業績を残しました。これらの業績は、保険金給付金及び調整後事業費合計額の減少、93.4% という健全な契約継続率に支えられています。

2024 年 6 月には、老後に備える資産形成ニーズと、介護等老後の保障ニーズの両方を満たす商品、「ツミタス」の発売によりお客様へご提供する商品ラインアップを強化しました。ライフステージに応じたお客様のニーズに応える商品やサービスを統合的に提供し、2024 年の新契約年換算保険料は前年比 5.6%増加しました。加えて、ビジネスパートナーとの協創関係を深化させ、代理店の支援に力を入れています。

アフラック（日本法人）は、日本での創業 50 周年を迎え、「“『生きる』を創る”ことで新たな共有価値を創造する」という新たな長期経営ビジョンを策定しました。このビジョンは、アフラック独自の資源や専門性を活用し、お客様のニーズを満たしながら、長期的な経済価値を創造することで社会的課題に取り組むというアフラックの実践を強調するものです。私たちは、お客様本位の業務運営を実行するとともに、「生きるための保険」はもちろんのこと、保険を超えた価値を創造するリーディング・プロバイダーであることを目指しています。

＜がん保険＞最初のパンフレット

2024年 アフラック（日本法人）財務ハイライト

税引前調整後利益
15.5%増加

5,277億円

税引前利益率
550bp上昇

36.0%

ソルベンシー・マージン比率

1,221%

保険料収入（純額）*
6.9%減少

1兆500億円

調整後投資収益（純額）
12.1%増加

4,099億円

調整後収益
2.3%減少

1兆4,640億円

保険金給付金比率
350bp低下

62.5%

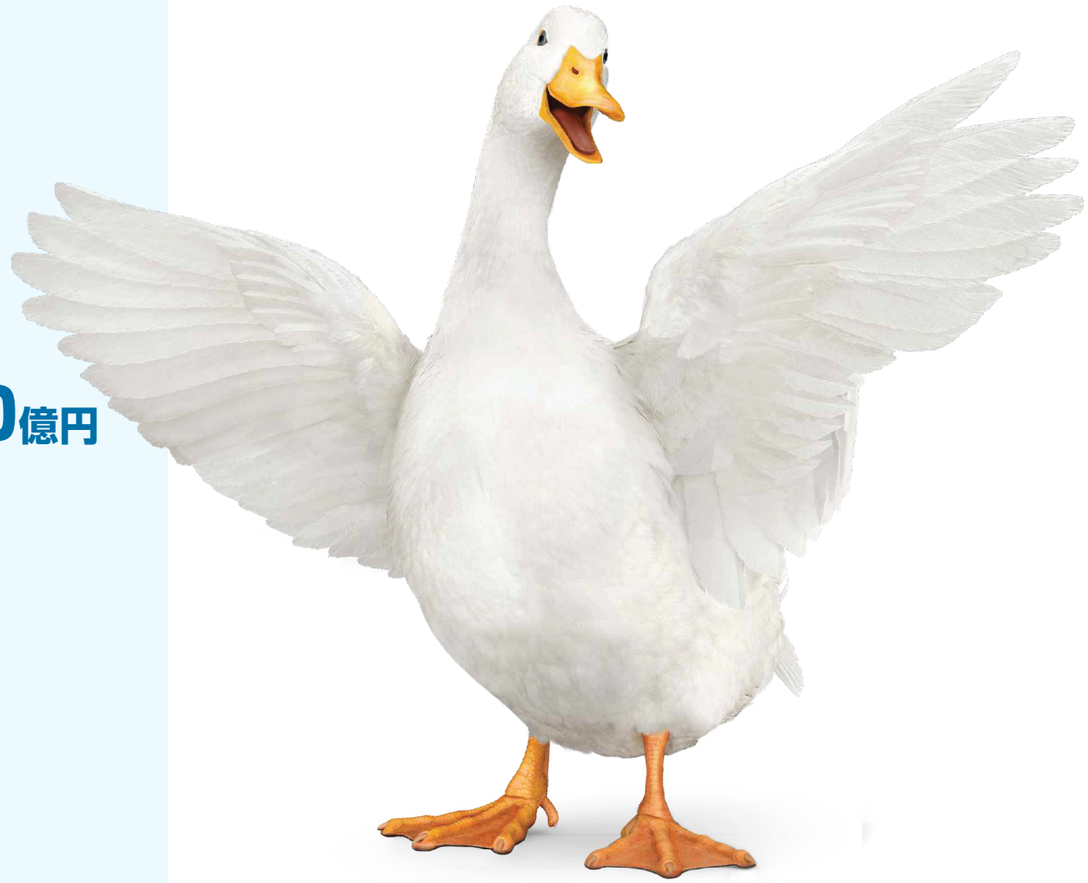
事業費率
70bp低下

19.1%

契約継続率

93.4%

* 保険料収入（純額）は出再保険控除後



日本のお客様との接点となる販売網

アフラック（日本法人）では、お客様が保険の加入を決めたいとお考えになる場所に、当社が存在することが非常に重要だと考えています。その点で、アフラックの多面的な販売網は、日本で最も強力なものの一つであり続けていると確信しています。

アフラック（日本法人）は、日本においてがん保険・医療保険の最大手保険会社ですが、今後もさらに多くのお客様との接点を持つことができると考えています。これを実現するのは、革新的な商品、強力なブランド力、そして幅広い販売網です。個人代理店、独立法人代理店及び系列法人代理店などのアフラック（日本法人）の伝統的な販売チャネルは、2024 年の販売の非常に大きな部分を占めましたが、今後も私たちの成功の鍵を握っています。さらに、日本郵政グループ（日本郵政株式会社、日本郵便株式会社、株式会社かんぽ生命保険）、第一生命保険株式会社及び大同生命保険株式会社との提携を通じて、より多くのお客様に当社がん保険をご案内できる体制を構築しています。

お客様の保険相談・申込みに関するニーズの変化に対応するため、アフラック（日本法人）では、お客様が保険相談から申込みまでオンラインで完結できる仕組み「アフラックのオンライン相談」も導入しています。訪問や来店が困難な遠隔地のお客様への案内など、既存の対面による販売手法と組み合わせて効果的に活用する例も増えています。今後は、多様なチャネルを持つ当社の強みを生かし、お客様へさらに革新的なソリューションを提供していきます。

アフラック（日本法人）の販売チャネル

伝統的な販売チャネル*

アフラック（日本法人）は 2024 年 12 月末現在、約 6,600 店の代理店と提携しており、個人代理店を含めて約 114,000 人の募集人が従事しています。

業務提携

日本郵政グループ

2024 年現在、アフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っている日本郵便の郵便局の数は 2 万局を超えています。かんぽ生命では法人領域を担当する 76 の支店と、個人領域を担当する 623 のかんぽサービス部を通じて当社のがん保険を取り扱っています。

第一生命保険株式会社

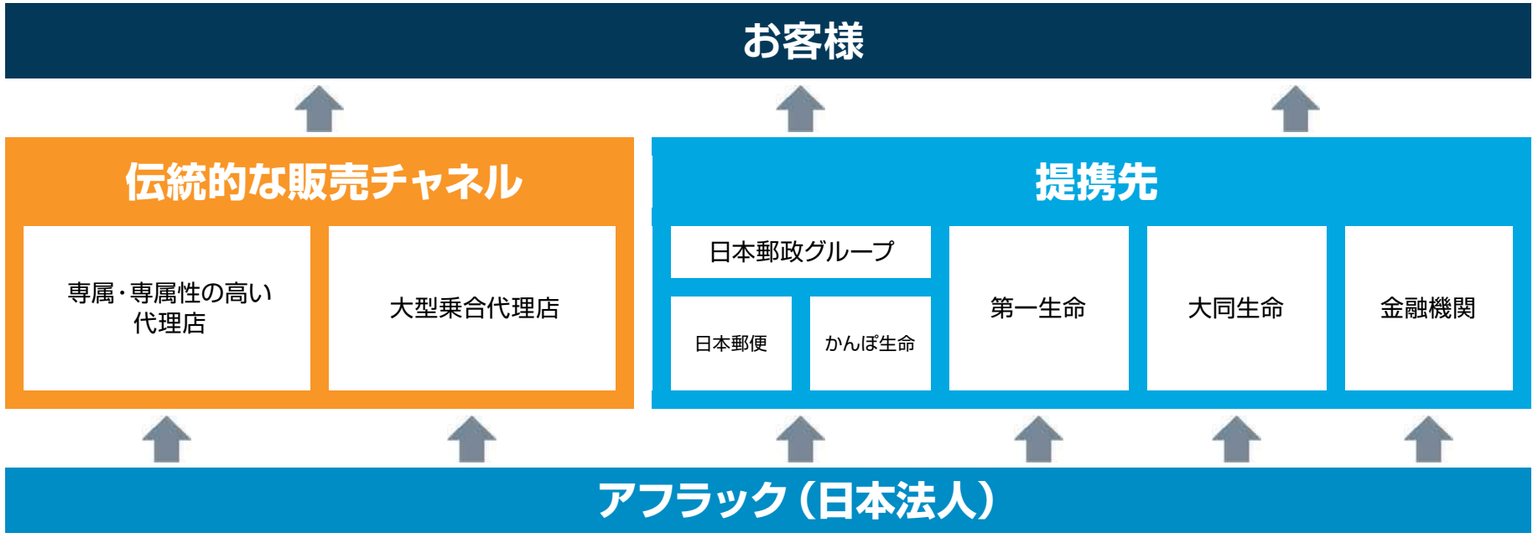
2001 年に、第一生命保険相互会社（現 第一生命保険株式会社）との業務提携を開始し、現在、約 3.7 万人にのぼる第一生命の「生涯設計デザイナー」が、アフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っています。

大同生命保険株式会社

2013 年、大同生命保険株式会社は、法人会において当社がん保険の取り扱いを開始しました。また、2018 年からは、近畿 2 府 4 県の納税者団体である納税協会においてもアフラック（日本法人）のがん保険を取り扱っています。

金融機関窓販

2024 年 12 月末現在、国内金融機関の約 9 割にあたる国内 360 の金融機関と提携しています。



* 個人代理店、独立法人代理店及び系列法人代理店を含む。

株式会社プラウド：アフラック専属代理店

株式会社プラウドは、2002 年に設立されたアフラック専属の独立法人代理店であり、代表取締役社長の菅 俊哉さん、専務取締役の菅 純子さんが率いています。現在、プラウドには 34 名の社員が在籍しており、そのうち 31 名が東京の多摩地区において来店型ショップ、訪問販売、そして最近では法人営業を通じて保険を提供しています。毎朝のオンライン・ミーティングを通じて、菅社長からオープンでダイレクトなコミュニケーションが行われ、すべての社員は常につながりを保ち、情報を共有し、また意欲を高めています。

プラウドは、1）お客様に信頼され、お客様に貢献できる企業、2）社員が仕事・プライベート共に充実させ長く働ける企業、3）感謝を忘れず常に環境変化に適応して成長し続ける企業を目指しています。ここ数年、世界的なパンデミックや物価上昇など、さまざまな変化がありましたが、菅社長は結果を出すための解決策を考案し、これらの課題を克服することに全力を注いでいます。

「私たちはお客様に対し、他社と比較した際の当社の強みは、総合的なサポートにあることを強調しています。最初は医療保険のみを検討されるお客様が多いのですが、私たちはがん保険も併せてご提案し、ご加入いただくことがあります。実際に、がんと診断された際に医療保険だけでは十分な保障が得られないため、感謝のお言葉をいただくことがあります。」

写真左から: 調布店店長の梅原 純子さん、代表取締役社長の菅 俊哉さん、専務取締役の菅 純子さん。

優れたお客様サービスの重要性を強調しながら、調布店店長の梅原 純子さんは次のように述べています。「保険という商品を通じてお客様のお役に立つことが私の使命だと感じています。数ある保険会社の中からなぜアフラックをお選びいただいたのかお客様にお伺いすると、『家族がアフラックの保険に加入していて、がんになった際に迅速に保険金が支払われ、助けられたから』というお声をよくいただきます。」

日本郵政グループの概要

日本郵政株式会社とアフラック・インコーポレーテッド及びアフラック（日本法人）は長年にわたり、日本郵便株式会社や株式会社かんぽ生命保険とともにがん保険に関するさまざまな取り組みを通じて、戦略提携に基づき強固な信頼関係を確立してきました。

日本郵政グループは、郵便サービス、金融商品、保険など、さまざまな商品を日々お客様にご案内しています。

アフラックは、広範なネットワークを持つ日本郵便及びかんぽ生命を通じてがん保険を提供している唯一の保険会社です。

写真左から：伊予三島郵便局かんぽサービス部の山下 師生 部長、藤本 英行 担当課長。

株式会社かんぽ生命保険
伊予三島郵便局かんぽサービス部の皆さん

製紙工場が多く「紙のまち」として知られている愛媛県の四国中央市にある伊予三島郵便局かんぽサービス部の皆さんは、一人でも多くの四国中央市のお客様に保険商品を通して将来の安心をお届けすることを使命としています。その使命を果たすため、山下 師生 部長のリーダーシップのもと、日々お客様のご自宅やお勤め先に訪問をしています。アフラックのがん保険はかんぽ生命の商品に対して保障領域の補完的役割を担っているため、かんぽサービス部の皆さんはお客様のために自信をもって営業活動に取り組んでいます。

日々の朝礼でも、「大人も子どももがんを知る本」などのがんやがん治療に関する書籍の読み合わせをしたり、書籍からクイズを出し合うなど、部全体での知識習得に取り組んでおり、習得した知識を多くのお客様にお届けしています。

「大人も子どももがんを知る本」

アフラック日本法人は、日本におけるキャンサーエコシステムの構築に向けた取り組みの一環として、放射線治療・緩和ケアの専門医とともに、大人と子ども向けのがんに関する情報をまとめた書籍を作成しました。この本では、がんの原因や最新の治療法に加え、「心の痛み」のケア等などについて触れるとともに、就労支援など社会全体でがん当事者を支える重要性について、絵を用いて分かりやすく説明しており、がん検診受診の推進や研修会、さらには学校教育機関におけるがん教育などで活用されています。

藤本 英行 担当課長（写真）は、保険という商品の力で地域のお客様をお守りしたいという想いで提案活動に取り組んでいます。がんに対する備えをより万全にしていただくために、がん治療にかかる特徴（例えば近年がん治療において通院は増加傾向にあることなど）をお客様にお伝えし、かんぽ生命の医療保障に加えてアフラックのがん保険をセットでご提案をしています。

お客様の中には、身近にがんを経験されたことがある方も多く、そのときのご様子をお伺いしながら、がん保険で備えていただくことの重要性とともに、アフラックのがん保険が最新のがん治療に対応した保障を備えていることをお伝えしています。

株式会社山形銀行

日本の地方銀行である山形銀行は、1896 年の創業以来、世代を超えてお客様との信頼関係を築いてきました。山形県を中心に 1,000 名以上の行員が在籍し、店舗及び訪問を通じてお客様にサービスを提供しています。

山形銀行は 2008 年にアフラックの保険商品の取り扱いを開始し、現在では約 100 名の行員が 30 店舗でアフラックの商品を提供しています。取扱商品には、アフラックのがん保険、医療保険、介護保険、学資保険、「ツミタス」などがあります。

写真左から：山形南営業部の金子 美咲さん、山形南営業部 チーフライフコンサルタントの田中 茜さん、上山支店の横山 紅さん。

山形銀行のシンボルマークはさくらんぼです。さくらんぼは、山形に移植されて以来、100年以上の歴史をもち、「県の木」にも指定されています。山形銀行とお客様がともに手をとりあい、発展していく姿を図案化したものです。

山形銀行では、チーフライフコンサルタント（CLC）というリーダー職を設置し、個人･リテール分野の推進統括者としてスタッフの管理･育成を行っています。CLC は、各販売ブロックに 1 名ずつ配置されており、田中さんは山形南ブロックの CLC を担っています。田中さんは、お客様が困ったときやライフステージが変わったときに相談したくなるような存在を目指しています。「ただ保険を販売するだけでなく、契約後のフォローを大切にしています。アフラックは日本におけるがん保険の最大手であり、そのブランド認知度と高い格付により、お客様に安心して保険にご加入いただけています」と語ります。

横山さんは、「ネットで何でもできてしまう時代に、直接お客様にお会いしてお話をさせていただけることは地域に根ざした活動の醍醐味です。お客様が話しやすい雰囲気づくりを心がけています」と語ります。金子さんはさらに、「まず私が自分の体験談を話すことで、お客様も喜んでお話ししてくださることが多いです。そのため、家族の話も含め、私自身の話をよくしています。商品中心の提案ではなく、お客様の背景をよく伺い、お客様のニーズに合わせた提案をすることを大切にしています」と付け加えました。

お客様との関係構築について、山形南営業部の金子さんは「信頼関係がなければ、お客様はお金のことを相談しにくいものです。仕事を通じてお客様のお役に立ち、地元山形の支えになれていることが誇りです」と述べています。

お客様一人ひとりと対話を重ねることで、お客様の金融ニーズをサポートしています。

アフラック（日本法人）保険商品

商品戦略の概要

日本では、国民皆保険制度のもと、国民に標準的な医療保障が提供されています。少子高齢化が急速に進行する中で、この国民皆保険制度は財政負担が増加しており、医療費の増加は生活者の経済的な負担の増大につながっています。結果として、生活者は、医療費の自己負担額の増加など、より大きな経済的な負担を余儀なくされており、こうした費用を軽減するため、お客様の第三分野保険へのニーズが高まっています。このような経済的負担を和らげる解決策となっているのが、アフラックという信頼性の高いブランドと、高い評価をいただいている保険商品です。アフラック（日本法人）の商品ポートフォリオの基盤は、がん保険や医療保険といった第三分野保険です（次ページ以降の商品一覧をご参照ください）。アフラック（日本法人）は、時代とともに変化するお客様のニーズや、医療の進歩、さらには日本の社会保障制度の変化に、時には先手を打って対応しながら、商品の改良を進めています。第三分野保険に重点を置きながらも、お客様の死亡保障に加え、資産形成や介護といった老後保障などのニーズに応える商品・サービスを統合的に提供しています。

2024 年の商品戦略では、主に 3 つの取り組みを通じて、ご契約者に価値を提供していきます。

第一に、基幹商品であるがん保険の推進です。がん保険は、最新のがん治療に対応した＜「生きる」を創るがん保険 WINGS＞*と、がんの疑いから社会復帰までを包括的にサポートするコンシェルジュサービスである「アフラックのよりそうがん相談サポート」により、保障とサービスを統合的にお客様へご提供しています。「よりそうがん相談サポート」の相談窓口では、がん患者とそのご家族に、一人ひとりのがん患者に合ったサービスや情報を提供することで、治療法の選択や療養、意思決定などをサポートします。

* 2025年3月にがん保険の新商品「ミライト」を発売しました。

第二に、医療保険の推進です。日本の公的医療保険制度における自己負担上限額と整合した保障を実現し、月ごとの自己負担額に備えられる月額保障に加え、日々の健康づくりから老後までをトータルにサポートする「ダックの頼れるサービス」が一体となった「REASON」の販売を推進します。

第三に、資産形成商品（「ツミタス」や「WAYS」）と第三分野商品による総合保障提案の推進です。資産形成や介護等、高まる老後の保障に対するニーズに応えるため、「ツミタス」を発売し商品力を強化しました。これらの商品と第三分野商品を併せた総合保障提案によって、お客様にライフステージごとのリスクに応じた最適な保障を提供していきます。また、ご高齢者の暮らしや介護にまつわるお悩みやお困りごとに寄り添い、課題の緩和や解決のサポートをワンストップで行う「くらしと介護サポート」のサービスも提供し、お客様がより充実した人生を実現することをサポートしていきます。

これからも、独自の資源と専門性を活かして当社が向き合うべき社会的課題の解決に最大限努力し、新たな共有価値を創造することで、ステークホルダーの皆様からの期待と信頼に応えていきます。

さらに、アフラック（日本法人）は新商品を開発し、革新的なチャネルを通じて新たな市場を開拓することを検討しています。例えば、以下のようなものです。

2021 年 2 月、アフラック（日本法人）は「SUDACHI 少額短期保険株式会社（現：アフラック少額短期保険株式会社）」を設立しました。アフラック少額短期保険株式会社は、日本におけるアフラックの商品ラインアップを拡大し、多様化するお客様のニーズに応える可能性のある保険商品を柔軟に開発するためのインキュベーションプラットフォームです。

このように、アフラック(日本法人)は、「生きるための保険」はもちろんのこと、保険を超えた価値を創造するリーディング・プロバイダーを目指していきます。

第三分野保険商品

がん保険

1974 年、当社は、日本で初めてがん保険を発売しました。以来、今日に至るまで、当社はがん保険 No.1 の保険会社です。日本初のがん保険を発売してから継続して医療環境の変化や重度の病気による潜在的な経済負担、ヘルスケアと医療技術の進歩などに対応するために、がん保険に改良を重ねてきました。お客様に革新的で適切な価値ある商品を提供するという当社のコミットメントのもと、2022 年 8 月に<「生きる」を創るがん保険 WINGS >* を発売しました。2023 年 1 月には、がん経験者向けプランの取扱いの開始に加え、がんの疑いから社会復帰までを包括的にサポートする新たなサービス「アフラックのよりそうがん相談サポート」も、提供を開始しました。

*2025年3月にがん保険の新商品「ミライト」を発売しました。

写真のCMでは、27歳で卵巣がんを経験された方のリアルなエピソードから、がん罹患時にはお金の悩みはもちろん、お金以外の治療選択や副作用の悩みなどがあることを伝え、アフラックのがん保険は、幅広い保障で応え、相談で支えるサービス統合型がん保険であることを紹介しています。

医療保険

2002 年の初めに、当社は、<一生いっしょの医療保険 EVER >を発売しました。この商品は、公的医療保険制度において自己負担部分の増加に直面している日本の皆様に、解決策の一つとしてお役立ていただくために開発した単品の終身医療保険です。「EVER」の発売から 1 年で、アフラックは当時、日本における医療保険の販売最大手となりました。

2024 年 8 月には、日本の公的医療保険制度における自己負担上限額と整合した保障を実現し、月々の支払いが必要となる医療費に備えられる月額保障に加え、日々の健康づくりから老後までをトータルにサポートする「ダックの頼れるサービス」が一体となった<新しい形の医療保険 REASON >へ刷新しました。この商品は、充実した特約ラインアップにより、お客様のニーズに合わせた保障を提供しています。

写真のCMでは、これまでの医療保険では払拭しきれなかったお客様の不安の声を紹介し、医療保険を刷新する必要性を伝えています。そして、アフラックだからできる挑戦として、月ごとの治療費の自己負担額に備えられる月額保障と、日々の健康づくりから老後までトータルに頼れるサービスが一体となった、誰にとってもちょうどいい新しい形の医療保険が誕生した背景を描いています。

介護保険

2021 年 9 月、当社は、介護保険の新商品<アフラックのしっかり頼れる介護保険>を発売しました。この商品は、公的介護保険制度を踏まえた自己負担相当額をカバーする補完保険です。お客様にとって分かりやすい合理的な保障を、手頃な保険料で提供しています。

第一分野保険商品

以下を含む生命保険商品：

保障性商品

定期保険及び終身保険

1996 年、当社は、初めて定期保険及び終身保険を発売しました。これらの商品は、比較的少額の死亡保障を提供するもので、単品または特約の形で販売されています。2018 年には、低解約返戻金で、非喫煙者には割引保険料を適用する、保険料負担を抑えた「かしこく備える終身保険」も発売しました。「かしこく備える終身保険」は、2024 年 12 月に料率改定を行い、商品力を強化しました。

GIFT

2009 年、当社は、「GIFT」を発売しました。この商品は、被保険者がお亡くなりになった時に、受取人（一般的にはご家族）に対し毎月給付金をお支払いするもので、給付期間は、被保険者がご存命であった場合に、加入時に定めた年齢に達するときまで続きます。2017 年 2 月に「GIFT」を改定しました。

資産形成商品*

ツミタス

2024 年 6 月、当社は、「ツミタス」を発売しました。「ツミタス」は、資産形成機能や介護等の保障を有しているため主に老後に備える保険です。円建てで将来の受取額が契約時に確定するため、安定的な資産形成を希望するお客様のニーズにお応え出来ることに加え、老後の介護や病気をはじめとする様々な保障ニーズにお応えすることが出来ます。

写真のCMでは、多くの人が抱えている見通しのきかない未来への不安を描き、「着実に増やせる資産形成」と「あとから選べる保障」が一つになった「ツミタス」が、その不安を解消する「堅実で柔軟な安心」を提供する革新的な商品であることを伝えています。

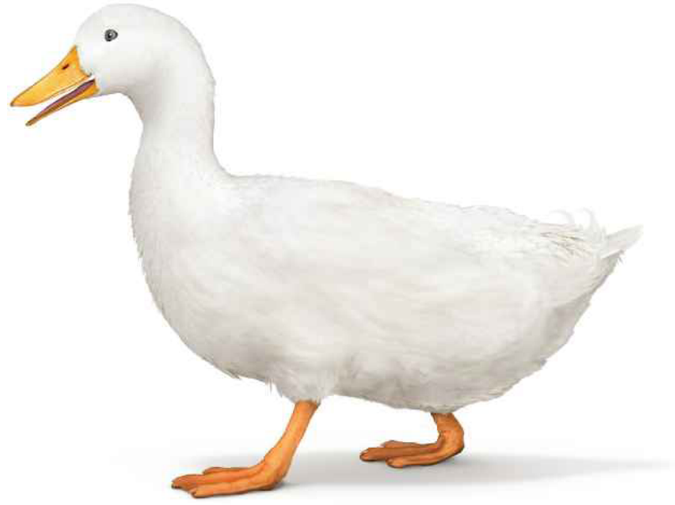
* アフラック（日本法人）は、第三分野商品と併せた総合保障提案を主たる目的として、資産形成商品の販売を行っています。

WAYS

2006 年、当社は、「WAYS」を発売しました。「WAYS」では、ご契約者があらかじめ定めた年齢に達した時に、保障を年金、医療保障、介護年金に変更することができます。2024 年 12 月に「WAYS」の料率改定を行い、商品力を強化しました。

学資保険

2009 年、当社は、「学資保険」を発売しました。この商品は、子どもの高校入学時の学資一時金や、大学在籍の 4 年間にわたって、毎年学資年金をお支払いするものです。2022 年 11 月に「学資保険」の料率改定を行い、商品力を強化しました。



テクノロジーで生産性、サービス、価値を高める

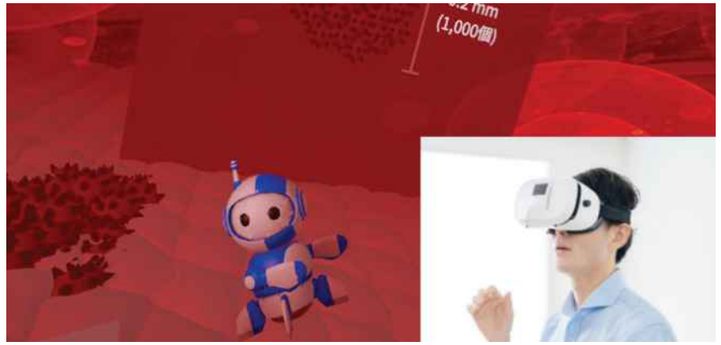
アフラック（日本法人）は、コアバリューに基づくDX推進により、「生きるための保険」はもちろんのこと、保険を超えた価値を創造するリーディング・プロバイダーとして、お客様にとって価値ある商品・サービスの提供をデジタルテクノロジーで実現していきます。また、生命保険事業以外の新たな領域においてもデジタルテクノロジーを活用し、保険を超えた顧客価値を創造します。以下の事例は、アフラック（日本法人）がクラウド型デジタルサービスやAIを、顧客体験の向上、お客様への情報提供、効率性及び生産性向上の手段として、どのように活用しているかを示しています。

ADaaS（クラウド型デジタルサービス）

デジタルを活用した営業活動やその他の業務をサポートし、お客様に新たな体験価値を提供するため、2022年からアフラック（日本法人）独自のクラウド型デジタルサービス「ADaaS／Aflac Digital as a Service」を提供しています。これはお客様、代理店、ビジネスパートナー等の各ステークホルダーを連携させるプラットフォームであり、利用者はADaaS上のサービスメニューの中から利用したいサービスだけを選択することができます。これにより、お客様サービスの向上、代理店のDX推進、ビジネスパートナーとの連携強化を目指しています。

ARサービス

保険相談のきっかけやお客様との接点を創出することを目的に、仮想空間の情報やコンテンツを現実世界に重ね合わせることで、現実を拡張する技術を活用した「ARサービス」を提供しています。お客様が、チラシや名刺、メール等にある二次元コード（左記イメージ参照）をスマートフォン等で読み取ると、3D動画と音声が流れ、アバターが保険商品に関する情報を案内します。また、AR名刺に記載されている二次元コードをスマートフォン等で読み取ると、募集人の自己紹介の動画が流れます。



XRデバイス（VRゴーグル/ARグラス）

アフラック（日本法人）は、ARグラスやVRゴーグル（上記イメージ参照）といったエクステンデッド・リアリティ（XR）体験も提供しています。* これらのデバイスを装着しバーチャルな世界に入り込む体験を通して、お客様にがんやがん検診、介護のことを考えるきっかけにしていただくことを目的としています。このような没入型体験により、がんの「早期発見・早期治療」の大切さや、介護に関する理解を深めていただくことができます。

* XRとは、現実世界と仮想世界を融合することで、現実にはないものを知覚できる技術の総称。 2024年3月時点で利用している機器の製造・販売元：Meta Platforms, Inc./ Nreal Ltd.

AIの利活用

アフラック（日本法人）は、AIの利活用を積極的に推進しています。

生成AIの積極的な活用

2023年12月には、社内の業務効率化を目指し、アフラック（日本法人）独自の生成AIである「Aflac Assist」を全社員へ導入しました。また、2024年9月からは、代理店における業務効率化によるお客様へのさらなる価値提供を目的に、生成AIを活用した業務支援システム「アフラックAIパートナー」の本格運用を開始しました。

お客様へのご提案の高度化

お客様への新商品や保障最新化などのご提案に、AIで構築した予測モデルを適用しています。具体的には、現在のご契約に関する情報などをもとにお客様ごとに最適なご提案内容、時間帯をAIで推定し、代理店に情報提供することで、お客様にとって最適なタイミングによるご提案を行っています。

アフラック（日本法人）各種受賞

7 年連続
「健康経営優良法人 2024 ～ホワイト 500 ～」
に認定

がん対策推進優良企業表彰制度にて
「令和 5 年度がん対策推進優良企業」に
4 年連続選出

「日本 DX 大賞 2024」にて
カスタマーエクスペリエンス部門の「特別賞」を
受賞

コンタクトセンター・アワード 2024 にて
「審査員特別賞」受賞

「社内報アワード 2024」にて「ゴールド賞」を
3 年連続受賞

「PRIDE 指標 2024」ゴールド受賞 *

公益社団法人企業情報化協会主催の「IT 賞」を
4 年連続受賞

厚生労働省及びスポーツ庁主催の
「健康寿命をのばそう！アワード」受賞

内閣官房公表の「ジョブ型人事指針」に
当社事例が掲載され、指針策定への協力に対して
岸田首相（当時）より感謝状を受領

日経 WOMAN「女性が活躍する会社 Best100」
総合ランキング 5 位

「Insurance Asia Awards 2024」を
5 年連続受賞

* 職場におけるLGBTQ などのセクシュアル・マイノリティへの取り組みの評価指標

アフラック(米国法人)

アフラック（米国法人）について

アフラック（米国法人）のビジョンは、「人々が、予期せぬ医療費に対してより良く備えることのできる世界」を実現することです。アフラックは 2025 年に創業 70 周年を迎えますが、70 年経った今も、当社が提供する商品へのニーズは、これまで以上に高まっていると信じています。同時に、生活者の行動や購買選好は変化し続けており、当社も同様に進化を遂げています。アフラックは商品ポートフォリオの多様化、販売網の拡大、ブローカーとの関係強化や、生活者にアプローチするユニークな方法を模索しています。こうして戦略的に、お客様との接点を増やし、加入率及び継続率を高めています。2024 年、米国においてアフラックは、再び補完医療保険商品において最大手の保険会社となり *、17 年連続で首位となりました。2025 年も、引き続きリーディングポジションを強化し、強固な販売の拡大に取り組んでいきます。

米国では、アフラックの商品及びサービスに対する雇用主や従業員のニーズは引き続き高まっており、アフラックは、より多くのご契約者がアフラックを最も必要とするときに寄り添う機会を活かすことができる立場にあります。賃金が伸び悩む中、医療費は上昇を続けていますが、アフラックは自己負担分の費用を現金で用意するという大きな課題を解決するためのお手伝いをしています。米国における成長の機会は力強いものです。約 1 億 6,100 万人の勤労者を抱える米国の労働市場の中で、アフラックが接点を持てているのはその 3 分の 1 にも満たないほどで、またその大半は小規模事業者に属します。この市場機会を活かすには、幅広い販売網が必要です。そのため、アフラックとともに働く募集人の数を増やし、変化を続ける状況に対処するために価値のご提案を拡充して、業界のリーダーとしてのポジションを維持していきます。

* LIMRA 2023年米国補完医療保険総合市場レポート

2024年 アフラック（米国法人）財務ハイライト

税引前調整後利益
5.5%減少
14億ドル

税引前利益率
160bp 低下
21.1%

統合リスクベース
資本 (RBC) 比率
677%

保険料収入（純額）*
2.7%増加
58億ドル

調整後投資収益（純額）
3.3%増加
8億4,700万ドル

調整後収益
1.8%増加
67億ドル

保険金給付金比率（全商品）
400bp 上昇
46.8%

調整後事業費率
210bp 低下
38.5%

契約継続率
79.3%

* 保険料収入（純額）は出再保険控除後

アフラック（米国法人）保険商品

商品ソリューション＋効果的な販売＋優れたサービス＝ロイヤルカスタマー

アフラックの補完保険は、病気や医療の利用に伴う収入や資産の毀損に対して、お客様に直接現金給付金をお支払いすることで保障を提供しています。ご契約者には、こうした給付金を医薬品代、健康保険適用外の自己負担分、家計費負担など、予期しなかった医療費の自己負担の一助としてお役立ていただいています。当社の幅広い保険商品は、ご契約者に価値を提供するとともに、あらゆる規模の企業が、従業員に手ごろな価格で包括的な保障のソリューションを提供できるよう、設計されています。

生活者のニーズが変化する中、私たちは商品が提供する価値をご契約者に理解いただけるよう、商品を刷新することに注力してきました。商品の価値を直接体験していただくことで、契約継続率が向上し、ご契約者の利益になるとともに、当社の事業費も削減できると考えています。アフラックの商品ポートフォリオの大部分は、がん保険、重大疾病保険、事故保険、就業不能保険、入院保障保険で構成されており、お客様のニーズにお応えしています。がん保険の「パイオニア」であるアフラックの補完保険商品の中で最もよく知られているのは、やはりがん保険です。がんの罹患率は増加し続けており、残念ながら、がんが米国をはじめ世界中の人々にとって気がかりであることは驚きではありません。さらに、ニールセン社が 2023 年に実施した調査では、罹患可能性と経済的影響の点で、がんが最も懸念すべき病気でした。アフラックのがん保険は、約 70 年前、がん患者の経済的負担を軽減し、回復に専念できるよう設計され、アフラックが他社との差別化に成功した最初の商品です。このコンセプトは変わらず、2024 年以降も当社の強みであり続けます。当社は、診断給付金の増額や積極的な治療のための給付金を手厚くし、がん保険契約の保障を強化しました。また、がんサバイバーが頻繁に直面する健康維持のための治療や副作用にも対応する生存給付金も追加しました。

アフラックはまた、がんとの闘いにおいて最もよく知られた組織のひとつである米国がん協会と提携しました。2 つの組織が協力することで、アフラックのお客様やその他の米国民に、健康とウェルネス、予防医療、がんと診断された場合の身体的、精神的、経済的負担への影響について啓蒙活動を行っていきます。

アフラック（米国法人）は、団体生命保険、休業管理・就業不能保険、ネットワーク歯科・眼科保険を通じて、商品ポートフォリオのさらなる強化と多様化を図りました。これらの商品は市場からの需要の高まりに対応するだけではなく、より大規模な市場へのリーチを拡げ、任意保険商品を含む完全なソリューションを提供することが可能となります。革新的な保障のオプションとテクノロジーの統合を組み合わせることで、保険募集において最初の選択肢となるポジションを確保していきます。当社は、これらの新しい任意保険商品の規模を拡大し、それを活用することでお客様への浸透を図り、収益を拡大し、中核となる補完医療保険の販売機会を開拓し続けています。

保険金のお支払いを通じて価値を高める

アフラックの目標は、医療保険でカバーされる費用と、医療保険でカバーされない費用のギャップを埋めることですべてのお客様に価値を提供することです。2024 年、アフラック（米国法人）はお客様の保険金請求を促進するために、保障内容や手続きのご案内などの取り組みに引き続き尽力しました。さらに、ご契約者が保険金請求を簡単に、迅速に、正確に行えるよう、使いやすいデジタル・ツールを開発することで、良好な顧客体験を提供することにも引き続き注力していきます。

今後の展望

アフラック（米国法人）は、職場における補完医療保険で 27% の市場シェアを有し市場をリードするポジションにあり、成長の機会が見込まれます。戦略的パートナーや販売チームと協力し、アフラックの商品を取り扱う既存の職域へ浸透を深め、そこでのお客様との接点を増やすよう努めています。さらに、最高水準の顧客体験モデルに支えられた多様な商品ラインアップとマルチチャネルの販売チームを活用し、加入率を高める成長戦略を引き続き実行していきます。

アフラック米国法人のEVP兼CFO兼COOのフレッド・シマード（左）とアフラック・インコーポレーテッド及びアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラーは、アフラック（米国法人）の年次の全社会議である「State of the Company meeting」において、商品、コラボレーションやご契約者に価値を提供する方法について、全社のリーダーと対話しました。

アフラック（米国法人）保険商品

がん保険

アフラック（米国法人）のがん保険は、初めてがんと診断された際の一時金と、その後がん治療を受けた際の給付金をお支払いする商品です。アフラック（米国法人）では、個人保険でがん保険を提供しています。

事故保険

アフラック（米国法人）は、個人・団体を問わず、事故保険を取り扱っています。これらの保険は、保険の対象となる傷害が発生した場合に現金で給付を行うものです。保険契約の事故部分には、事故による死亡、四肢切断及び特定の傷害に対する一時金と、入院に対する定額給付金が含まれています。また、住宅の改修やウェルネスへの給付、組織的なスポーツ活動への参加に関連する傷害に対する割増給付も提供されます。

就業不能保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、短期就業不能保険を、また、団体保険において長期就業不能保険を取り扱っています。対象となる傷害、疾病、またはメンタルヘルスに対して保障を提供します。さらに、雇用主が従業員の休業を管理し、刻々と変化する州及び連邦の休暇法を遵守するために、包括的な休業管理ソリューションを提供しています。

重大疾病保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、重大疾病保障プランを提供しています。これらの契約は、心臓発作や脳卒中、がんなどの重大な病気になったときに、現金で給付を行うものです。

歯科・眼科医療保険

アフラック（米国法人）は、団体保険において、ネットワーク歯科・眼科医療保険を提供しています。また、個人保険において、固定給付型の歯科医療保険を提供しています。

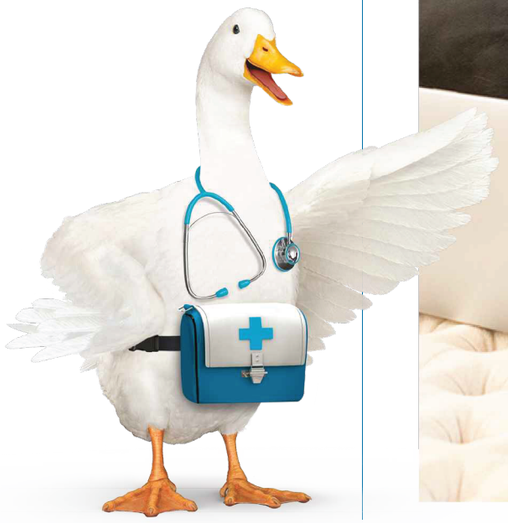
さらに、「Vision NowSM」という個人向けの保険を提供しており、深刻な目の健康状態や失明に対する給付に加えて、眼科矯正器具や検査に関する保障も提供しています。

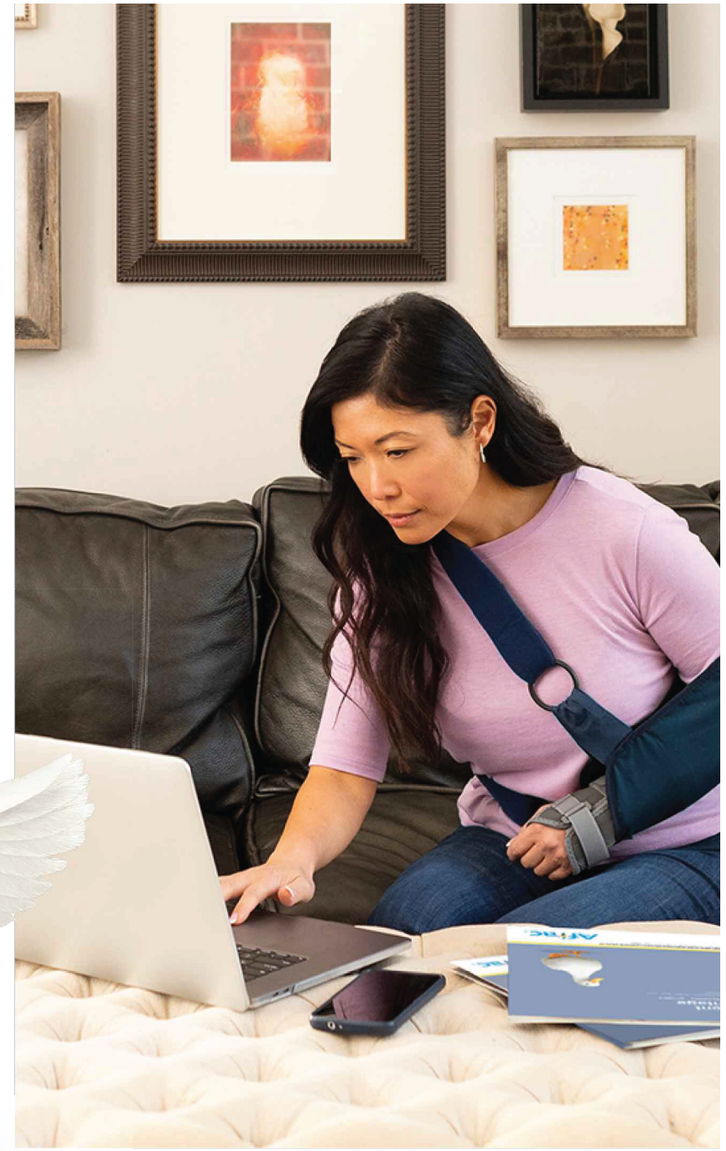
入院保障保険

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、入院保障を提供しています。入院保障商品は、事故や病気による入院を支払事由として、ご契約者に定額給付を行うものです。また、入院及び外来の手術や各種の診断結果に対する給付も用意されています。さらに、個人保険における事故保険、短期就業不能保険及び入院保障保険に付加することができる、一定の重大疾病に関する一時金特約を提供しています。

生命保険（定期及び終身）

アフラック（米国法人）は、個人保険・団体保険を問わず、定期保険及び終身保険を提供しています。また、団体定期保険には事故による死亡及び四肢切断保障の特約を用意し、ご契約者が事故により死亡または重傷を負った場合に追加の保障を提供しています。





従業員 スポットライト:
ナイジェル・グラハムさん

アフラックの従業員であり、がんサバイバー、保険契約者、保険金受給者でもあるナイジェル・グラハムさんの体験談です。

「健康診断の結果、前立腺がんの初期段階と診断されました。早期発見だったので、がんは広がっていませんでした。もし発見されずに他の場所に転移していたら、化学療法や放射線療法が必要になっていたかもしれません。私は他の消防士たちに早期発見について話すようにしています。というのも、健康診断を受診することで、血液検査では見逃されてしまうような異常が見つかることもあるからです。前立腺がん克服の記念に入れたタトゥーを会話のきっかけにして、自分の体験談を話したり、健康診断を受けるよう勧めたりしています。私にとってこのタトゥーは、がんは克服できるというシンボルです。早期発見さえすれば、がんは克服できるのです。」

- ナイジェル・グラハムさん
アフラックの従業員。ジム通いが好きなカヤック愛好家で、ボランティア消防士。前立腺がんのサバイバーでもあります。

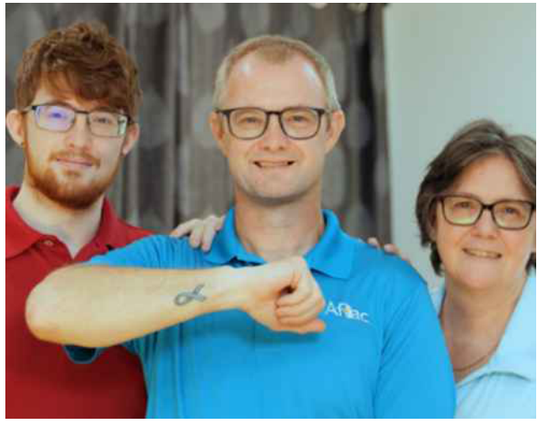


写真:
ナイジェルさん(中央)と息子のイーサンさん(左)、妻のウェンディさん(右)。

販売代理店と契約者のスポットライト

アフラック（米国法人）の「Real Stories, Real Solutions」キャンペーンの一環として、アフラックの販売代理店であり、がん保険金受給者でもある二人が、アフラックのがん保険の重要性について語っています。

「私ががんと診断される前、アフラックの販売代理店として保険商品を販売していた際は、母もがん保険に加入しているという個人的な話をしていました。9月に自分がステージ2のトリプルネガティブ乳がんと診断されたのですが、心の準備ができていませんでした。2012年、母が乳がんと診断されたことをきっかけに、私もがん保険に加入しました。当時、私はテーマパークで働いていました。ある時、友人からアフラックの面接を受けないかと誘われました。友人が『挑戦してみようよ』と言うので、私はその友人に話を聞きに行き、そして現在にいたります。今振り返っても、私の人生の中で最高の決断だったと思います。私は自分の体験をSNSでオープンに発信しています。たとえ一人でも助けることができれば、それで十分だと思います。どんなお客様にも、がん保険は必ずご案内しています。私にとっては本当に自分ごとなのです。今もこの闘病の途中にいますが、トンネルの先にはきっと光があると信じています。がんサバイバーと胸を張って言える日が来たときに、もし『グラスの半分の水を、半分しかないと見るタイプですか、それともまだ半分あると見るタイプですか』と聞かれたら――私はこう答えます。『グラスがあるだけで、私は幸せです』と。」

- エリン・スミスさん、販売代理店

写真左：アフラックの販売代理店、エリン・スミスさん。写真上：アフラックの販売代理店、サラ・シュライアーさん。

サラ・シュライアーさんは 2016 年からアフラックの販売代理店として働いていますが、最初にアフラックに出会ったのは、サラさんの母親が職場を通じて保険に加入したことがきっかけでした。残念なことに、サラさんの母親は乳がんと診断され、契約者から保険金受給者という立場へ変わることになってしまいました。治療を受けるためには、片道 1 時間ほどかけて通院する必要がありました。しかし幸いなことに、アフラックのがん保険から給付される保険金で、その交通費やその他の請求書の支払いをまかなうことができました。サラさんは、*「アフラックが最も助けになったのは、母に安心感を与えてくれたことだと思います」*と言います。それから 10 年後、サラさんの母親はアフラックで保険金請求の担当者として働いています。サラさんは言います。*「母は毎日、自分と同じような境遇の人たちのために保険金の請求手続きをしています。ご契約者に対するアフラックの約束が果たされるよう手助けをすることで、母の心はとても満たされています。私はよく思い出します――私の母をがん保険に加入させてくれたのは、別の代理店だったことを。私も誰かのお母さんのために、同じことをしてあげたいと思います。」*

- サラ・シュライアーさん、販売代理店

アフラック（米国法人）マーケティング戦略

アフラックは、医療費が心の平穏を脅かすものであってはならないと考えています。健康保険では保障されず、医療費がかさむ時、その差額を解消する手段として当社の商品が役立っています。愛されているアフラックダックの活用から、スポーツ界の大物たちとの提携に至るまで、アフラックのマーケティング戦略は、医療債務に対処できる方法と従来の医療保険では保障されなかった費用をカバーする補完保険の重要性について生活者に知っていただくことを中心に据えています。

女性は家庭の医療に関する意思決定の約 80% を担っており、健康とウェルネスの選択において重要な役割を果たしています。この影響力を認識し、2024 年の進化する医療環境と変化する生活者の行動に対応するため、アフラックは女子スポーツへの支援を拡大しました。既存のパートナーシップを強化し、新たなパートナーシップを結ぶことで、私たちがサービスを提供する地域社会へのコミットメントを強化しました。これらの取り組みでは、従来のマーケティングチャネルと革新的なアプローチの両方を活用し、アフラックのマーケティングビジョンとブランド目的を実現しました。

写真：2024年、アフラックのコマーシャル「ダック・ダンク」に登場するアフラックダック。

女子スポーツへの取り組みを深める

2024 年を通じて女子スポーツの人気が高まる中、アフラックは女性アスリートへの支援をさらに強化することに注力しました。NCAA March Madness® トーナメントの 2023 年大会から 2024 年大会までの1年間で、女子スポーツへの投資を 5 倍以上に増加させました。アフラックは、サウスカロライナ大学女子バスケットボールヘッドコーチのドーン・ステイリー及び女子バスケットボールコーチ協会とのパートナーシップを強化し、2023 年の「Dawn's List*」で特定された重大な不平等へ引き続き取り組みました。これには、投資の公平性、ファン体験、地域社会との関わりといった問題が含まれます。ステイリー・コーチは、「*My Special Aflac Duck*®」を子供たちに届けるため、プリズマ・ヘルス子供病院 - ミッドランズを訪問しました。アフラックダックの寄贈訪に参加するのは今回が2回目です。また、新しい広告ではアフラックダックと共演し、女子バスケットボールの再始動をアピールしました。

アフラックは、世界トップクラスの女性アスリートであるアレックス・モーガン、クロエ・キム、シモーネ・マニュエル、スー・バードの4人によって設立されたメディア・コマース企業TOGETHXRと新たなパートナーシップを開始しました。TOGETHXRはスポーツにおける女性の声を支援しています。NCAA March Madness® トーナメントのスウィート16の期間中、アフラックとTOGETHXRはオレゴン州ポートランドのSprit of 77で、The Sports Bra社と協力してトーナメント観戦パーティーを開催し、ファンが女子バスケットボールの成功を祝う場を提供しました。2024年のWNBAオールスターウィークエンドでは、両社は「Queens of the Court」と題したパネルディスカッションを共催し、女子バスケットボール界の著名な選手たちが女子バスケットボールの進化、直面する課題、そして競技の成長について語りました。「Dawn's List」の柱に基づき、アフラックは2024年のWNBAオールスターゲームにおいて、Kia WNBAスキルズチャレンジとSTARRY® 3ポイントコンテストの賞金を55,000ドルに増額し、NBAの同等イベントとの公平性を高め、優秀な女性アスリートを称えました。

* Dawnはステイリー・コーチのファーストネーム

写真：*My Special Aflac Duck*のイベントで患者とポーズをとるサウスカロライナ大学女子バスケットボール部ヘッドコーチのドーン・ステイリー。

米人気スポーツは土曜日が勝負

大学カレッジフットボールは単なるゲームではなく、アメリカ全土で何百万人もの人々を魅了する文化的現象です。試合中継の視聴者数は年々増加しており、ファンはカレンダーに印をつけるだけでなく、シーズン全体や週末の計画をこのスポーツを中心に立てるほどです。今や大学カレッジフットボールは、アメリカで最も人気のあるスポーツとして不動の地位を築いています。アフラックは、この情熱に共感し、文化的に関連性のあるパートナーシップと戦略的投資を通じて、大学フットボールにおいて最も認知度の高い企業の一つとなっています。毎年恒例の大学フットボール・キャンペーンは、アフラックのスポーツマーケティングポートフォリオの要となっています。2024 年には 4 年連続で、コロラド大学フットボール部ヘッドコーチであるディオン・“プライムタイム”・サンダース、及び元アラバマ大学フットボール部ヘッドコーチのニック・セイバンと提携し、アフラックダックと共に、フットボールをテーマにした新しい広告シリーズを展開しました。プライム・コーチ及びコロラド大学アスレチックスとの協力を基に、アフラックは同校との複数年にわたるパートナーシップを拡大し、2024-2025 年の大学フットボールシーズンに向けて、プライム・コーチとスタッフのためにカスタム・ヘッドセットを制作することを発表しました。さらに、アフラックは大学フットボール広告の巨人である Dr Pepper 社と提携し、同社ブランドの「Fansville」キャンペーンの一環として、有名なアフラックダックを起用し、「Feeding the Ducks」コマーシャルに出演させました。

2024 年には、第 2 回アフラック・キックオフゲームが開催され、Clemson Tigers と Georgia Bulldogs の注目の対戦が行われました。Peach Bowl 社と共に、アフラックは「Kickoff for a Cause」イニチアチブを支援し、マスコットチャレンジや小児病院への認知度向上と資金調達を目的とした夏のイベントを実施しました。試合に先立ち、ダボ・スウィニーとカービー・スマートの両コーチは、アフラックと共に地元コミュニティ内の小児患者訪問に参加しました。アフラックと Peach Bowl 社は、これらのコミュニティで子どもたちのために行われている重要な活動を支援するために 40 万ドル以上を調達しました。

写真：元アラバマ大学フットボール部ヘッドコーチのニック・セイバン、コロラド大学フットボール部ヘッドコーチのディオン・“プライムタイム”・サンダース、そしてアフラックダックが「Name, Injury, Likeness」の広告に登場。

アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメント及びメンバーシップ

FORTUNE'S WORLD'S MOST ADMIRED COMPANIES

フォーチュン誌の「世界で最も賞賛すべき企業」のリストに選出（24 年目）

Member of Dow Jones Sustainability Indices Powered by the S&P Global CSA

ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（北米）に組み入れ（11 年目）

ETHISPHERE WORLD'S MOST ETHICAL COMPANIES 2007 - 2025

Ethisphere 誌の「世界で最も倫理観の高い企業」の 1 社に選出（19 年連続）

Signatory of: PRI Principles for Responsible Investment

責任投資原則（PRI）に署名

THE HISPANIC PROMISE — PREPARE, HIRE, PROMOTE, RETAIN, CELEBRATE

ヒスパニックの雇用、昇進、維持、職場での賞賛を誓う
「ヒスパニック・プロミス」の最初の署名者の一社

POINTS OF LIGHT THE CIVIC 50

シビック 50 ポイント・オブ・ライト（7 年連続）

LATINA Style 50

ラティーナ・スタイル 50（25 年目）

BR Business Roundtable

ビジネス・ラウンドテーブル

アフラック・インコーポレーテッド 財務ハイライト

アフラック・インコーポレーテッド
（ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル：AFL）

投資家情報（2024年12月31日現在）

2024 年は、アフラック・インコーポレーテッドが 42 年連続で年間配当を増額した年となりました。再投資された配当金を含む株主総利回りは 2024 年に 28.1% となりました。同年の株主総利回りは、S&P 生命保険株価指数では 20.3%、S&P500 種平均株価指数では 25.0%、ダウジョーンズ工業株 30 種平均では 12.9% でした。

長年にわたり、当社は長期的な視点で事業を展開してきました。1955 年のアフラック創業時に投資家が当社株式を 100 株購入したとすると、その購入価格は 1,110 ドルでしたが、29 回にわたる株式配当及び株式分割の後、この投資家の保有する当社株式は、現在、375,960 株と、約 3,800 万ドル相当になり、これまでに配当金額として、751,920 ドルを受け取ったことになります。

69年
創業からの年数

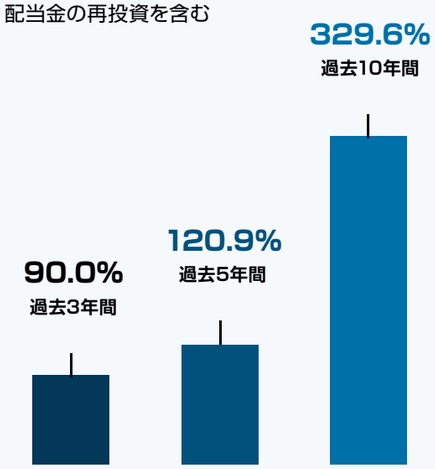
575億ドル
株式時価総額

50年
ニューヨーク証券取引所上場年数

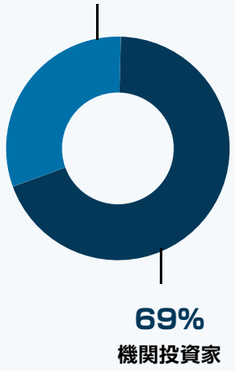
42年
連続増配年数

株主総利回り

配当金の再投資を含む

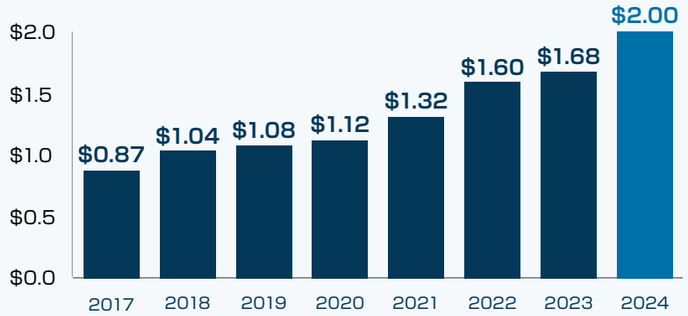


株主構成



1株当たり年間現金配当*

アフラックは**過去 42 年間連続で増配を続け**、2024 年の現金配当額は、2023 年に比べて 19.0% 増加しました。



* 株式分割調整後。12月31日に終了した事業年度。

当社の約束を支える強固な資本基盤

定期的な評価の一環として、当社は自己資本の十分性に細心の注意を払っており、極端な経済シナリオにおいても、強固な資本の健全性を維持できるよう努めています。アフラック・インコーポレーテッドの子会社は、日米の業界内で最も高い財務力格付けを得ています。これらの重要な格付けは、当社の保険金支払能力を反映したものであり、格付会社が、引き続き当社のバランスシートの健全性を認識していることを当社は誇りに思っています。

詳細については、investors.aflac.com をご覧ください。

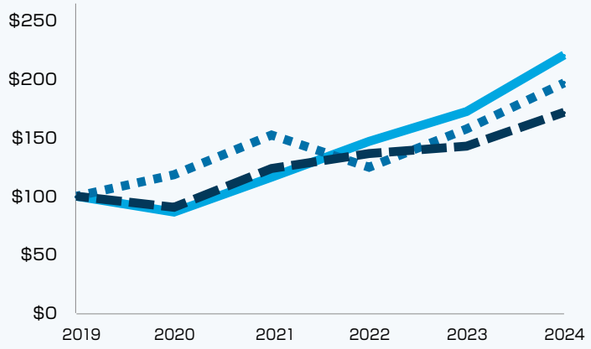
保険財務力格付け[*1]	AM Best	S&P[*3]	Moody's[*3]	JCR[*3]	R&I[*3]
アフラック生命保険株式会社[*2]	A+	A+	Aa3	AA	AA
アフラック（コロンバス）[*2]	A+	A+	Aa3	AA	AA
アフラック（ニューヨーク）	A+	A+	–	–	–
コンチネンタル・アメリカン・インシュアランス・カンパニー	A+	–	–	–	–
アフラック・リー・バミューダ	–	–	–	AA	–

* 1 2025年2月4日現在
* 2 主たる保険子会社
* 3 S&P:スタンダード・アンド・プアーズ・グローバル・レーティング、Moody's:ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク、JCR:株式会社日本格付研究所、R&I:株式会社格付投資情報センター

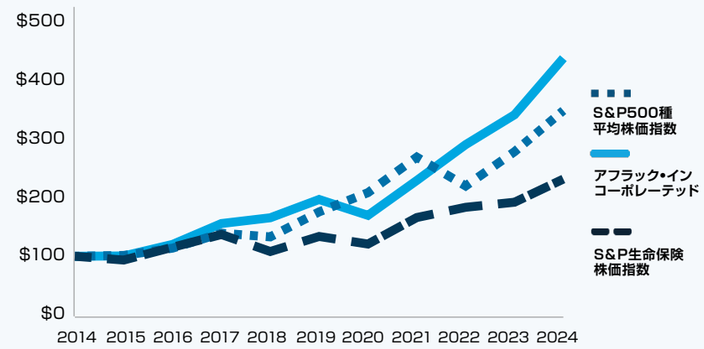
株主の累積投資収益[*1]

アフラック・インコーポレーテッドと S&P500 種平均株価指数及び S&P 生命保険株価指数の比較

過去5年間[*1]



過去10年間[*2]

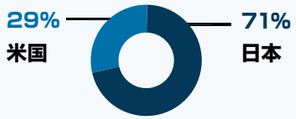


S&P500種平均株価指数
アフラック・インコーポレーテッド
S&P生命保険株価指数

*1 2019年12月31日に100ドルをアフラック株もしくはそれぞれの指数に投資した場合。再投資された配当金を含む。12月31日に終了した事業年度。
Copyright© 2025 Standard & Poor's, a division of S&P Global. All rights reserved.
*2 2014年12月31日に100ドルをアフラック株に投資した場合。12月31日に終了した事業年度。

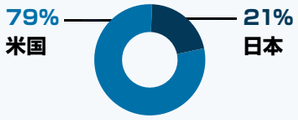
セグメント別の税引前調整後利益*

（2024 年 12 月 31 日現在、ドルベース）



セグメント毎の新契約年換算保険料

（2024 年 12 月 31 日現在、ドルベース）



* 全社（アフラック（日本法人）及びアフラック（米国法人）を除く）及びその他は、2024年に3,200万ドルの税引前利益を計上

財務諸表からの抜粋

12 月 31 日に終了した事業年度 （単位：百万ドル、ただし株式数及び 1 株当たり金額を除く）	2024	2023	2022	2021	2020
収益：					
保険料収入（主として補完保険）	**$13,440**	$14,123	$14,901	$17,095	$18,622
投資収益（純額）	**4,116**	3,811	3,656	3,818	3,638
資産運用（損）益（純額）	**1,271**	590	363	468	(270)
その他の収益	**100**	177	220	173	157
収益合計	**18,927**	18,701	19,140	21,554	22,147
保険金給付金及び事業費：					
保険金給付金（純額）	**7,450**	8,211	8,887	10,476	11,796
事業費	**5,060**	5,228	5,384	5,870	6,192
保険金給付金及び事業費合計	**12,510**	13,439	14,271	16,346	17,988
税引前当期純利益	**6,417**	5,262	4,869	5,208	4,159
法人税等	**974**	603	451	977	(619)
当期純利益	**$5,443**	$4,659	$4,418	$4,231	$4,778
1株当たり金額及び株式数					
当期純利益（基本）	**$9.68**	$7.81	$6.96	$6.28	$6.69
当期純利益（希薄化後）	**9.63**	7.78	6.93	6.25	6.67
調整後利益への調整項目					
資産運用損（益）（純額）	**($2.65)**	($1.53)	($0.70)	($0.68)	$0.32
その他及び非経常的損（益）	**0.04**	(0.07)	—	0.11	0.04
調整後利益への調整項目に係る法人税（軽減額）費用	**0.18**	0.04	(0.56)	0.12	(0.10)
税務に係る評価性引当金の取崩し	**—**	—	—	—	(1.97)
現金配当支払額	**2.00**	1.68	1.60	1.32	1.12
基本 1 株当たり当期純利益計算に用いた加重平均普通株式数（単位：千株）	**562,492**	596,173	634,816	673,617	713,702
希薄化後 1 株当たり当期純利益計算に用いた加重平均普通株式数（単位：千株）	**565,015**	598,745	637,655	676,629	716,192

主要な業務指標

	2024	2023	2022
アフラック（日本法人）			
保有契約件数[*1]	22,354	22,878	23,402
保有契約年換算保険料[*2]	￥1,208,991	¥1,246,373	¥1,300,951
新契約年換算保険料[*2]	￥64,111	¥60,730	¥54,765
アフラック（米国法人）			
保有契約件数[*1]	13,870	13,546	13,119
保有契約年換算保険料[*2]	$ 6,383	$6,161	$5,967
新契約年換算保険料[*2]	$ 1,543	$1,558	$1,483

*1 単位：千件
*2 単位：百万

財務諸表からの抜粋（続き）

12月31日に終了した事業年度 （単位:百万ドル、ただし株式数及び1株当たり金額を除く）		2024	2023	2022	2021	2020
年度末現在						
資産：						
運用資産及び現金・預金		**$105,087**	$113,560	$117,397	$142,978	$149,753
その他		**12,479**	13,164	14,341	15,172	15,333
資産合計		**$117,566**	$126,724	$131,738	$158,150	$165,086
負債及び株主持分：						
保険契約準備金		**$77,508**	$91,599	$96,910	$126,331	$114,391
法人税等負債		**573**	154	698	30	4,661
社債等及びリース負債		**7,498**	7,364	7,442	7,956	7,899
その他の負債		**5,889**	5,622	6,548	6,802	4,576
株主持分		**26,098**	21,985	20,140	17,031	33,559
負債及び株主持分合計		**$117,566**	$126,724	$131,738	$158,150	$165,086
補足データ						
株価：	高値	**$115.50**	$84.64	$72.70	$53.46	$57.18
	安値	**75.08**	60.20	52.07	23.07	44.28
	終値	**103.44**	82.50	71.94	44.47	52.90
年末現在 円／ドル為替レート（円）		**¥158.18**	¥141.83	¥132.70	¥115.02	¥103.50
加重平均 円／ドル為替レート（円）		**150.97**	140.57	130.17	109.79	106.86

サステナビリティ・ハイライト

トピック及び目標	2024年の進捗状況
環境 • 2040年までに、スコープ1、2、3（カテゴリ15を除く）のカーボン・ニュートラルを達成します。 • 2050年までに、スコープ1、2、3（カテゴリ15を含む）のネット・ゼロ・エミッションを達成、維持します。	✔ 2020年以来、アフラックは排出量の削減と再生可能エネルギー・クレジット（REC）やカーボン・オフセットの購入を合わせて、スコープ1及び2におけるカーボン・ニュートラルを達成しています。 ✔ アフラック・インコーポレーテッドは、2007年から2022年にかけてスコープ1及びスコープ2のマーケットベースの温室効果ガス排出量を93%以上削減し、2007年を基準年としたスコープ1及びスコープ2の排出量を2030年までに75%削減するという目標を、9年早く達成しました。そのため、スコープ1及びスコープ2の基準年を2023年に更新しました。さらに、スコープ3のカテゴリ1から8についても、2023年を基準年と設定しました。当社は、スコープ1、2、及びスコープ3のカテゴリ1から8についてその後の排出量と比較するにあたり、2023年が適切なベンチマークであると考えています。
責任投資 • 「投資可能資金」の少なくとも10%を、環境及び社会に影響を与える新規のサステナブルコミットメント及び投資に配分します。 • 責任投資原則へのコミットメントを維持します。	✔ 投資可能資金の19.8%（3億7,400万ドル）を環境（61%）及び社会（39%）に影響を与える投資にコミットし、資金を提供しました。 ✔ サステナブル運用資産（AUM）は53億ドルを超えています。 ✔ アフラック・インコーポレーテッドは、責任投資原則（PRI）署名者として初めての公開報告書を提出しました。
報告 • サステナビリティ会計基準審議会（SASB）及び気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）に準拠し、報告・開示の枠組みを継続的に前進させます。	✔ 2024年版TCFDレポートを発行しました。 ✔ スコープ1と2、及びスコープ3のカテゴリ1、2、3、4、5、6、7、8の温室効果ガス排出量について保証を取得しました。
人財の多様性と差別禁止へのコミットメント • アフラック生命保険株式会社は、2025年までにライン長ポストに占める女性割合を30%に引き上げる中長期計画を設定しています。* • アフラック（米国法人）は、米国の上級管理職の多様性を維持することにコミットしています。	✔ アフラック生命保険株式会社では、ライン長ポストに占める女性割合は28.8%になりました。 ✔ アフラック（米国法人）の上級管理職のダイバーシティは49.4%になりました。 ✔ アフラック（米国法人）の上級管理職クラスに占める女性の比率は増加し、37%になりました。

* アフラック生命保険株式会社におけるライン長ポストに占める女性の割合を対象としています。

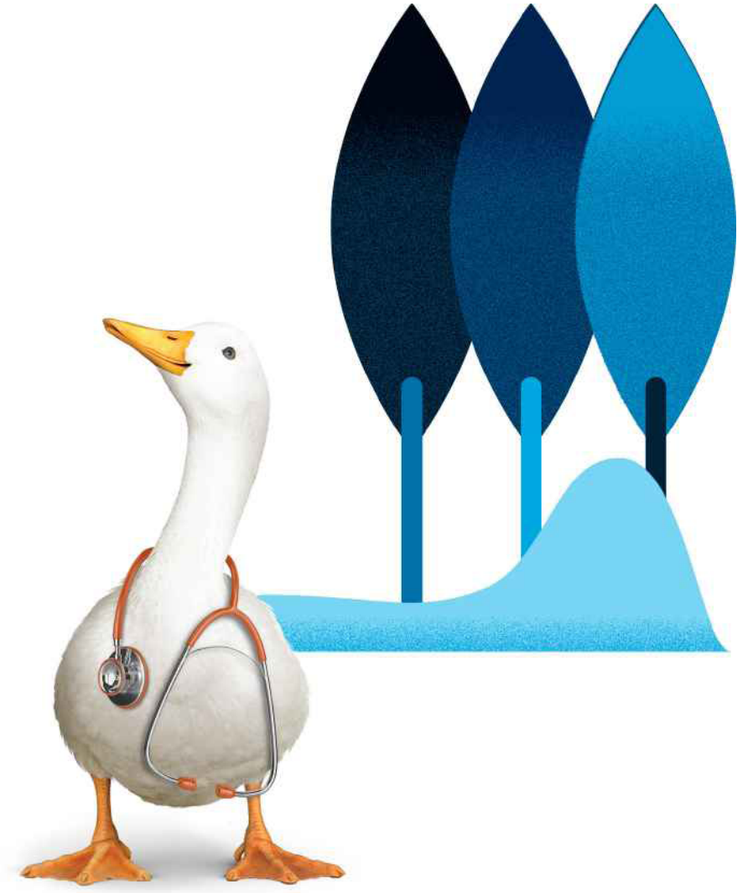
トピック及び目標	2024年の進捗状況
戦略的フィランソロピー がんとの闘いは並大抵のことではありません。私たちは、がん保険のリーディングカンパニーとして、ご契約者が当社を最も必要とされる時にそばに寄り添います。同じように、がんと診断された子どもたちのそばにも寄り添いたいと考えています。アフラック・インコーポレーテッドは、米国、日本及び北アイルランドでがんと診断された３歳以上のすべての子どもたちの手に *My Special Aflac Duck*® を届けることを目標に掲げ、子どもたちががん治療に立ち向かうことを支援しています。2022 年以降、鎌状赤血球症と闘う子どもたちにもこのプログラムを拡大しました。	✔ アフラックは、2024年までの間に、米国、日本及び北アイルランドで、累計**34,000人**以上の子どもたちに***My Special Aflac Duck***を贈呈しました。 ✔ アフラックとその従業員、募集人は、がんや重い病気の治療期間中、**アフラック・ペアレンツハウス**を「第二の我が家」としてご利用いただいた**15万人以上の小児がんなどの難病の子ども**とそのご家族をサポートしています。
地域社会への投資 がん保険のリーダーとして、アフラックは、がんを克服するためには研究が必要であると理解しています。	✔ アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは、**1億8,600万ドル**以上に上る寄付を集め、全米トップクラスの小児がんプログラム（出典：U.S. News and World Report誌）を提供する医療機関となりました。
責任ある行動を促すためのポリシー アフラックで働く者は、強い倫理観をもった企業文化を守るために、一人ひとりが重要な役割を担っています。このため当社では、各人がその役割を全うするための知識とツールを身につけられるよう、万全を期しています。	✔ 当社の新入社員には必ず行動倫理憲章に関する研修を行っています。アフラック・インコーポレーテッドの取締役会を含めた世界のすべての部署においても、この研修を毎年実施しています。適時にこのオンライン研修が受講されなかった場合は、懲戒処分または解雇につながることもあります。**2024年には、対象となる人員の100%が研修を受講しました。**
データガバナンス データ・セキュリティとプライバシーを確保します。	2024 年のアフラック・グローバル・セキュリティの状況 ✔ グローバル危機管理計画を検証するために、サイバーインシデント対応のグローバルでの机上演習を完了しました。 ✔ 効果的なグローバルプログラムとガバナンスストラクチャーの要件を概説するグローバルAIポリシーを作成しました。 ✔ より安全で強靭なコミュニティの育成を目指して、アフラックのオフィス周辺の地域社会を対象に、サイバーセキュリティ意識向上プログラム「CyberInspire」を開始しました。 ✔ 戦略的ロードマップに基づき、設計による安全性と回復力の維持、ビジネス継続のための保護、効率的な運営の優先、組織全体での積極的なガバナンスと監視を実施しました。

従業員の構成

- 2024年12月31日現在、アフラック（日本法人）の従業員の55%が女性であり、指導的立場にある人の34%を女性が占めています。アフラック生命保険株式会社では、ライン長ポストの29%を女性が占めており、2025年末までに30%以上に増やすことを目標としています。
- 2024年12月31日現在、アフラック（米国法人）及び米国で勤務する当社の従業員のうち、有色人種は48%、女性は66%を占めています。また、米国内では指導的立場にある人の52%、上級管理職の36%が、女性となっています。2024年の米国における新規採用者のうち、有色人種は60%、女性は69%を占めました。

コミュニティ投資とフィランソロピー

- *My Special Aflac Duck*®は、子どもたちががんや鎌状赤血球症の治療に立ち向かうのを支援するために設計された、「スマートな」友だちロボットです。アフラックでは、米国、日本、北アイルランドでがんまたは血液疾患と診断された3歳以上のすべての子どもたちの手に、*My Special Aflac Duck*を届けることを目標としています。アフラックは2024年までに累計で3万4,000人を超える子どもたちに*My Special Aflac Duck*を贈呈してきました。
- アフラックとその従業員、募集人は以下に対する責任を担っています。
  - がんや重い病気の治療のために、自宅を離れ、アフラック・ペアレンツハウスを第二の我が家としてご利用いただいた15万人以上の小児がんなどの難病の子どもとそのご家族
  - アトランタ小児病院のアフラックがん・血液疾患センターが、全米トップクラスの小児がんプログラムを提供（出典：*U.S. News and World Report*誌）する医療機関となるために役立てられた1億8,600万ドルに上る支援



ガバナンス

「アフラックのコーポレートガバナンスは企業文化に深く根ざしています。取締役会議室から休憩室、そしてリモートで働く社員まで、私たちは The Aflac Way に基づき正しい方法で物事を進めることを常に心がけています。誠実さ、透明性、そして責任を共有することで、私たちはお客様、そして地域社会が私たちを最も必要とするときに寄り添うという約束を果たします。」

オードリー・ブーン・ティルマン
アフラック・インコーポレーテッド
シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント
最高法律顧問

アフラック・インコーポレーテッドでは、誠実、透明性、信頼の原則に基づき、強力なガバナンス戦略を実行しています。このことは、お客様、株主、ビジネス・パートナーやサプライヤー、政府規制当局、そして従業員に対して、最高水準の倫理的行動で自らを律する責任を含んでいます。また、このコミットメントは、透明かつ責任あるコーポレートガバナンスのための堅固な枠組みを提供するもので、その枠組みは、企業組織のトップを起点にしています。

コーポレートガバナンスの枠組みを形成するのに役立つ規範、手順、方針、声明：

- アフラックの行動倫理憲章
- アフラックの政治活動報告及び政治行動委員会
- アフラックの方針及び声明

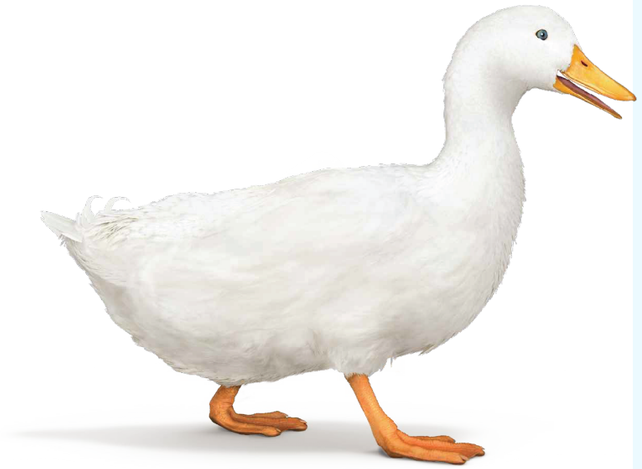
この文書には以下の内容が含まれています。

- 職場における労働安全衛生方針
- 責任投資方針
- 責任投資スチュワードシップ及びエンゲージメント方針
- 税に関する方針
- サイバーセキュリティに関する情報開示
- ダイバーシティと差別禁止に関する声明
- 人的資本管理に関する声明
- 人権に関する声明
- ネット・ゼロに関する声明
- サプライチェーンアプローチ

取締役会による監督

アフラック・インコーポレーテッドの取締役会（以下「取締役会」）は、スキル、経験などにおいて多様なバックグラウンドを持つ10名のメンバーで構成されており、以下の委員会への参加を通じて、当社の戦略及び意思決定を主導しています。これらの委員会は、従業員、お客様、投資家、地域社会にとって利益の最大化を図ることができるよう、中核的な価値創造経営の枠組みを提供しています。

アフラック・インコーポレーテッドは、持株会社のシステムの中で、業務執行を適切に監督することを通じて、ステークホルダーの期待に応える強固なコーポレートガバナンス態勢を構築・維持しています。この枠組みを、アフラックの「グローバル・グループガバナンス」と呼んでいます。アフラック・インコーポレーテッドの各国の直接・間接子会社は、グローバル・グループガバナンスに基づき、お客様にとって価値ある商品・サービスの提供を続け、またその信頼を得るために、経営の健全性を維持しながら事業を運営しています。アフラックのグローバル・グループガバナンスの枠組みのもとで、適用される法域（米国及び日本を含むが、これらに限定されない）の法令に基づき、アフラック・インコーポレーテッドの直接・間接子会社に対する適切な監督と、子会社間の有機的な協力が確実に遂行されています。

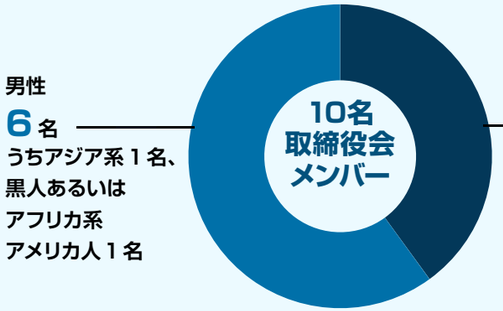


アフラック・インコーポレーテッドの取締役会及び委員会体制

エグゼクティブ委員会

監査・リスク委員会	経営企画委員会
報酬委員会	財務・投資委員会
コーポレートガバナンス委員会	CSR・サステナビリティ委員会

取締役会の構成



平均年齢
65歳

平均在職年数
10年
全取締役

独立取締役の割合
90%

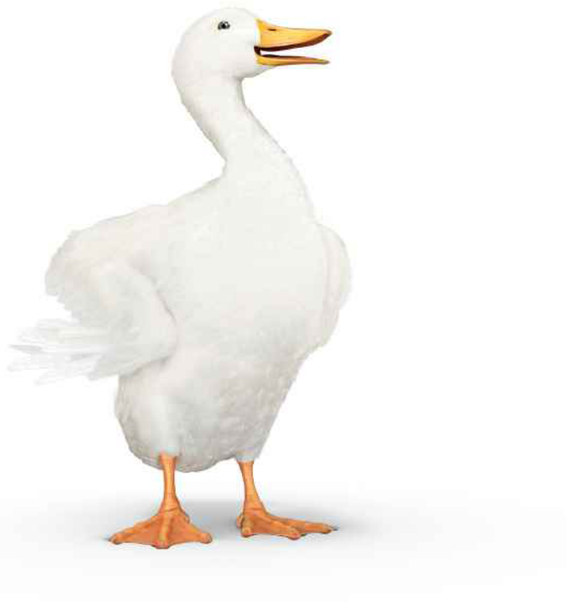
6年
独立取締役

当社取締役会と各委員会は、サステナビリティを含む、当社が直面するさまざまなリスクと機会の監督という点で重要な役割を担っています。特にサステナビリティに関しては、責任ある倫理的行動やコーポレートガバナンス態勢、CSR とサステナビリティに関する目的やリスク管理方針を特定、推進、モニタリングする役割を果たしています。当社取締役会の CSR・サステナビリティ委員会は、独立取締役で構成され、少なくとも年 2 回開催されています。CSR・サステナビリティ委員会のメンバーは、CSR とサステナビリティに関して、当社の方針、手続き、及びその実践を監督しており、具体的には、以下の活動を行っています。

- サステナビリティに関する取り組み、環境への影響（エネルギー使用、リサイクル、CO_2の排出を含む）、健康と安全に関する事項、職場のダイバーシティに向けた取り組み、及びフィランソロフィー活動に関する、CSR/サステナビリティ目標の設定
- 目標達成に向けた活動と成果に対するモニタリング
- 当社の環境スチュワードシップ方針の目標及び目的の見直し
- 年次のビジネス&サステナビリティレポートの作成の監督と内容のレビュー
- 組織戦略、行動計画、及び経営方針と気候関連リスクの統合に対する監督
- 環境やコミュニティに対する当社の影響を特定し、管理するプロセスの監督

CSR・サステナビリティ委員会は、以下の委員会と連携して取り組みを推進しています。(a) 財務・投資委員会とは、サステナビリティボンドやその他の社会的サステナビリティ関連の債券発行と資金使途、及び投資プロセスの監督に関する CSR 及びサステナビリティ要因についてのガイダンスで連携しています。(b) 報酬委員会とは、CSR 及びサステナビリティ要因を役員報酬プログラムへ組み入れることで連携しています。(c) コーポレートガバナンス委員会とは、後継者人財の育成に関する当社の方針と原則において、ダイバーシティと差別の禁止を組み入れることで連携しています。

また、監査・リスク委員会は、サステナビリティに関するリスクと機会の両面を含む、企業リスクへの取り組みと管理に関する当社の方針、プロセス及び態勢を監督しています。CSR・サステナビリティ委員会を通じて、サステナビリティ関連リスクは、その目標やゴールに対する進捗のモニタリング方法を含めて、組織戦略、行動計画、経営方針及び業績目標と統合されています。CSR・サステナビリティ委員会では、経営陣と定期的に会合を持ち、当社が環境に与える直接的な影響を検討するとともに、廃棄物削減や省エネルギーなどの分野で、当社が CO_2 削減努力を継続することを確認しています。



統合的リスク管理

アフラックは、グローバルなリスク管理フレームワーク (GRM) のもと、当社独自の目的に基づいてリスクを測定及び管理するための構造化されたアプローチを実践しています。アフラックは「3 つのライン」を採用しており、役割と責任、及びさまざまな事業と検証機能の関係を定義することによって、リスク管理と内部統制のさらなる構造化を図っています。アフラックの経営陣は、情報の共有や各役割間の活動調整について期待されるあり方を周知しています。これらの役割と責任においては、まず事業部門が第一のラインとしてリスクの特定と管理を行います。そのリスク管理プロセスの確立と監督を担うのが第二のライン、ガバナンス・リスク管理部門です。次の第三のラインが内部監査部門で、リスク管理の枠組みの有効性を評価します。3 つのラインはすべて相互に連携して、組織全体のリスクを管理します。

リスク管理プロセス

ERM 部門は、内部監査と連携して、四半期ごとのリスク評価に加え、全社的なリスク評価を毎年実施しています。サステナビリティリスクを含む当社のトップリスクは、適宜、エグゼクティブマネジメント委員会及び取締役会の各委員会に報告されます。

当社は、この年次リスク評価を通じて、特定されたリスクの影響度と発生の可能性を検討し、リスク尺度を用いてすべてのリスクの重要性を評価しています。影響の大きさにより、リスクは軽微、中程度、影響あり、重大、極度に区分されます。発生可能性の尺度は、各リスクを 1 ～ 2 年に 1 回発生する事象（頻発する）、2 ～ 5 年に 1 回発生する事象（予想される）、5 ～ 10 年に 1 回発生する事象（可能性がある）、10 ～ 20 年に 1 回発生する事象（可能性が低い）、20 年以上に 1 回発生する事象（稀に起こる）の区分で発生可能性を検討するものです。アフラック・インコーポレーテッドの利益、支払能力及びブランドを確実に保護するために、このプロセスを通じて重要と判断されたリスクは、取締役会に上程され、そのガイダンス及び指示を受けます。このプロセスでは、ビジネス・ユニットの責任者への聴取が行われ、ビジネス・ユニット内外におけるリスクの検証が求められます。その目的は、特定されたリスクが、組織全体の目的に影響を与えるかどうかを理解することにあります。リスクの特定後、その影響度と発生可能性を評価し、残存リスクを算出します。リスクは総合得点でまとめられ、数値が最も大きなものが最大のリスクとなります。リスクが実質的または重要な影響を及ぼすかどうかを評価する際には、発生可能性と利益、支払能力、ブランドへの影響を考慮した尺度を用いています。

年次及び四半期ごとのリスク評価や株主やその他のステークホルダーとのエンゲージメントから得られた情報は、当社のサステナビリティ戦略に活用されます。その他、業界の動向、サステナビリティフレームワーク、規制、法律、基準なども考慮して、サステナビリティ戦略を策定しています。

取締役会による気候関連のリスクと機会の監督に関する追加情報については、最新の **TCFD レポート**をご覧ください。

倫理とコンプライアンス

アフラックは、尊敬に値する倫理的な企業として高い評価を得ており、このことは、当社の事業目標や中核的な使命に不可欠なものです。私たちは、当社と共に働くすべての人に対して倫理的な行動を期待しており、それがお客様やステークホルダーとの信頼関係の基盤を成すと考えています。こうした期待は、アフラックの共同創業者が70年近く前に当社を築き上げた価値観である「The Aflac Way」の「チームワーク、敬意、公正、正直、誠実、責任」に根ざしています。

当社の「**行動倫理憲章**」は、これらの価値観をどのように受け止め、日々の業務に活かしていくかを示しています。当社の「行動倫理憲章」は、当社が事業を展開している主要国である日本及び米国の公用語に翻訳されており、以下の内容が含まれています。

- 秘密厳守の倫理ヘルプライン
- 報復禁止ポリシー
- 差別とハラスメントに関するポリシー
- 利益相反に関するポリシー
- ヘッジ禁止ポリシー
- 独占禁止法（及び競争法）に係るポリシー
- 海外腐敗行為防止法、反ボイコット法及びその他適用される規制を含むがこれらに限定されない汚職防止法の遵守

アフラックは The Aflac Way に基づき、従業員に対して尊敬と配慮をもって接するとともに、オープンなコミュニケーションラインと「声を上げる」文化を推奨しています。米国では、「セーフ・トゥ・セイ」プログラムを導入し、従業員に対し、さまざまな懸念事項を報告する方法を提供しています。例えば、包括的で機密性を担保した通報システムの EthicsPoint は、24 時間 365 日、フリーダイヤルとオンラインで内部告発やその他の倫理上の懸念に対応しています。私たちは日ごろから、当社の強固な倫理基盤の重要性について話し合い、誰もが声を上げられ、またその声を聞くことのできる「セーフ・トゥ・セイ」の理念を、全従業員が高く評価しています。

報告方法には、電話によるアフラック ヘルプライン（844.246.4371）、ウェブ受付（www.aflac.ethicspoint.com）、コンプライアンスコーディネーター宛ての手紙（住所：1932 Wynnton Road, Columbus, Georgia 31999-0001）があります。従業員は、上司または部門長、人事部、法務部を通じて報告することもできます。

当社は、報告が迅速に検討され、必要に応じて是正措置を講じることを保証するプロセスを維持しており、これには解雇（適切な場合）が含まれます。アフラックのグローバル・チーフ・エシックス・コンプライアンス・オフィサーを務める法律顧問は、問題が公正、一貫性、透明性をもって処理されるよう、調査を監督しています。さらに、取締役会の監査・リスク委員会は、必要に応じて、調査プロセス、コンプライアンスの動向や案件を監督します。

当社は、誠意をもって報告を行った者、法律、当社の行動倫理憲章、またはその他の会社方針や手順に対する違反の疑いの特定を支援した者、または内部調査に参加した者に対する報復を容認しません。私たちは報復を防ぐために積極的な措置を講じています。

倫理・コンプライアンス研修は、職場での適切な行動を促し、従業員への具体的な期待を設定し、当社のコミットメントを示す機会であるほか、一般的にはあまり知られていない諸原則を従業員に伝える上で不可欠だと認識しています。リーダーや従業員に適切なトレーニングを提供することは、当社の倫理・コンプライアンス・プログラムの有効性を長期にわたって高めていくためには重要な要素です。アフラックの全従業員は、会社としての強い倫理観を維持する重要な役割を担っており、その役割を果たせるよう、一人ひとりが必要な知識とツールを確実に身につけられるようサポートしています。行動倫理憲章に関する研修は、すべての新入社員に義務付けられており、取締役会を含む全世界のチームに対しても毎年実施されています。適時にオンライン研修を受講しない場合、懲戒処分または解雇につながる可能性があります。行動倫理憲章は、当社に雇用されるすべての者に適用され、最高経営責任者と上級財務役員には、特別なセクションも設けられています。啓発と研修を通じて強固な倫理基盤の確立を図ると同時に、倫理・コンプライアンス・プログラムが実際に効果的に運用されるよう努めなければなりません。当社は、倫理・文化に関する定期的な調査を実施するなど、プログラムの健全性を評価するためのツールを多数使用しています。当社の倫理・コンプライアンス原則に対する従業員の意識に関する無記名アンケートからは、貴重な情報が収集されています。この調査を通じて、アフラックの上層部が見せる非常に強い倫理的姿勢は組織全体にまで波及していることが確認されています。また、従業員は、正しい行いが奨励されていることを感じつつ、情報入手の場や、また報復の恐れなく懸念事項を告発できる場についても知っている、ということが報告されています。

当社では、サプライヤーに対しても、当社の高いレベルの倫理基準を遵守するよう求めています。当社は、最大限の誠実さ、公正さ、そして敬意をもった行動に専心しているサプライヤーと取引を行っています。さらに、アフラックは、当社のリスク評価に基づき、規制要件に沿って継続的なデューデリジェンスを実施しています。アフラックは、必要に応じてサプライヤーの遵守状況を監査する権利を留保します。これには、施設の視察、従業員との面談、文書の要求などが含まれます。サプライヤー行動憲章では、アフラックのサプライヤーが労働法規を遵守し、公正な賃金を支払い、強制労働、児童労働、差別を行わないことを期待することで、サプライベースにおける労働者の権利を促進しています。アフラックのサプライヤーは従業員が報復や処罰の脅威なしに違反を報告できるようにしなければなりません。サプライヤーに関するその他の情報については、当社の**方針と声明**のサプライチェーンアプローチをご覧ください。

報告

証券取引委員会の規制に従い、アフラックは事業に伴う通常の訴訟以外のすべての重要な法的手続きの内容を、**年次報告書（フォーム 10-K）及び四半期報告書（フォーム 10-Q）**において開示しています。

サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護

サイバーセキュリティガバナンス

情報保護の取り組みに関してはアフラックの上層部がコミットしています。当社の取締役会は、アフラックのグローバル情報セキュリティプログラムを監督し、プログラム及びグローバル情報セキュリティーポリシーを毎年見直し、承認します。このプログラムの責任は、グローバル・チーフ・エシックス・アンド・コンプライアンス・オフィサーに直属するグローバル・チーフ・インフォメーション・セキュリティ・オフィサー（CISO）にあります。グローバル CISO は、取締役会の監査・リスク委員会において四半期ごとに、また取締役会には年３回、プログラムの進捗状況について報告します。これには、適用法規制の遵守、既存の脅威と進化を続ける脅威の動向、セキュリティ強化に向けた取り組みの状況、プログラム戦略の最新の状況が含まれますが、これらに限定されません。さらに、取締役会メンバーには、情報セキュリティに関する意識向上のための研修を毎年実施します。

グローバル CISO は、本プログラムを監督するために、グローバルセキュリティの代表としてガバナンス委員会へ参加し、また自身で委員会を持つこともあります。

これらの委員会は、情報と資産の機密性、完全性、可用性、説明責任、レジリエンシーを保護するためのあらゆる側面に対処する効果的な情報セキュリティプログラムに必要な機能を代表する役員で構成されます。

グローバル CISO は高度なスキルを持つリスク管理とセキュリティ、プライバシーの専門家チームによってサポートされ、グローバル情報セキュリティプログラムの開発や実装、運用、保守、継続的な改善を担当します。熟練したサイバーセキュリティ要員を維持するために期待されるトレーニングは、グローバルレベルで文書化され、年次トレーニングの要件が記載されています。アフラックには、米国国立標準技術研究所のサイバーセキュリティフレームワーク（NIST CSF）に基づいて構築された、情報やサイバーセキュリティに関する包括的なポリシーや基準があります。ポリシーや基準は、毎年、組織全体がサイバーセキュリティやプライバシーに関する各種規制変更への対応や、技術や業界のベストプラクティスを踏まえた対応を実施しているかどうかを確認するレビューを行った上で承認されます。

アフラックでは、私たちがサービスを提供するために収集した個人や企業の情報を保護することは非常に重要であり、当社の企業文化の重要な信条となっています。個人のプライバシーとデータを社内外の脅威から保護すべく、情報セキュリティを非常に重視して事業活動を行っています。写真のように、セキュリティ・オペレーション・センターでは、脅威管理チームとセキュリティ・オペレーション・チームのメンバーが、お客様に代わって安定性とセキュリティを維持するためにたゆまぬ努力を続けています。

サイバーセキュリティリスク管理

アフラックでは包括的なサイバーセキュリティリスク管理プログラムを導入しており、データ使用や第三者との情報の共有、重要なアプリケーションやインフラのシステム設定、人口知能（AI）の使用を対象に、それらに伴う情報セキュリティとプライバシーリスクの初期評価と継続的なモニタリングを行っています。初期評価と、リスクを低減するコントロールの評価を通じて、最終的なリスクレーティングが決定されます。特定されたリスクをエスカレーションするコンプライアンスプロセスが整備され、リスク対応の透明性と適切な説明責任の確保が図られています。再評価の頻度は、リスク評価プロセスに沿って決定されます。

また、ビジネスリスクの特定を直接事業者が行うために、レジリエンスプロセスも確立されています。また、運用上のレジリエンシーをサポートするために、ビジネスプロセスの優先順位を影響評価という形で把握し、BCP（事業継続計画）を策定することで、業務に支障をきたすような事態に適切な対応を行います。影響評価と BCP は、少なくとも毎年更新されます。

サイバーセキュリティコンプライアンス

アフラックには、セキュリティ及びプライバシーのポリシーと基準に照らしてビジネス慣行とテクノロジーを評価するためのプロセスがあります。**アフラック・プライバシー・センター**では、当社の個人情報の収集、利用、共有方法について公開しており、個人が個人情報を保護し、プライバシー権を行使する方法を知ることができます。当社の成熟したサイバー保証プログラムは、コントロールオーナーによる、コントロールの有効性への誓約を定期的に監督しています。それらのコントロールは、NIST CSF に対応する包括的なライブラリで構成・維持されています。さらに、アフラック（米国法人）では SSAE 18 SOC 2 レポート（米国アテステーション業務基準書第 18 号委託会社の内部統制報告書）の独立した外部ファームによる審査を年次で実施しています。

サイバーセキュリティとプライバシーの領域では、法・規制活動の焦点が常に進化し続けています。アフラックでは、新しい法規制の動向を注視する部門横断的なチームを通じて、プライバシー及びサイバーセキュリティプログラムが、規制要件に準拠していることを確認・評価しています。

セキュリティ運用

アフラックには、規制要件と業界のベストプラクティスとの整合性を確保するための、従来型のシステムとコントロールが存在していますが、ビジネスの変化に対応した、より成熟したセキュリティ体制の構築に向けて継続的に取り組んでいます。当社が実装している階層化された防御システムには、ID 及びアクセス管理システム、役割に基づくアクセス管理、多要素認証、暗号鍵や証明書を管理する仕組み、ファイアウォール、クラウド、ネットワーク、エンドポイントのセキュリティツール、ゼロトラストアーキテクチャなどが含まれており、情報の保護と可用性の確保に努めています。また、定期的にアクセスレビューを実施し、その記録は維持され、検査されます。

アフラックはまた、侵入検知、防止、及びデータ保護ツールを活用して、機密性の高い情報と資産を保護します。プログラム全体で、内部及び外部の異常を検知して対応する能力をサポートするために、継続的なモニタリングを実施しています。成熟した脆弱性スキャン及びパッチ管理プロセスがあり、主要リスク指標を隔月で各国のマネジメントに提供しています。また、四半期ごとに対応状況に関する詳細なダッシュボードがビジネスリードに提示されています。

私たちのチームは、金融サービスや保険業界の他社、ならびに地方、連邦の法執行機関との協力を含む複数の脅威に関する機密情報を共有するコンソーシアムに積極的に参加しています。また、チームは重要な環境の変化を捉えるため、オープンソース・インテリジェンスのフォーラムやグループの一員として活動しています。

レジリエンシーと対応

アフラックのオールハザードビジネスレジリエンスプログラムは、先進的な事例と ISO22301 などの業界標準を踏まえています。このプログラムでは、組織における重大な事態を管理するために、コントロールと対策を実施します。これは、アフラックの従業員やお客様、株主、ビジネスパートナー、情報、資産、事業が、想定外の事業中断の際にも適切に保護されることを保証する全社的なプログラムです。統合的な事業継続や災害復旧、生命の安全確保、インシデント管理、危機管理を通じて、レジリエンスが達成されます。2024 年、アフラックは、外部機関が進行役を務め、グローバルな役員を含め部門横断的な参加者が参加した、年次のサイバーインシデントの机上演習を成功裏に実施しました。この演習では、グローバルなサイバー事案への対応をテストすることに成功しました。

当社のインシデント対応チームには、包括的なインシデント対応フレームワークに精通する、技術力のあるセキュリティやフォレンジックの専門家を揃えています。このインシデント対応フレームワークは整合的な手順、タスクから構成されており、セキュリティやプライバシーのインシデントをタイムリーかつ正確な解決に導きます。アフラックは、法的要求にしたがい、万が一個人情報が漏洩した場合には調査の上、本人と当局に通知するプロセスを整備しています。さらに、アフラックはグローバル・サイバー保険に加入しています。

セキュリティ意識向上とトレーニング

アフラックのサイバーセキュリティ意識向上トレーニングプログラムは、従業員や委託先、募集人が情報やサイバーセキュリティ、プライバシーの重要性を認識し、適切に対応できるように設計されています。このプログラムでは、サイバーセキュリティリスクの防止、特定、上部組織への報告に必要な知識とスキルを全員に提供しています。毎年、当社のシステムやデータにアクセスできる従業員や委託先、募集人には、セキュリティやプライバシーに関して、特権ユーザー及び開発者の役割に応じた追加トレーニングを含む、必須トレーニングの受講を義務付けています。これに加え、累計 50,000 時間以上の必須及び補足的なセキュリティとプライバシーに関するトレーニングを、組織の全員が完了しました。

アフラックのセキュリティ運用チームと脅威インテリジェンスチームは、セキュリティ意識向上プログラムにおいて緊密に連携しながら、実際に見られる脅威に対応したフィッシング訓練メールを年間を通してユーザーに対して送信しています。訓練結果は指標によりモニタリングされており、フィッシングの感染しやすさに関するリスクがリアルタイムで可視化されています。訓練で不合格となった者には追加のトレーニングが義務付けられています。

2024 年、アフラックのフィッシングメール演習の成績は同業他社の水準をはるかに上回り、従業員と委託先の合格率は 99%を超えました。

アフラックのセキュリティ意識向上のアプローチでは、セキュリティとプライバシーを、トレーニングにとどまらず、企業文化及び地域社会の中核として根付かせるよう努めています。アフラックでは、経営陣の強力なサポートのもと、100 人のサイバーセキュリティアンバサダーと 83 人のプライバシーリエゾンを配置し、セキュリティ及びプライバシーの意識向上やエンゲージメント強化を推進しています。2024 年には、サイバーセキュリティとプライバシーに関する無数のトピックを網羅した 140 以上のダイレクトコミュニケーション、ポータルストーリー、コンテスト、パネル、教育イベントを開催しました。イベントはプライバシー意識向上週間と全米サイバーセキュリティ意識向上月間に焦点を当て、年間を通じて 7,500 人超の参加者を集めました。

2024 年、アフラック・グローバル・セキュリティは、アフラックの事業所周辺の地域社会に焦点を当てたサイバーセキュリティ意識向上支援プログラム「CyberInspire」を開始しました。「CyberInspire」の使命は、すべてのメンバーがサイバーの脅威から自分自身と他者を守るための知識と理解を備えた、より安全で強靭なコミュニティを育むことです。そこでは、若いメンバーが次世代の「サイバーディフェンダー」としてインスピレーションを受けることが促進されます。

政治活動報告

「当社は活動及びその実施方法において透明性の確保を意識しています。アフラックは倫理的で透明性の高いプロセスを採用し、またこのプロセスを非常に重視しています。ガバナンスはその重要なフレームワークです。」

ブラッド・ノックス
アフラック・インコーポレーテッド
シニア・バイス・プレジデント
フェデラル・コーポレート・アフェアーズ

アフラックは、長きにわたり民主化のプロセスに参加してきました。連邦及び州政府の規制を受ける企業として、ご契約者へのアフラックの約束を守るために、選挙で選ばれた議員との関わりは重要です。

政治活動報告について、詳しくはこちらをご覧ください。

資産運用

「アフラック・グローバル・インベストメンツでは、サステナブル投資及びコミットメントを53億ドル以上に拡大することで、The Aflac Wayへのコミットメントを実証し、ステークホルダーに、財務、環境、社会にプラスの影響をもたらしました。」

ブラッド・ディスリン
アフラック・インコーポレーテッド
エグゼクティブ・バイス・プレジデント
グローバル最高投資責任者
アフラック・グローバル・インベストメンツ社長

アフラック・グローバル・インベストメンツ（以下、「グローバル・インベストメンツ」または「GI」）は、ニューヨーク及び東京を拠点とし、アフラック・インコーポレーテッドの資産運用子会社で構成され、日本、米国、バミューダのアフラックの保険子会社が保有する総額950億ドルの資産運用を担当しています。このチームは、戦略的アセット・アロケーションという投資基盤に基づき、資本の保全と調和した長期的リターンの最大化を追求することで、当社の長期的な成功に貢献しています。これにより、質の高い分散されたポートフォリオの構築に重点を置いた資産、負債、資本の管理アプローチを実行しています。

投資チームは、資産クラスごとに編成され、ソブリン債、社債、地方債、インフラストラクチャー債、ミドルマーケットローン、プライベート・クレジット、プライベート・エクイティ、不動産投資などの専門知識を持つポートフォリオマネージャーが率いています。また、社外の資産運用会社のプラットフォーム機能を活用して、当社のリターンの目標とポートフォリオ管理基準を満たす専門的な戦略特化の第三者の運用マネージャーの発掘を行っています。当社のチームはグローバルな資本市場で存在感を示しており、当社のステークホルダーに対する義務を果たすために、日本円と米ドルの両方の通貨で投資を行っています。デリバティブの専門家を擁する当社のグローバルチームは、世界の金利及び外貨に対するエクスポージャーを管理するための戦略を策定し、実行しています。

グローバル・インベストメンツは、魅力的なリスク調整後収益をもたらすと同時に、環境の持続可能性向上に貢献し、社会的利益を生み出すことを目指しています。アフラック・インコーポレーテッドの事業に責任投資の要素を取り入れることは、30年以上にわたって当社の事業において重要なことであり、グローバル・インベストメンツの中核的な投資哲学にも及んでいます。これは、アフラックのステークホルダーに経済的・社会的にプラスの影響を与えながら、投資案件のサステナビリティやリスク・リターンプロファイルに関してより良い意思決定につながると考えています。

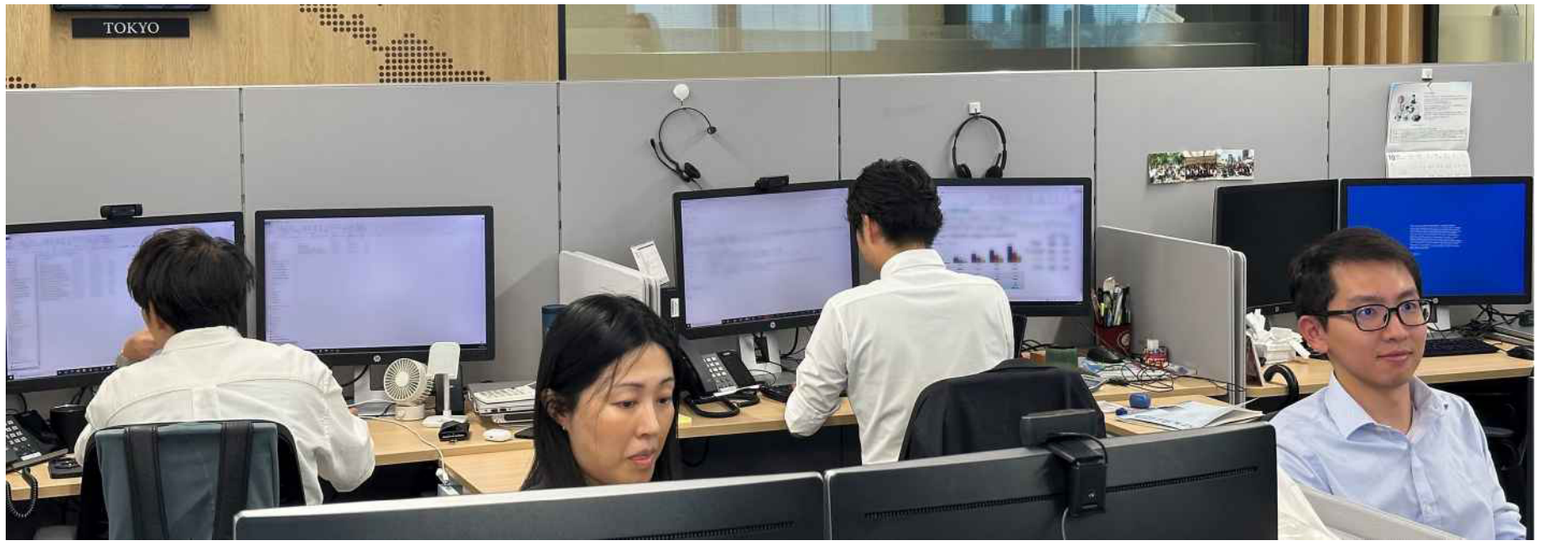
2021年、アフラック・インコーポレーテッドは、環境、社会、ガバナンスへの配慮を投資及び保有の意思決定に取り入れるための枠組みである責任投資原則（PRI）に署名しました。PRI署名企業としては、投資プロセスにこれらの配慮を取り入れるというコミットメントを強化しています。

自社運用資産については、投資の持続可能性を評価するプロセスを従来のファンダメンタルズ信用分析と統合しています。外部運用資産については、責任投資への配慮が投資プロセスにどのように組み込まれているかのレビューを含む年次モニタリングを実施しています。

私たちの 2024 年の取り組みは、社会と環境に直接的なプラスの影響を与える一助となっていると確信しています。2024 年 12 月 31 日現在、環境及び社会に影響を与えるサステナブル投資及びコミットメントは、2024 年に追加された 3 億 7,400 万ドルを含め、総額 53 億ドルを超えています。

環境及び社会に影響を与えるサステナブル投資やコミットメントの例としては、次のようなカテゴリが含まれます。

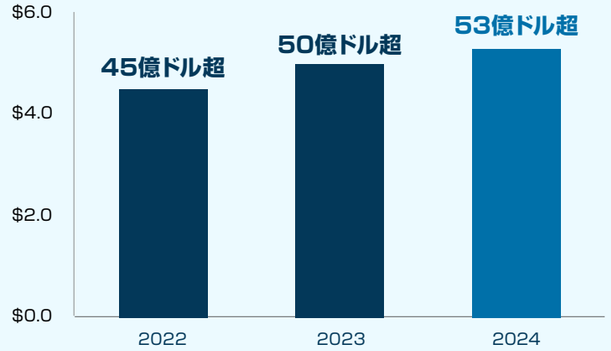
- 再生可能エネルギー：アフラック（日本法人）による日本の太陽光発電の普及を目的とした投資など、再生可能エネルギーへの取り組みの拡大を支援する公募債及び私募債、インフラストラクチャー債、グリーン・ビルディングへの投資
- 手頃な価格の住宅：低所得者層、十分な支援を受けられない、または経済的に困難な地域における不動産への融資に重点を置いた商業用不動産投資
- 手頃な価格の住宅、教育、病院、交通機関、水道施設への資金提供及び同様の投資を通じて、米国、日本及びその他の市場で地域コミュニティを支援する地方債及びその他の債券
- グリーンボンド、サステナブルボンド、またはソーシャルボンドに該当する公募及び私募市場で発行された債券
- 低炭素経済への移行、経済的エンパワーメントを直接もしくは間接的に支援する投資目的を有するプライベート・エクイティ及び不動産エクイティ・ファンドへの投資



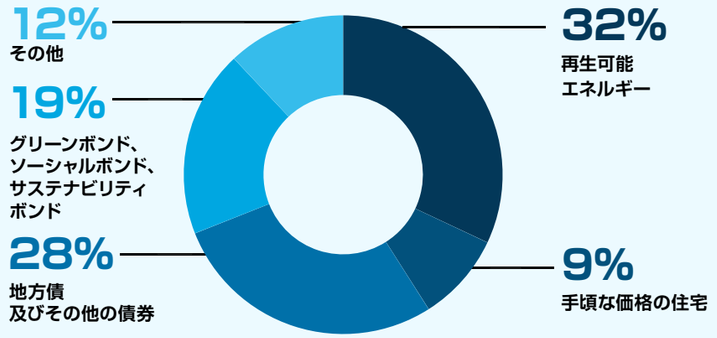
53億ドル超

をサステナブル投資及びコミットメントに配分
（2024 年 12 月 31 日時点）

サステナブル投資及びコミットメントの年次推移



サステナブル投資及びコミットメントのカテゴリ



サステナブル投資ポートフォリオは、サステナブル投資統合チームが監督しています。CSR・サステナビリティ委員会及びグローバルファイナンス委員会が、企業の社会的責任、サステナビリティの目標及び実行を監督・管理しています。

気候変動が当社のステークホルダーに影響を及ぼす可能性があることから、グローバル・インベストメンツは低炭素経済への前進に取り組んでいます。2050 年までに投資ポートフォリオの温室効果ガス排出量をネット・ゼロにするというアフラックのコミットメントの一環として、サステナビリティ慣行、基準、資産クラスのカバレッジ、データの質の向上に合わせて、投資に係る温室効果ガス排出量の算出方法を高度化し続けています。気候変動リスクに係る評価手法は、最新の業界及び市場慣行を取り入れるため、定期的に見直され、改善されています。私たちは、コミットメントの達成に向けて前進しながら、気候変動に対する取り組みを続けています。

2024 年を通じて、当社の投資ポートフォリオは、固定及び変動金利ポートフォリオの利回り改善により投資収益（純額）が増加し、好調なパフォーマンスを示しました。戦術的アセット・アロケーションの決定に加え、当社のオルタナティブ投資ポートフォリオからの変動投資収益（純額）も大きく寄与しました。

サステナビリティボンド

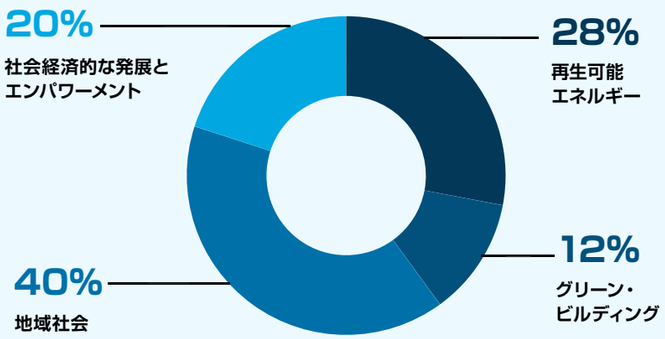
アフラックは 2021 年 3 月にサステナビリティボンドを発行しました。3 億 9,700 万ドルの調達資金（純額）は、再生可能エネルギー、グリーン・ビルディング、社会経済的発展・エンパワーメント、及び地域社会といった 4 つの適格カテゴリに全額が配分されました。

調達資金は 2022 年に全額配分され、以下の持続可能な開発目標（SDGs）に沿って投資されています。サステナビリティボンドの満期は 2026 年 3 月 15 日です。

資金配分された持続可能な開発目標

調達資金（純額）の適格カテゴリ別の使途

（累積ベース）[*1]



適格資産カテゴリ別の配分

対象カテゴリ	配分された金額[*2]（百万ドル）
再生可能エネルギー	111
グリーン・ビルディング	49
社会経済的な発展とエンパワーメント	80
地域社会	157
配分額合計	**397**

*1 調達資金（純額）は、サステナビリティボンドの枠組みに基づき、サステナビリティボンドによる資金調達額から債券発行費用を差し引いた金額です。

*2 2024年12月31日現在の配分額。「配分」は、現金による投資の実行、または投資対象先に対する法的拘束力のあるコミットメントの供与と定義されています。

環境

アフラック・インコーポレーテッドは、環境のため、そして私たちをお役立ていただいている人々の健康と幸福のために力を尽くしています。そのため、効果的かつ効率的な事業運営と責任ある環境保全のバランスを取るよう努めています。当社は、気候変動の緩和、天然資源の保護、温室効果ガスの排出量削減のために、自らの役割を果たし、当社の事業と投資の長期的な価値を確保し、私たちが住む世界を保護することに努めています。

アフラック SmartGreen

当社の経営陣と取締役会の CSR・サステナビリティ委員会は、すべての気候変動問題の取り組みを監督し、当社の SmartGreen® 理念を支援しています。その取り組みは、温室効果ガスの排出量を削減し、資源の効率的な利用方法を確保し、役職員が自然環境の良き管理者となるための革新的な手法を全社的に導入することに重点を置いています。

SmartGreen 理念:当社は、日々利用する資源を適切に選択、使用、処分し、これらの取り組みを以下の 5 つのカテゴリにおいて徹底して実践します。

- **事業活動**
- **ファシリティマネジメント**
- **役職員のエンゲージメント**
- **廃棄物の管理**
- **戦略的な調達・購買**

アフラック（日本法人）は、「アフラック SmartGreen」の考え方に基づき、2019 年に「環境経営宣言」を制定しました。また、企業活動を通じて戦略的かつ体系的な「環境経営」をさらに推進するため、「気候変動への対応」、「持続可能な資源利用」、「ステークホルダーエンゲージメント」の 3 つの重点テーマのもとで目標を設定しています。

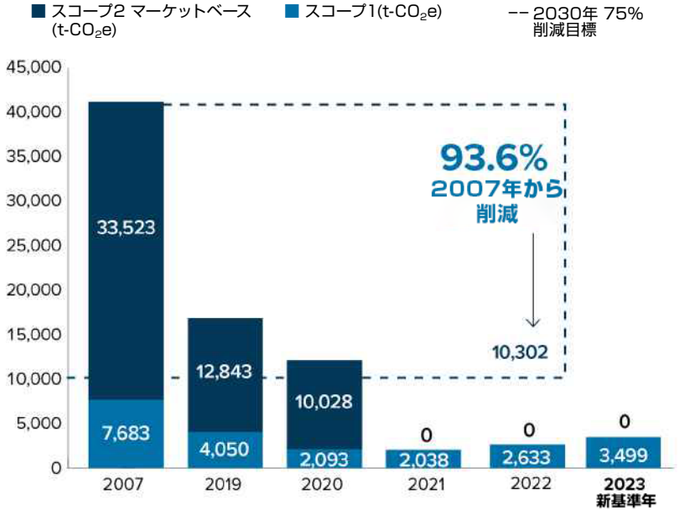
環境経営宣言

- 事業活動における環境配慮行動
- 環境関連法規の遵守
- 環境啓発活動の推進と社会に対する貢献
- 継続的な環境改善の推進

温室効果ガス削減とカーボン・ニュートラルの進捗

アフラック・インコーポレーテッドは、2007 年から 2022 年にかけてスコープ 1 及び 2 のマーケットベースの温室効果ガス排出量を 93% 以上削減しました。その結果、2007 年を基準年としてスコープ 1 及び 2 の排出量を 2030 年までに 75%削減するという目標を、予定より 9 年早く達成したため、スコープ 1 及び 2 の基準年を 2023 年へ更新しました。また、スコープ 3 のカテゴリ 1 から 8 についても基準年を 2023 年と設定しました。当社は 2023 年を、その後のスコープ 1、2、及び 3 のカテゴリ 1 から 8 の排出量を比較するための適切なベンチマークとして考えています。

アフラック・インコーポレーテッド排出量



2030年の目標には、アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）のスコープ1排出量の100%、アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）のスコープ2排出量（マーケットベース）の100%が含まれます。2007年のスコープ1及びスコープ2の総排出量（マーケットベース）は41,206t-CO_2e、2022年のスコープ1及びスコープ2の総排出量（マーケットベース）は 2,633t-CO_2eでした。これは基準年の排出量から93.6%の削減となります。

2023年、自社が所有・管理する施設での電力消費を2022年比で7%以上削減しました。省エネルギー化については、エネルギー効率の高い照明、暖房、換気、空調の導入、その他の排出量削減の取り組みへの投資を行いました。当社は再生可能電力の使用を継続します。再生可能エネルギー・クレジット（REC）[*1]を購入することでスコープ2の排出量（マーケットベース）を削減しました。また、カーボン・オフセットを購入し、スコープ1の排出量を相殺しました。上記の取り組みの結果、当社は、2023年12月31日終了の会計年度において、適用されたカーボン・オフセットとRECを含めた場合、スコープ1の温室効果ガス排出量及びスコープ2の温室効果ガス排出量（マーケットベース）に関してカーボン・ニュートラルを達成しました。アフラックは2020年以降、スコープ1及び2の排出量についてカーボン・ニュートラルを維持しています。パンデミックから回復する中で2023年には事業活動が活発化し、それに伴いスコープ1の温室効果ガス排出量も増加しました。

再生可能電力

当社は、持続可能な未来に貢献するスマートな環境ソリューションに投資しています。アフラックは、自社が所有・管理する施設で使用する電力の 100%を再生可能エネルギー源から調達しています。

- 2022年、アフラック（米国法人）は太陽光発電設備のフェーズ1を完了し、ポール・S.エイモスのキャンパスに1.3MWhの発電設備を設置しました。2023年、アフラック(米国法人)は発電設備を50%拡張しました。拡張された設備によって発電された電力は、アフラックの米国最大の施設であるポール・S.エイモス・キャンパスで使用される電力の50%以上を占めます。
- アフラック（日本法人）は、2021年から当社所有のビル「アフラックスクエア」で再生可能エネルギーを使用しています。また、自社ビルに加え、賃貸オフィスのビルオーナーとも、再生可能エネルギーの利用促進に取り組んでいます。

当社は、持続可能な未来に貢献するスマートな環境ソリューションに投資しています。写真は、2022 年に設置され、2023 年に 50%拡張されたポール・S.　エイモス・キャンパス（PSA）の太陽光発電設備です。拡張された設備では、2024 年に 300 万 kWh 以上発電しました。これは 275 世帯以上の電力に相当し、コロンバスの施設で使用される電力の 15%以上に相当します。[*2]

*1　再生可能エネルギー・クレジット（REC）は、再生可能エネルギー発電の環境、社会、その他の非電力的属性に対する財産権を表す市場ベースの商品です。1RECは、再生可能エネルギー資源から発電された1 MWh の電力を表します。
*2　アフラックPSAの太陽光発電設備は、年間300万kWh以上の発電を見込んでいます。米国エネルギー情報局によると、平均的な家庭用電力の年間使用量は10,791kWhです（3,000,000/10,791=278.01）。

省エネルギーへの取り組み

アフラックは、再生可能エネルギーの利用を増やすことに加えて、エネルギーの節約とエネルギー効率の向上にも取り組んでいます。

- 2024年現在、アフラック（米国法人）は、LEED（Leadership in Energy and Environmental Design)のInterior Design and Constructionにおいてゴールド認定を取得しています。また、アフラック（日本法人）は、2023年に日本の金融業界で初めて、LEEDのOperations and Maintenanceにおいて最高レベルの認証であるプラチナ認証を受け、2024年現在も維持しています。

  さらに、アフラック（日本法人）は、日本政策投資銀行（DBJ）が環境・社会配慮型不動産の促進を目的として創設した「DBJ Green Building Certification」において、5段階の認証のうち2番目に高い4つ星評価を取得し、2024年現在も保有しています。

- アフラック（米国法人）では、10年以上前から、所有する不動産の電力消費量の削減に取り組んできました。アフラック（米国法人）は、米国で初めてISO 50001:2018エネルギーマネジメントシステムの認証を取得した保険会社であり、ISO 50001:2018エネルギーマネジメントシステムとISO 14001:2015環境マネジメントの認証の両方を取得した最初の保険会社でもあります。2022年にISO 50001:2018の再認証を取得し、不適合事項はありませんでした。アフラックは、可能な限り環境に配慮した建物を所有または賃貸することに取り組んでいます。

EV社用車

アフラックが米国で保有する社用車には、電気自動車（写真（上））やハイブリッド車があり、拠点間の機材輸送に使われています。

- アフラック（日本法人）は、アフラックスクエアでのエネルギー使用量を削減するために、高効率エネルギーシステムへの転換を進めてきました。また、当社が入居する賃貸借ビルについても、低消費電力・長寿命のLED照明の導入や、環境省が推奨する設定温度に合わせた空調制御に取り組んでいます。さらに、役職員に対して照明、コンピュータ、ディスプレイ、空調設備等における節電を促し、環境意識の醸成を図っています。

- アフラック（米国法人）の各キャンパスには、環境に優しい車両の使用を促進するために、電気自動車（EV）充電ステーションを設置しています。役職員は勤務中にEVを充電することができます。アフラック（米国法人）の社用車にはEVやハイブリッド車も使用しており、社用車を購入する際には燃費効率を重視しています。アフラック（日本法人）は、会社で使用する多くの車でハイブリッド車を使用しています。

- 当社はITインフラをクラウド・ソリューションに移行することによりCO_2排出量を削減しています。一部のクラウド・プロバイダーは再生可能エネルギーも使用しており、当社のCO_2排出量の削減に貢献しています。また、デスクトップ・インフラの一部をクラウドに移行することも検討しています。

廃棄物の削減

リサイクルは私たちの文化の一部となっています。アフラック米国法人と日本法人では、2023 年に 768 トンを超える紙、金属、プラスチック、電子機器をリサイクルしました。これは、廃棄物全体の 77% にあたります。当社では、従業員向けのリサイクルボックスをほとんどのオフィスに設置しています。

リサイクル

アフラックは、自社の廃棄物を埋立地や焼却場に送るのではなくリサイクルすることで、環境汚染や排気ガスによる有害な影響を軽減し、持続可能な地球環境の保全に努めています。

シェッド&シュレッドイベント

アフラック（米国法人）の役職員は個人所有の電子機器や書類を自宅から持ち寄り、年 2 回の回収を通じて安全に、かつ責任を持ってリサイクルしました。2024 年の回収では、31 箱分（1 箱 65 ガロン=約 246 キログラム）の紙と、3,702 ポンド（約 1,680 キログラム）の電子機器をリサイクルしました。

不要な衣類の回収、リユース、リサイクル

役職員が持続可能な環境づくりの重要性を理解し、環境保全を自分ごと化できるよう、不要になった衣類を回収、リユース、リサイクルするプログラムを実施し、合計 3,113 ポンドの衣類を集めました。この取り組みは、アフラック・ハートフル・サービス株式会社 * と協働して実施することで、障がい者の雇用や就労支援にもつながる活動となっています。この取り組みは 2024 年 8 月と 10 月に実施されました。

思いやりのあるファッション

アフラック（北アイルランド法人）の従業員は「思いやりのあるファッション」イベントを開催しました。このイベントでは、スタッフが不要な衣類を持ち寄り、グリーン・コミッティーがそれらを販売し、その収益が地元ベルファストのホームレス支援団体に寄付されました。

* 障がい者雇用を目的としたアフラック生命グループの特例子会社

エンゲージメント

役職員エンゲージメント

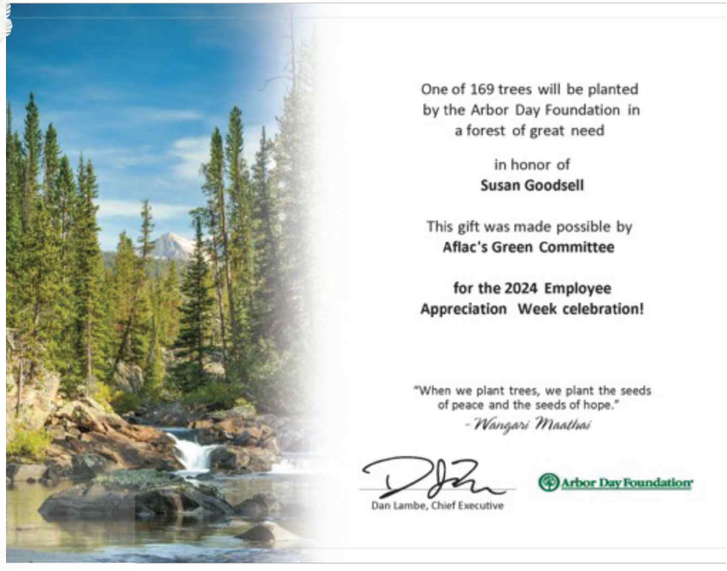
アフラックは、環境への意識を高め、役職員と地域社会の健康と幸福に貢献する持続可能な職場環境を維持することに力を尽くしています。役職員一人ひとりが、地球環境問題や事業活動が環境に与える影響を理解し、省エネルギー化の取り組みや資源のリサイクル・再利用の推進など、環境経営に向けて具体的に取り組んでいます。当社は、特別なイベントやオンライン学習セッションを通じて、役職員にさまざまな環境教育の機会を提供しています。私たちは職場に限らず家庭でも環境に配慮するよう役職員に呼びかけています。

生物多様性と自然

国連によると、生物多様性の促進は気候変動による悪影響を軽減することに繋がります。生息地の保全または復元を通じて、大気中の CO_2 を除去し炭素を貯蔵することで気候変動に対処することができます。生物多様性を促進するため、アフラックは年間を通じて植林活動をはじめとした役職員の環境意識の醸成に取り組んでいます。

植樹祭

米国では、アフラック・グリーン・コミッティーが人事部の従業員エンゲージメント・チームと協力し、会社の CO_2 排出量削減目標に貢献しました。Employee Appreciation Week（全従業員に感謝する週）の期間中に記念品を受け取らないことを選択した従業員一人につき 1 本の樹木を Arbor Day Foundation が国有林に植樹しました。アフラックは記念品を受け取らずに、CO_2 排出量の削減に貢献した従業員に敬意を表して、合計 169 本の樹木を寄贈しました。



植林

アフラック（日本法人）は、紙の消費量を削減するペーパーレス推進の一環として、保険証券を紙ではなく電子的に発行する取り組みを推進しています。お客様が電子証券を選択された場合に当社が植林を行うキャンペーンを実施したところ、2024 年 7 月から 9 月までの 3 ヶ月間で 15,059 件の契約で電子証券が選択されました。結果としてアフラック日本法人の社員及び販売アソシエイツは 450 本を植林し、幼木 52 本分の育成費用を支援しました。

アフラック（北アイルランド法人）の従業員は、毎年誕生日に、慈善団体ツリー・エイドによってアフリカのサヘル地域に植樹される木を選ぶことができます。ツリー・エイドは、植樹を通じて、現地の人々の収入を改善し、土地を回復・保護することで、貧困や気候変動の影響に取り組む国際的な団体です。

地域清掃

私たちは、当社が事業展開している地域社会を大切にしています。地域社会への恩返しとして、役職員がボランティアで清掃やゴミ拾いを行いました。

ジョージア州コロンバス

2024 年 7 月、グリーン・コミッティーが開催した 4 回目となる年次イベント「Walk, Jog and Plog」に、全社から役職員が参加しました。参加者たちは一緒に 1,715 マイル（約 2,760 キロメートル）を歩いたり、ジョギングや走ったりしながら、68 袋以上のゴミを拾いました。

東京都調布市

2024 年 10 月、アフラック（日本法人）の役職員約 40 名が、環境意識の醸成と社会貢献を目的に、アフラック（日本法人）の自社ビルがある調布駅周辺の清掃活動を行いました。

教育セッション

- グリーン・コミッティーは2024年に16回目となる年次の「Earth Day Expo」を開催しました。このセレモニーには、コロンバスキャンパスでのライブイベントも含まれ、地域社会で持続可能性に取り組むパートナー企業や団体が集まるベンダーフェアが行われました。これにより、従業員が持続可能性に関するトピックについて直接パートナーから情報を得られる機会が提供されました。グリーン・コミッティーはまた、米国の従業員向けに、生活に直接影響を与えるさまざまなトピックに焦点を当てた4つの教育セッションを開催しました。セッションの内容は、Siemensによる「電気自動車と電力網の実態」、Arbor Day Foundationによる「木のパワー」、Georgia Power, による「電気代を節約する方法」、及びChattahoochee Riverkeeperによる「清潔な水路について知ろう」でした。
- アフラック（日本法人）では、3R（リデュース・リユース・リサイクル）など資源循環をテーマに、専門家による講演会を実施しました。日本法人の役職員のほか、調布市の一部職員も参加し、一人ひとりが普段の業務や生活においても環境問題を考える契機となりました。
- アフラック（北アイルランド法人）のグリーン・コミッティーは、チーズやバター、スプレッドなどのビーガン食品を製造する地元企業から講演者を招きました。従業員はビーガン製品を試食し、通常の非ビーガン製品と比較し、ビーガンベースの食事が環境に与える影響と利点について学びました。

グリーン・コミッティーは16回目となる年次の「Earth Day Expo」を開催し、従業員が持続可能性に関するトピックについて直接パートナー企業や団体から情報を得られる機会を提供しました。

サプライヤーとのエンゲージメント

当社は、環境保全にはサプライヤーを含むすべてのステークホルダーとのパートナーシップが必要であると考えています。サプライヤーは当社のバリューチェーンの一部として重要な役割を担っており、アフラックはネット・ゼロ・エミッションの目標達成に向けて、サプライヤーとの協働を続けています。当社は、社会、経済、地球環境の長期的な健全性と活力を高めることを目的とした非営利団体「Sustainable Purchase Leadership Council」の創設メンバーであることを誇りに思います。

温室効果ガスの削減

サプライ・チェーンにおける温室効果ガス排出量削減の取り組みは、意識向上が基盤となります。アフラックは以下のような方法でこれを実現しています。（1）アフラックのサプライヤー行動規範で、環境に関するベストプラクティスを取り上げること、（2）主要なサプライヤーに環境に関するアンケートを通じて働きかけること。

アフラックのサプライヤー行動規範では、当社のサプライヤーに以下を求めています。

- 環境に関して適用される法律や規制を遵守すること
- 環境に関するベストプラクティスを実践し、温室効果ガス排出量の削減目標を設定すること

当社の取り組みはこれだけにとどまりません。アフラックのサプライヤー行動規範を通して、また、主要なサプライヤーとの追加的な関わりを通じて、当社は意識を高め、サプライヤーが自らの事業や上流のサプライ・チェーン、顧客基盤における温室効果ガス排出量を削減するよう働きかけています。

オフィス家具及び備品

当社のオフィス家具は、商業用家具のライフサイクル全体にわたる持続可能性を促進するBIFMA's LEVEL certification systemを満たしています。米国では、持続可能性を意識して設計されたオフィスチェアを使用しています。米国の標準的なオフィスチェアは、海洋に浮遊するプラスチックを再生し、オフィスチェアの一部に転用する取り組みの一環です。これらのオフィスチェアは、特定のリサイクル施設で最大 91% のリサイクルが可能で、ANSI/BIFMA e3 Furniture Sustainability Standard の要件を満たしています。

アフラック（日本法人）では、再生可能エネルギーの使用を優先し、環境に優しいオフィス家具や事務用品を使用しています。例えば、環境に配慮した事務用品の導入をサプライヤーに求めたり、新しいオフィス家具を導入する際にはカーボン・オフセット製品 * の購入を進めています。

* サプライヤーが製品の製造・輸送・廃棄等の製品ライフサイクルを通じてCO_2排出量を計算し、算出されたCO_2排出量に相当するカーボン・オフセットクレジットとともに販売する商品のこと

スコープ1、スコープ2、スコープ3の温室効果ガス排出量

当社の温室効果ガス排出量には、財務管理方法に基づいて定義された、米国と日本において当社が所有・管理する施設から発生するすべての直接（スコープ 1）及び間接（スコープ 2）の温室効果ガス排出量が含まれます。本報告書には、スコープ 3 に関連し報告された温室効果ガス排出量も含まれています。当社は、2023 年のスコープ 1、スコープ 2、及びスコープ 3 の 8 つのカテゴリの排出量（算出・開示されたスコープ 3 排出量の 100%に相当）について、第三者機関による検証と限定的保証を取得しました。右の表は、スコープ 1 及び 2 の温室効果ガス排出量を示しています。独立監査人によるレビューレポート及びアフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明は、当社ウェブサイト（こちら）をご覧ください。

未来へのコミットメント

私たちは大きな進歩を遂げましたが、環境への影響を軽減するためにやるべきことは山積しています。アフラックは、エネルギー消費、水使用、廃棄物の削減に引き続き注力し、温室効果ガス排出量の削減に役立つ新しい技術や方法に投資し、より多くの再生可能エネルギーを採用することを通じて、当社の施設をより持続可能なものにしていきます。

アフラック・インコーポレーテッドの TCFD レポートと最新の気候変動に関する CDP への提出資料の詳細については、こちらをご覧ください。

以下の表は、2023 年スコープ 1 及び 2 の温室効果ガス排出量に関する情報です。

スコープ1及び2の排出量(t-CO_2e)	
スコープ1*	3,499
スコープ2（マーケットベース）	0
スコープ2（ロケーションベース）	7,562
スコープ1とスコープ2（マーケットベース）の合計	3,499
償却済みカーボン・オフセット	3,499

* サステナブルな航空燃料の燃焼による$CO_2$194トン相当の生物由来の排出量は含みません。

以下の表は、スコープ3のうち関連性を考慮した各カテゴリ及び第三者保証の有無を示しています。

カテゴリ	カテゴリとの関連性	第三者保証	CO_2排出量 (t-CO_2e)
1. 購入した製品・サービス	購入した製品やサービスに関連する排出量	はい	170,565
2. 資本財	購入した資本財に関連する排出量	はい	6,712
3. スコープ1または2に含まれない燃料及びエネルギー活動	購入した電力の生産と配電に関連する排出量	はい	3,039
4. 輸送・配送（上流）	輸送・配送に伴う排出量	はい	7,038
5. 事業から出る廃棄物	事業所内で発生する廃棄物の処理・処分に伴う排出量	はい	208
6. 出張	業務に関連する活動のための移動から生じる排出量	はい	11,069
7. 役職員の通勤	役職員の通勤やリモートワークによって生じる排出量	はい	4,336
8. リース資産（上流）	資産のリースに伴い生じる排出量	はい	5,434
15. 投資	温室効果ガス排出を伴う金融投資による排出量	いいえ	ファイナンスド・エミッション手法を試験運用中
			合計　208,401

カテゴリ 9 から 14 のカテゴリである、輸送・配送（下流）（カテゴリ 9）、販売した製品の加工（カテゴリ 10）、販売した製品の使用（カテゴリ 11）、販売した製品の廃棄（カテゴリ 12）、リース資産（下流）（カテゴリ 13）、フランチャイズ（カテゴリ 14）は、アフラックでは該当は無く、CO_2 の排出はありません。カテゴリ 15 は該当しますが、現時点では報告していません。当社は、サステナビリティの実践、関連する基準、資産クラスのカバレッジ、及びデータ品質の向上に伴い、ファイナンスド・エミッションの手法を試験的に運用しています。

人財

私たちは、正しい行いはビジネスのためになると理解しています。そしてまず、アフラック・ファミリーに投資をすることで、日々それを実践しています。当社では、日米ともに、従業員が高い帰属意識を持つ企業文化の醸成に努めています。具体的には、従業員のキャリア開発を支援し、ワーク・ライフ・バランスを重視しながら従業員の声や考えに耳を傾け、その懸命な働きに心から感謝することを心掛けています。当社の包括的な人財理念は、「人財を大切にすれば、人財が効果的に業務を成し遂げる」というものです。

ジョージア州コロンバスのキャンパスにあるウォーキング・トレイルでは、ウェルネス休憩の時間に多くの従業員が散歩を楽しみ、リフレッシュしています。

従業員の健康増進とワーク・ライフ・バランス

アフラック（米国法人）では、健康増進を身体、感情、社会、精神、経済の５つの次元からとらえ、包括的にアプローチすることを信条としています。これらの次元はそれぞれ異なる性質のものですが、これら５つのすべてが、従業員の幸福全体の鍵を握っています。当社の目標は、従業員の健康増進に関する５つの次元をすべてカバーするリソース、サービス、ツールを従業員に提供することです。これには、以下のものが含まれています。（ただし、これらに限定されません）

アフラックは、米国の従業員に対し、ウェルハブ（Wellhub）を通じて、ジム施設のエントリーレベルの無料会員資格を提供するほか、施設内にジムも設置しています。

身体 - 従業員が最適な健康状態と機能性を保つために、適切なケアを行うことを奨励しています。

- 急性期、慢性期、予防、理学療法に対応する、対面またはオンラインで相談できるケアセンター
- 施設内のジム
- ウェルハブ（Wellhub）を通じて提供されるジム施設のエントリーレベルの無料会員資格
- ヘルス・コーチング
- 家庭用の理学療法エクササイズと器具
- オンライン・ヘルスケア
- 医療、歯科、眼科、処方薬サービス
- 不妊治療、有給休暇制度、チャイルドシートの無料配布を含む家族計画
- 予約サポートを行うヘルス・アドバイザー
- レクリエーションのためのスポーツチーム
- 従業員が自身の健康状態を把握し、改善が必要な分野を把握するための、年2回の健康診断の実施
- 従業員が新鮮な空気を吸ってリフレッシュできるように、複数の当社施設（キャンパス）で利用できるウォーキング・トレイル
- 最も効果的で快適な職場環境づくりを支援する、スタンディング・デスクやチェアなど、人間工学に基づいた備品の提供
- 健康の重要性を強調するため、経営陣も参加する全社的なウェルネス・チャレンジやコンペを年間を通じて実施

感情 - 従業員が、自分の感情に気づき、人生における課題に対処することを促し、浮き沈みを乗り越えるためのツールとサポートを提供します。

- 対面及びオンラインによる行動保健学的ヘルスケア
- バーチャル・メンタル・ヘルスケア・アプリ
- 家族に不幸があった際の各種事務手続き（葬儀の計画、遺産相続の支援、金融機関やソーシャルメディアのアカウント閉鎖等）を含む精神的サポート・アプリ
- 薬物乱用、家庭問題、夫婦間の問題、さらには経済的・法的問題など生活におけるさまざまな問題に対処するための従業員支援プログラム

社員がワーク・ライフ・バランスを実現するため、育児に関して利用しやすいオプションを提供しています。

社会 - 私たちの健康と幸福に欠かせない重要な側面を形成します。

- 当社施設内に設置された託児所
- 家族計画 - 親のサポート
- チャイルドシートの提供と安全講習会

従業員の経済的な豊かさを確保するための包括的な金融リソースを提供しています。

精神 - 個人が人生の目的や価値、意義を見出すことを促します。

- 対面またはオンラインで相談できる企業内牧師

アフラック（米国法人）では、健康増進を身体、感情、社会、精神、経済の5つの次元からとらえ、包括的にアプローチすることを信条としています。

経済 - 経済的に「良好」であるとは、家計のやりくり、経済的な目標の達成、リスクへの備え、不測の事態や将来のニーズに向けた貯蓄、そして経済的な打撃への対処などができる能力を持つことを意味します。当社は、社員の経済的な幸福を確保するための包括的な金融リソースを提供しています。

- 確定拠出年金
- 学生ローン返済積立金マッチプラン - 教育ローン（自身または子どもの学費融資）の返済額を従業員拠出額にプラスして会社によるマッチングの対象とし、老後のための備えを支援
- 家計のやりくり、経済的な目標の達成、リスクへの備え、不測の事態や将来のニーズに向けた貯蓄、そして経済的打撃への対処などを支援する、ファイナンシャル・コーチング
- 個人情報保護
- 信用組合
- 医療費、育児・介護費用のためのフレキシブル支出口座（非課税拠出積立口座）
- シンプリカレッジ（SimpliCollege）・プランニング・アシスタンス
- 遺産計画支援
- 従業員に無償提供される4つの補完保険商品
- 従業員の株式購入プラン
- ペット保険

アフラックでは、健康な従業員が成功に不可欠な要素であることを誰もが理解しています。従業員の幸福に焦点を当てることは、事業価値の創造、生産性の向上、人財の確保など、良い結果をもたらします。極めて効率的で士気の高い職場づくりを目指している当社にとっては、健康増進に向けたコミットメントは、多くの取り組みの一つに過ぎません。アフラック（日本法人）では、従業員の健康増進に積極的に取り組んでいます。2016 年に「健康経営宣言」を行い、健康経営の実効性を高めていくため、2022 年から 2024 年の3年間、「健康経営 2024」に取り組みました。2 万社以上の企業の健康ビッグデータを分析して従業員の健康上の課題や強化領域を特定し、従業員の健康増進につながる施策として、以下を含む多くのツールとリソースを提供しています。

- **目標の設定**：運動・メンタルヘルス・食事・飲酒・禁煙の5つのテーマから個人目標を設定し、セミナー等のサポートプログラムを活用しながら100日間の継続にチャレンジする「まいにち健康チャレンジ」を実施し、従業員の52%が参加しました。また、2028年までに喫煙率0%を目指す「アフラックの喫煙率ゼロ宣言」を発表しました。
- **運動の推進**：運動不足解消やチームのコミュニケーション活性化のために、目標歩数を目指して歩き、スマートフォンアプリ上で歩数を共有する「ウォーキングキャンペーン」を実施し、従業員の70%が参加しました。
- **従業員の支援**：病気やけがをした従業員が、治療に専念・両立しながら安心して働くことを支援するための「がん・傷病就労支援プログラム」を、すべての従業員に提供しています。

アフラック（日本法人）の従業員の健康増進への取り組みは外部からも高く評価されています。 2024 年には日本の経済産業省から「健康経営優良法人」に 7 年連続で認定されています。この認定は、従業員の健康管理・働き方改革への戦略的な取り組み、そして職場環境の整備において優れた取り組みを行っている企業に与えられるものです。

2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

創業 50 周年の 2024 年 11 月には、社員の未来を見据えた健康増進と、治療と仕事の両立支援を明示した「健康経営宣言 2.0」に進化させ、社内外に従業員の健康へのコミットメントを宣言しています。

また、アフラック（日本法人）は、職場内で保育園を運営するとともに、産前、産後休暇・育児休職中、復職後の仕事と子育ての両立など、子育てのステージごとに必要なサポートを提供しています。

アフラック（日本法人）All Ribbons

アフラック（日本法人）は、2017 年、がんを罹患中または経験した有志の従業員による社内のピアサポート・コミュニティ「All Ribbons」を設立しました。この名前には、さまざまながんの経験を持つ仲間を支えたいという社員の想いが込められています。All Ribbons のメンバーは、互いに支えあい、がん治療と仕事の両立に悩む社員の支えになっています。All Ribbons のメンバーは、メンバー同士でそれぞれの経験を共有しています。また、従業員向けの相談サービスを提供しているほか、がんに関する情報を提供するパネルディスカッションや社員対話型イベント「All Ribbons Cafe」を開催しています。

従業員への感謝

従業員を大切にするという基本理念を中心に、アフラックは個人の貢献を認め、前向きな職場環境を醸成することを重視しています。当社では、年間を通じて社員を祝うさまざまなイベントや活動を実施し、従業員との関わりと感謝の気持ちを大切にしています。例えば The Aflac Way 従業員表彰プログラムでは、「The Aflac Way」の７つの約束を守り、さらにそれ以上の成果を上げた同僚や上司を誰でもノミネートすることができます。ノミネートされるとポイントが付与されるシステムになっており、従業員は表彰を受けるだけでなく、集まったポイントを特別な賞品と交換できます。

Employee Appreciation Week（全従業員に感謝する週、通称 EAW）は、アフラックの伝統として何年も続いています。EAW は、アフラックにとって最も大切な財産である従業員を称える１週間です。毎日行われる賞品抽選会や、永年勤続表彰、ゲーム、エンターテインメント、食事やスナックを用意し、地域貢献活動など、さまざまな催しが行われます。EAW は、米国では Founders Week に続いて５月の第１週に、日本ではアフラック（日本法人）の創業記念日に合わせて毎年 11 月に開催されています。EAW では、アフラックが日々従業員にどれほど感謝しているかを伝えられるよう、趣向が凝らされています。

アフラック・インコーポレーテッド及びアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラー（左）と、アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者のダニエル・P. エイモスは、従業員とともにEAWを祝いました。

2024 年、創業 50 周年を迎えたアフラック（日本法人）では、従業員向けのアニバーサリーセレモニーが開催されました。このイベントは全従業員にライブ配信され、アフラック（日本法人）の社長が抽選を行う特別抽選会も行われ、50 年間の成功に尽力してくれた従業員の努力と献身に感謝の意を表しました。

アフラック（日本法人）で開催された全従業員参加型のオンラインライブイベントの様子と、イベントで公開された従業員の思い出の写真で作られた50周年記念モザイクアート

アフラック（日本法人）における家族職場見学会と永年勤続表彰会。様々な社内イベントを通して、楽しみながら日本のEAWを祝っています。

従業員のエンゲージメント

従業員を称えることは大切ですが、エンゲージメントを向上させるための方策は、これにとどまりません。アフラックは、従業員が大切にされ、意見を聞いてもらえると感じられる環境づくりに努めています。そのために、従業員のエンゲージメントの強化を図ることが重要だと考え、従業員エンゲージメントサーベイを定期的に実施し、改善すべき点を洗い出しています。

アフラック（米国法人）では 2023 年春に最新の調査を実施し、このアンケートからのフィードバックを活用して、従業員の要望やニーズに基づいて組織の変更や強化を行ってきました。

アフラック（日本法人）は全社で従業員エンゲージメントの向上に取り組んでおり、2024 年に実施した調査では、人財エンゲージメントスコアは 66%となり、日本国内の平均値 58%を大きく上回る結果になりました。アフラック（日本法人）は、従業員のエンゲージメントを高めるためにさまざまな取り組みを実施しています。

アフラックは日米において、ダイバーシティへのエンゲージメントや認知、理解の機会を従業員やリーダーに提供しています。たとえば米国では、Aflac Way Honors プログラムを通じて、並外れた活躍をした従業員やリーダーを称えています。また、ボランティア活動を通じて、従業員同士や地域社会との交流を図っています。さらに、ダイバーシティ・カウンシルや特定の宗教宗派によらない信仰指導者が、従業員をサポートしています。

主要ハイライト: アフラック（米国法人）従業員エンゲージメントサーベイ

83%
2023年の総合エンゲージメントスコア
外部ベンチマークを8ポイント上回る

73%
参加率

88%
アフラックの一員であることを誇りに思う従業員

80%
アフラックは仕事を全うする上で必要なトレーニング、環境、ツール等を整えてくれていると考える従業員

70%
他社への転職をほとんど考えていない従業員

88%
アフラックが雇用主であることに満足している従業員

84%
アフラックのマネジメントは効果的であると考える従業員

87%
アフラックが倫理的な事業活動への経営判断と行動を示していると考える従業員

左から右へ：アフラック・インコーポレーテッド及びアフラック（米国法人）社長のヴァージル・ミラー、シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼チーフ・フィナンシャル・オフィサーのマックス・ブローデン、エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼最高法律顧問のオードリー・ブーン・ティルマンは、年次の全社会議である「State of the Company meeting」でパネルディスカッションを行いました。

人財開発

アフラックにとって、人的資本こそが最大の競争力です。従業員の能力開発に力を入れており、全従業員のスキルアップと能力開発を推進するための豊富なプログラムや支援が提供されています。2024 年、アフラック（米国法人）は引き続き人財の未来に焦点を当てることに注力しました。具体的には、人財に関するプランニングセッションを約 30 回実施し、その中のトップ人財として特定されたリーダーの能力開発計画の文書化を行いました。また、リーダーとそのチームを対象としたチーム・ワークショップを通じて、ホールブレイン・シンキングや DISC アセスメントを提供することで、リーダー育成の機会を増やしました。このようなワークショップを通じて、チームは一緒に働く従業員のコミュニケーションスタイルや思考スタイルを理解することができます。従業員向けには、リーダー・ラーニング・ラボと同様の「従業員ラーニング・ラボ」を新設しました。このラボでは、社員が職場の重要なトピックについてベストプラクティスやヒントを仲間と共有し、仲間同士の学びに取り組みます。また、次世代リーダーを育成する社内プログラム「LEAD NEXT」も実施しました。

またアフラック（日本法人）では、「多様な人財が自律的に働き、最大限に力を発揮する」を理念とした人財マネジメント制度を導入しています。社員の自律的なキャリア形成を支援するために、社員は能力開発計画書をもとに上司と対話（1on1）し、社員一人ひとりが目指すキャリアや能力のギャップを明確化し、具体的な能力開発のための取り組みを進めています。例えば、チャレンジングなアサインメントなどのやりがいのある仕事の提供、全管理職を対象にした「アフラック版人財マネジメントのスキルマップ」に基づく人財マネジメント力のアップスキリングの実施、職種を問わず、全社員に共通して求められるスキル・能力を学ぶことができるプログラムやマイクロラーニングなど、さまざまな仕組みやトレーニングを提供しています。また、リーダーシップ・パイプラインを継続して強化するために、選抜型の人財育成プログラムも展開しています。2023 年から代表取締役社長と部門統括役員自らが講師を務める「アフラック・リーダーズ・スクール」を実施しています。

アフラック（米国法人）では、全従業員がキャリア・コンサルタントと面談し、メンタリングやキャリア成長の機会を活用できるキャリア支援・能力開発サービスを提供しています。

さらに、2024 年 11 月には、アフラック（日本法人）で創業 50 周年を迎えることを記念し、企業内大学「アフラック・リーダーシップ・アカデミー」を設立しました。持続的な企業価値向上に向けて、成長意欲のある人財を鍛え、次世代を担うリーダーの育成をさらに強化していきます。

Aflac Leadership Academy

キャリア・サクセス・センター

アフラックは従業員の成長と育成に投資しています。テレサ・ホワイト・キャリア・サクセス・センターは、キャリアの機会に備える従業員をコーチングし、エンパワーし、支援するために設立され、当社の人財の育成及び定着を強化しています。アフラック（米国法人）では、全国の従業員がキャリア・コンサルタントと面談し、メンタリング、コーチング、履歴書作成、模擬面接、キャリア相談、試験監督、人財評価などについての指導を受けることができる、キャリア支援・能力開発サービスを提供しています。さらに、キャリア・サクセス・センターは、社内のすべてのリーダーがアドバイスを共有し、ネットワーキングの機会を促進するためのリソースにもなっています。また、サービスには、従業員のキャリア成長と能力開発を支援するためのジョブシャドウイング（職場体験）の機会や、教育リソースに関する助言も含まれます。

メンタリング

従業員が「知っていることを教え、知らないことを学ぶ」機会を提供するのが、アフラックのメンタリング・プログラム「TEACH」です。そのミッションは、自己啓発を追求するよう従業員のエンゲージメントを高め、鼓舞し、エンパワーすること、同時に成長や進歩を促すために他者の有用なスキルや経験に触れる機会を提供することにあります。TEACH のメンターは、組織横断的なリーダーたちで、6 カ月間の従業員メンタリング・プログラムにボランティアで参加します。プログラムのメンターとメンティーは、キャリアの整合性と能力開発上の課題に基づいてマッチングされます。このプログラムは、さまざまな体系的な活動を提供するものですが、正式なプログラムの終了後も、双方の協力関係が続くことが期待されています。

TEACH

日本のWork SMART

アフラック（日本法人）は、新型コロナウイルス感染症の流行以前から、「アフラック Work SMART」という働き方改革を推進しています。この取り組みは、社員一人ひとりが仕事の進め方を見直すとともに、「時間」と「場所」にとらわれない働き方の実現に向けた制度・インフラの整備を通して社員のワーク・ライフ・マネジメントを支援し、組織としてのパフォーマンスを最大化させることを目指しています。

「時間」にとらわれない働き方

アフラック（日本法人）は、シフト勤務、フレックスタイム制度、時間単位の年次有給休暇を活用することにより、すべての従業員が柔軟に働くことができます。育児や介護をしている従業員は、短時間勤務制度とシフト勤務を組み合わせることで、最大 10 通りの勤務時間を選択することができます。

「場所」にとらわれない働き方

アフラック（日本法人）は、すべての従業員が在宅勤務を行えるよう、システムや環境を整備しています。例えば、全社員にノート PC に加えタブレット端末やスマートフォンを配布することで、社外から社内システムへのアクセスを容易にし、Web 会議システムを活用しながらオフィスにいるのと同じように働くことができる環境を整えています。

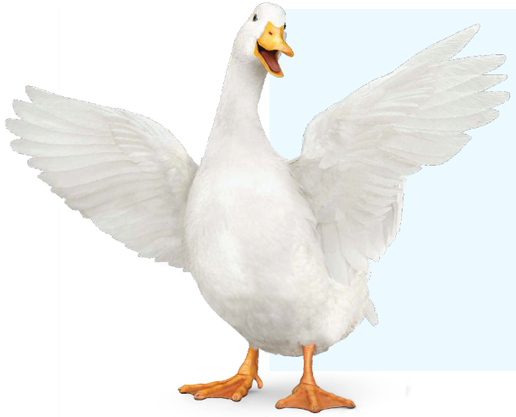
アフラック（日本法人）はリモートとオフィス、それぞれの価値を踏まえ、組織成果を最大化するため『「部門型人財マネジメントにおける戦略的ハイブリッドワーク」のプリンシプル』を定め、オフィスとリモートワークを最適に組み合わせるハイブリッドな働き方を実現しています。

アフラック（日本法人）は、社員がワーク・ライフ・マネジメントを実現できる環境づくりに努めています。 2024 年のハイライトは、以下のようなものです。

- 対象となる従業員の100%が育児休職を取得しました。
- より柔軟な働き方の推進により、従業員はプライベートと仕事の時間をより効果的に両立できるようになりました。例えば、育児のために時短勤務を選択する社員数は、2015年以降27.5%減少しました。（2015年=53.4%、2024年=25.9%）

2022 年以降、「アフラック Work SMART」は、効率性から、効率性を維持しながら新しい価値を創造すること（「Work SMART2.0」）に重点を移し、人財エンゲージメントのさらなる強化を図っています。

男性社員も育児休職を取得しています。



アフラック Work SMART の頭文字は、以下の内容を表しています

S	M	A	R	T
視野を広く持つ	目的を考える	自分から動く	対話を重ねる	時間を意識する

アフラックの人財

アフラックの文化は、他者を思いやり、全従業員の帰属意識を育むことに根ざしています。2001 年、アフラック・インコーポレーテッドの会長兼最高経営責任者であるダン・エイモスは、アフラック初となるダイバーシティ・カウンシルの設立を主導しました。当社のダイバーシティへの決意は脈々と続いており、現在、従業員が主導するカウンシルがグローバルで 9 つ運営されています。これらのダイバーシティ・カウンシルには、さまざまな階層の従業員が参加しており、定期的に集まってアフラック・ファミリーをより強くしていくための活動や取り組みについて話し合います。このカウンシルは、従業員がコミュニケーションを取り合い、互いの違いを尊重し合う場になることを目的としています。

従業員は当社の根幹をなすもので、当社は、その多様な経歴、経験、そして考え方から、大きな恩恵を受けています。ダイバーシティは、一貫してアフラックの企業文化における重要なテーマであり、その人財戦略にとって欠くことのできない要素です。

帰属意識の醸成、組織のあらゆるレベルでのダイバーシティ、差別のない充実した職場の提供、ひいては従業員、地域社会、お客様のサポートといったアフラックの文化を持続させることに尽力しています。

アフラック（米国法人）は、「認知」「地域社会」「人財」「説明責任」の４つの柱を通じ、職場における多様性の伝統を受け継いでいます。

アフラックでは、尊重し合い、インクルーシブで多様な人財を育成し続けるダイバーシティプログラムの作成に努めています。アフラック・ダイバーシティ・カウンシルは、ダイバーシティの取り組みをサポートする対話と教育の機会を提供し、このビジョンを地域社会やお客様に広げるための重要な役割を担っています。2024 年、これらのカウンシルは、ダイバーシティ&インクルージョンに焦点を当てた 10 以上の研修やイベントを企画または開催し、3,000 人以上の参加者を集めました。

地域社会への支援は、これまでと変わらず優先事項です。地域社会には、年齢、性別、社会経済的、退役軍人、民族など、多様な地域社会における格差が存在しますが、今年は寄付総額の 75% 以上を、こうした問題の対処に充当し、地域社会にポジティブな影響をもたらしました。

アフラックの従業員は、日々ダイバーシティを大切にすることに加え食事や音楽、交流を通じてダイバーシティを祝うイベントであるダイバーシティ・デーも楽しんでいます。

ダイバーシティ・デーでは、アフラック（米国法人）の従業員がそれぞれの習慣や食べ物、考え方を共有し、ユニークな背景や経験を称えます。

アフラックは、従業員やその子、孫のために、奨学金制度や授業料支援プログラム、大学提携割引など、進学に伴う経済的負担を軽減するためのさまざまな教育給付制度を提供しています。

アフラックは、従業員やその子、孫のために、さまざまな教育給付金を提供しています。奨学金制度、授業料支援プログラム、大学提携割引を提供し、進学に伴う経済的負担を軽減します。従業員の学びを支援することで、従業員自身の成功への投資を支援し、それが会社への再投資となり、将来のリーダーに投資することになると考えています。このようなプログラムや取り組みは、アフラックにとって新しいものではなく、当社の文化に根ざしたものです。長年にわたり、多くの従業員や家族がこのような機会を利用してきました。また、米国における幼稚園児から高校生までの義務教育期間に、教育パートナーとして資金や専門的なリソースを提供し、青少年の育成と指導に尽力しています。小中高生を対象としたキャリアフェアに参加し、早期に機会の種を蒔くことで、学生にアフラックでのキャリアの可能性をより深く理解してもらっています。

当社の教育へのコミットメントは、地域の青少年とともに時間を惜しまずボランティア活動を行い、地域社会への貢献に取り組む中核的な従業員にまで及んでいます。また、他の組織や非営利団体と連携し、教育に必要なツールの提供を支援しています。アフラックは、コロンバス工科大学及び 21st Century Leaders というジョージア州の非営利団体と提携しました。21st Century Leaders は、リーダーシップと奉仕の文化を育みながら、若い才能にリーダーとしての資質と力を与えることに取り組んでいます。これらの団体とともに、地元の学校に専門的なプログラムやクラブを提供し、ジョージア州コロンバスで初のサウスウエスト・ジョージア・リーダーシップ・サミットを開催しました。

2024 年、アフラック・グローバル・インベストメンツは、手頃な価格の住宅、地域社会、教育、社会インフラの整備に 1 億 5,900 万ドル以上の資金を配分しました。

左：エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼最高情報責任者のシェリア・アンダーソンと、デジタル・ベンダー・マネージャーのエリカ・ターナー。

右（左から）：ビデオ制作担当シニア・マネージャーのエイドリアン・シュワルツ・イグレシアス、シニア・ブランド・マネージャーのパオラ・デュナウェイ、シニア・ブランド・マネージャーのアレックス・スカイルズが、ヒスパニック伝統月間のパネルディスカッションで、アフラックのスペイン語CMについて議論しました。

当社は、多様な候補者に対する人財パイプラインを強化するために、様々な組織とパートナーシップを構築し、育むことに重きを置いています。2024年、アフラックは、Bridge Builders-Technology Association of Georgiaへの支援を継続し、今後5年間で技術職に進む黒人を1,000人誕生させることを目指しています。歴史的黒人大学（Historically Black Colleges and Universities’:HBCU）との連携を拡大し、サクセッションプランニングのプロセスを強化することで、多様な人財の育成に関する組織の可視性と透明性を向上させました。また、インターンシップ、産学協同教育プログラム、実習といったプログラムを通じて、多様な候補者が実地での経験を通じて組織に関する幅広い知識を得ることを目標としています。通常の採用に加え、HPRA、Seeds of Fortune、HBCU Career Development Marketplaceなど複数の組織とのパートナーシップにより、多様な人財パイプラインを継続的に確保しています。

経営トップから組織全体にわたり、私たちは数十年にわたってそうしてきたように、多様でインクルーシブな従業員の育成に取り組んでいます。多様性を促進することは、取るべき正しいアプローチであるだけではなく、ビジネスとしても理にかなったものです。私たちの目標を達成し、私たちが存在する地域社会に貢献するには、さまざまな視点を持った人々に囲まれていなければなりません。

従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す

アフラックは、事業を展開する地域社会にも配慮し、地域社会の多様性を反映するよう、また、それを積極的に自社のあり方に映し出していくよう努めています。当社の成功は、多くの場合、他の人が見ていないところで各人が日々何をしているかによって定義されます。それは、すべての人々に対して私たちがどのように接するかということであり、また、私たちがすべての人々にもたらす機会のことです。つまり、いかに多様性を受け入れ、対話とインクルージョンを促すかということなのです。私たちは、さらなる向上を図り、変化を生み出し続けることを約束します。

アフラックのコミットメントは、従業員の構成、給与ポリシーなどの公平性、そして一人ひとりが歓迎され、大切にされていると感じられるよう継続的に行っている取り組みに反映されています。私たちがより強い会社を築いていることに疑いはありませんが、もっとできることがあると肝に銘じています。それでも、私たちには、正しい道を歩んでいるという確信があります。

アフラックは、事業を展開する地域社会にも配慮し、地域社会の多様性を反映するよう、また、それを積極的に自社のあり方に映し出していくよう努めています。

当社の企業文化は、会社のあらゆるレベルにおいてダイバーシティを推進するというコミットメントを反映しています。以下は、2024 年末時点の状況を示したものです。

アフラック(日本法人)

女性従業員の割合

55%

指導的立場に占める女性の割合

34%

ライン長ポストに占める女性の割合 *

29%

アフラック (米国法人)

女性従業員の割合

66%

指導的立場に占める女性の割合

52%

上級管理職における女性の割合

36%

有色人種の従業員の割合

48%

指導的立場に占める有色人種の割合

31%

上級管理職における有色人種の割合

24%

* アフラック生命保険株式会社におけるライン長ポストに占める女性の割合を対象としており、子会社は含みません。

米国の従業員の新規採用

69%
女性

60%
有色人種

アフラック・インコーポレーテッドでは、投資家の皆様からのご要望にお応えし、透明性を確保するため、アフラック（米国法人）の最新の EEO-1 レポートを公開いたします。

最新のレポートは、こちらをクリックしてください。

公平な報酬

アフラックは、グローバルな給与の公平性に取り組んでおり、性別や年齢、人種・民族に関係なく公平な給与を確保するため、継続的な分析を行っています。今後も、給与の公平性に関する評価を継続し、そこで明らかになった格差を縮めていきます。給与の公平性は、性別や人種・民族が異なる従業員が、同一または類似の職務に就いている場合、勤務地や職位在任期間、在職期間、学歴、経験など、給与の違いを説明しうる正当な事業上の要素を考慮した、平均的な給与格差と定義されます。

- 2024年、アフラック（米国法人）で男女両方が兼務する368の職種が見直され、3,650人の従業員がこの対象となりました。これらの役職における給与比率（男性に対する女性の報酬）は99.3%でした。

アフラック（日本法人）は、管理職を対象に刷新した人財マネジメント制度を、2022年からは一般社員にも対象を拡大して適用しました。本制度のもとでは、それぞれのポジションの職責に応じて、職務ごとに特定のグレード（職務等級）が適用されます。性別、年齢、人種などがグレードを決定する要因になることはなく、すべての従業員に公平な機会が提供されています。アフラック（日本法人）は、高い目標へのチャレンジや成長への貢献意欲を刺激するために、会社への貢献に報いる「トータルリワード」の考え方で報酬を設計しています。“職務”と“成果”に報いる報酬体系をベースに、職務記述書で明文化された職務の内容・大きさをもとに決定するグレードごとに、日系大手企業をベンチマークに競争力のある水準を実現しています。基本給や賞与だけではなく、一定以上のグレードの社員には中長期インセンティブも付与し、職務や成果・業績に報いる仕組みとしています。アフラック（日本法人）の人財マネジメント制度は、短中長期的な視点で会社への貢献に報いる仕組みとなっています。

また、アフラック（日本法人）の代表取締役社長を委員長として、各部門を統括する部門統括役員により構成される人財マネジメント政策委員会では、人財マネジメント制度が公平・公正に運営されているかどうかを毎年モニタリングし、グレードや報酬水準の一貫性、適切性について評価しています。

日本における人的資本の情報開示

アフラック（日本法人）は、統合報告書や「人的資本データブック」などの公開を通じて人的資本に関する情報を積極的に開示しています。この透明性を高める取り組みが評価され、2023 年に人的資本に関する情報開示の国際的なガイドラインである「ISO 30414*」の認証を日本の金融業界で初めて取得しました。

CERTIFIED ISO 30414 HCImpact

* 国際標準化機構(International Organization for Standardization)が制定するマネジメント規格で、組織が自社の従業員に関する人的資本の情報について、定量化・分析し、開示するための国際的な指標として設けられたガイドライン

人財の育成

アフラック（日本法人）は、「女性の活躍推進プログラム」を通じて、2020年末までに指導的立場（課長代理以上）にある女性の割合を30%にするという目標を、計画より1年前倒しで達成し、さらなる進展を見せています。アフラック（日本法人）は、2025年末までに、ライン長ポストに占める女性割合を30%以上とする新しい目標を掲げ、2024年末の目標としていた28.0%を予定通りに達成しました。

アフラック（米国法人）では、女性が成長し、キャリアを形成するためのさまざまな制度が用意されています。高い潜在能力を持つシニア・レベルの女性リーダーが選抜され、特定の分野、または一般的なリーダーシップの分野において権威ある開発プログラムに参加しています。これとともに、特定の機能分野では、より深く、女性リーダーのパイプライン構築を目的とした開発プログラムも設けられています。

2024年10月、アフラック・アセット・マネジメントの子会社であるアフラック・アセット・マネジメント株式会社が日本で主催したラウンドテーブル・ディスカッションに、米国及び日本から多数のアフラックの女性が参加しました。前列左から：エレナ・ボエバ、ウマ・リッキーラム、ケセニア・ジョバノビック、レベッカ・アミサ、佐藤 由実子。2列目左から：池口 真衣、町田 知砂、中根 優花、矢﨑 友理子、中島 真理子。

アフラックのイベント「Leading Ladies」では、アフラック（米国法人）の優秀な女性たちが、自らの視野と思考を広げ、成功の機会を生み出すことのできる人物と人生で出会うことの価値について共有する機会が提供されています。上部左側の写真左から、シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント兼最高法律顧問のオードリー・ブーン・ティルマン、マーケット戦略・実行パートナー兼オンボーディング・マネージャーのシェリー・パターソンが、それぞれの考えを共有しました。
上部右側の写真左から、シニア・プロジェクト・コーディネーターのキム・スコット、コーポレート・カウンセルのランディ・ウォーレン・アドキンス、ダイバーシティ&タレント・ディベロップメント担当バイス・プレジデントのキーラ・カブレット・ルイス、コーポレート・カウンセルのヘザー・マンダーソン、カウンセルのジョーン・クラーク・ナルシスが、優れたリーダーシップ戦略について話し合い、その成果を称賛しています。

アフラック（日本法人）は、各種イベントへの参加や講演を通じて、ダイバーシティ推進の重要性を社内外に発信しています。写真は、左から右へ、アーティスト・東京藝術大学デザイン科准教授・株式会社Cradle代表取締役社長 スプツニ子！氏、アフラック・インコーポレーテッド及びアフラック（米国法人）社長 ヴァージル R. ミラー、アフラック・インコーポレーテッド シニア・バイス・プレジデント チーフ・コミュニケーション・オフィサー イネス ロドリゲス グッツマー、アフラック（日本法人）常務執行役員 伊藤 道博、同 執行役員 橋本 ゆかりが、2024年11月、 Aflac Global Diversity & Inclusion Conference 2024のパネルディスカッションで登壇している様子です。

アフラック・ハートフル・サービス株式会社（AHS）は、障がい者の雇用を推進するために 2009 年に設立されたアフラック（日本法人）の特例子会社で、2024 年に創業 15 周年を迎えました。アフラック・ハートフル・サービスは、ここで働く障がい者に必要な職場環境を整え、専門的な知識を有するスーパーバイザーを置くことで、障がいがあっても安定的に就労することができています。一人ひとりが得意なことを仕事にいかし、皆いきいきと働いています。近年では、ノベルティグッズのデザインやオフィス装飾としての絵画の制作など、多様な感性をいかしたアート事業や衣類のリサイクルなどの環境経営関連業務も展開しています。

「りんごちゃん」
アーティスト：
OSUGI

アフラック（日本法人）では、2019年からアフラック・ハートフル・サービスの社員が描いた色鮮やかなアート作品をオフィスに展示しています。2023年以降、全国にある、36か所の営業拠点のお客様対応エリアの壁一面に、障がいのある社員がその地域の文化や伝統、歴史的建造物をモチーフに描いたアートを設えています。色鮮やかで人を惹きつける、迫力のあるアートが、そこで働く社員や訪れたお客様との間に新たな会話を生み出しています。また、2024年には創業15周年のイベントとして、期間限定のカフェスタンド事業「あひるカフェ」を展開しました。そこではアートを通じて、接客する障害のある社員との交流や対話を促進しています。

アフラック創業50周年、アフラック・ハートフル・サービス創業15周年の記念行事として、期間限定でアフラックのオフィスビルにて「あひるカフェ」*をオープンしました。カフェではAHSの社員が日頃の感謝をこめて接客を行い、コーヒーやカフェラテ、クッキーのほか、AHS社員が制作したアートを用いたポストカードなどのグッズを販売しました。合計16日間の営業期間中、約2,300名の社員が来店、アフラック社員同士の交流の場としても好評を博しました。

*** あひるカフェはAHSが行うグループ内企業へ向けた取り組みの名称です。**

また、障がいの有無にかかわらず、小児がん経験者の就労支援もおこなっています。これらの雇用の促進や雇用の安定に関する取り組みにより、厚生労働省が主管する「障がい者雇用に関する優良な中小事業主に対する認定制度」において、優良中小事業主として認定されています。 2024 年 12 月末時点で、アフラック・ハートフル・サービスに在籍する 153 名の従業員のうち、119 名が障がい者手帳保持者で、5 名が小児がん経験者です。アフラック・ハートフル・サービスは、従業員の個性を尊重し、多様性をいかし、無限の可能性を追求するとともに、一人ひとりの能力を結集し、社会に広く貢献するかけがえのない企業であることを目指しています。

写真は自ら希望し、アフラック(日本法人)からAHSへ配属された石川さんとAHSの社員が打ち合わせしている様子です。石川さんはAHSの社員と協働しながら、アフラック(日本法人)との受託業務の調整や新規事業受託の推進を担当しています。

アフラックの戦略的フィランソロピー

アフラックでは、パーパス（企業の存在意義）に沿ったパートナーシップを信条としており、健康や貧富の格差を解消するために活動している団体やコミュニティを支援しています。当社は、米国と日本における補完医療保険のパイオニアとして、また両国のリーディングカンパニーとして、がんと診断された人々が直面する困難を理解する努力を 70 年間続けてきました。また、がんの診断が家族全体に影響を与えることも理解しています。そのような思いから、私たちの活動の多くは、がんと向き合う人たちを支援することを目的としています。

企業として、チャリティー寄付、地域社会への投資、現金拠出、現物支給を含む慈善活動の大部分を、がんや鎌状赤血球症を含む血液疾患に焦点を当てた慈善活動に充てています。

Aflac childhood cancer campaign

アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター

「すべての子どもに人生を全うする権利があるのです。」
— アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センター長兼ウィリアム・G. ウッズ医学委員長のダグラス・グラハム医学博士。グラハム医師は、アシュリー・ヘルナンデスのような患者を治療し生活を向上させることをライフワークとし、世界レベルの治療を探求し続けています。

1995 年の開設以降、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは、小児がん、血液学、そして血液・骨髄移植に関して、全米で有数の医療機関として知られるようになりました。全米で最大規模の小児血液学にかかる研究や治療を行う医療機関の一つとして、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターは毎年 9,500 人以上の患者を診察しています。

同センターでは、一般的なものから稀少なものまで、あらゆる種類の小児がんと血液疾患を持つ子どもや若者の治療において非常に高い技術と経験を有しています。革新的な研究と最先端の治療法により、1965年に20%だった小児がんの5年生存率は、現在80%以上と劇的に向上しています。アフラック財団、アフラック小児がん基金、アフラック役職員及び販売部門など、アフラック・ファミリーはこの価値ある活動を大切にしています。惜しみない寄付金により、研究活動に必要な資金が絶えることなく供給され、現在、アフラックからアフラックがん・血液病センターへの寄付金の累計額は1億8,600万ドル（2024年12月31日時点）を超えています。この寛大な支援は、同センターが研究分野で優れた成果と卓越した実績を上げるうえで大きな役割を果たしており、その結果、同センターはU.S. News and World Report誌が発表した「全米小児がんトップ医療機関」の一つとして高く評価されています。

2024 年 9 月、アフラック小児がん・血液病センターは、アトランタに新設された Arthur M. Blank 病院の小児医療センターに移転しました。この最先端の施設は、19 階建て、敷地面積 200 万平方フィート、病床数 446 床、最新の治療法、大きな個室、洗濯機と乾燥機、家族用ラウンジ、簡易キッチン、20 エーカーの緑地などを特徴としています。

アフラックの取り組みは、小児がんの子どもたちだけでなく、鎌状赤血球症など、あまり知られておらず理解されていない希少な血液疾患の子どもたちにも、前向きな影響をもたらしています。

アフラックは、小児医療における格差に関連して、鎌状赤血球症がもたらす課題に対処していますが、その中心的な拠点は、アトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターです。同センターは、公衆衛生情報システムデータによると、全米で最も多くの鎌状赤血球症治療を行っており、毎年 2,000 人以上の患者が治療を受けています。

アフラックの鎌状赤血球症に苦しむ子どもたちを支援する取り組みの一例。治療の合間に笑顔を見せる患者のコーデル・ルイス（右）と、アフラックがん・血液病センターの小児血液専門医であり、鎌状赤血球症研究・治療プログラムの責任者であるジェイソン・ペイン医師。

アフラック小児がん・血液病センターは、患者収容能力を増やし、州内外のより多くの子どもたちを治療できるようになり、病床数を 70% 増やし、現在は 98 床を提供して増加する小児患者のニーズに応えています。このセンターは、国内でがんや血液疾患を持つ子どもたちに対する最大の医療提供者としての役割を果たし続けています。しかし、重要なのは建物の大きさだけではなく、その中で行われる医療活動です。同センターは骨髄移植ユニットを 10 床から 26 床に拡張し、より複雑な手術を行い、患者に対する長期的なケアを提供できるようになりました。また、Good Manufacturing Practices (GMP) ラボも追加されました。これは非常に清潔なラボで、患者から細胞を抽出し、それを操作して治療に役立てることができます。従来は、その細胞を他のセンターに送って処理する必要があり数週間を要していましたが、今では自施設内でその作業を行うことができるようになったため、治療を迅速化し、何よりも生きるチャンスを待つご家族に希望を与えることができています。

Aflac®
Cancer & Blood Disorders Center
Children's℠
Healthcare of Atlanta

My Special Aflac Duck®

がんや鎌状赤血球症の治療を受けている子どもたちに安らぎを感じてもらうため、アフラックはSunrise Associationと提携し、75羽以上の*My Special Aflac Duck*をHorizon Day Camp-Metro DCの子どもたちに届けました。このプロジェクトは、Pozez JCCとSunrise Associationの共同プロジェクトです。Horizon Day Camp- Metro DCは、がんを患う子どもたちとその兄弟姉妹に子ども時代の喜びをもたらすために設計されたデイキャンプであり、キャンプも*My Special Aflac Duck*もすべて無料で提供されています。*My Special Aflac Duck*は、子どもたちとそのご家族に喜びと安らぎをもたらす大切な仲間です。2024年12月31日現在、34,000羽以上の*My Special Aflac Duck*が、米国、日本、北アイルランドの子どもたちに贈られています。

アフラック・インコーポレーテッドは、未来の世代のための正しい行いを大切にしています。それは、さまざまな形で浮かび上がりますが、最も鮮明に表れるのが、小児がんや血液疾患と闘う子どもたちやそのご家族への献身です。私たちは、子どもたちのがんや血液疾患との闘いには、薬以上に大切なものがあることを知っています。それが形になったのが、米国、日本、北アイルランドで無償で贈呈している *My Special Aflac Duck* です。この活動は、子どもたちとそのご家族、そして未来のための一つの投資なのです。

アフラックは、小児がん及び血液疾患の治療や研究への支援だけでなく、他にも力になれることがないかと考えました。病気と闘う子どもたちが、実際に抱きしめることのできる何かを手にすることができたら、そして、それが子どもたちに喜びを与え、病気との闘いの一助となれたら、どんなに素晴らしいことでしょう。アフラックは、この想いを実現するために、*My Special Aflac Duck* を世に送り出しました。*My Special Aflac Duck* は、子どもたちの孤独感を和らげ心を和ませるために、双方向のコミュニケーション技術を使って作られた友達ロボットです。ウェブベースのアプリケーションにより、子どもたちは、自分たちの治療の模様をこのダックに体験させることができます。このダックが、診察ごっこや、生きているような動きと感情表現をすることで、つらい治療の中でも心が和むように、子どもたちに寄り添っています。*My Special Aflac Duck* は、最終的には子どもたちにその体験が自分一人のものではないことを自覚させ、治療を前向きに受け止めて家庭内外での治療継続を促すとともに、いつでも、どこでも、誰にでも、病気や治療によるストレスや不安に対処するための手段やサポートを提供します。

アフラックでは、米国で新たにがんや鎌状赤血球症などの血液疾患と診断される 3 歳以上の子どもたち一人ひとりに、無償で *My Special Aflac Duck* を贈ることを目標に掲げています。アフラック小児がんキャンペーンやアフラックがん・血液病センター、そして今では *My Special Aflac Duck* を通じて、当社はがんと向き合う子どもたちを支え、彼らが希望と時間、そしてさまざまなリソースを手に入れられるよう、その使命を果たしていきます。

米国では、アフラックが 2018 年から 500 の病院や団体で 32,000 人以上の子どもたち（2024 年 12 月現在）に *My Special Aflac Duck* を寄贈し、最近ではご家族にも直接寄贈しています。日本では、アフラック（日本法人）が 2019 年から 95 の病院で 1,700 人以上（2024 年 12 月現在）の子どもたちに *My Special Aflac Duck* を寄贈しています。アフラックは、2024 年までに、米国、日本、北アイルランドで合計 34,000 人以上の子どもたちに *My Special Aflac Duck* を贈っています。

My Special Aflac Duck にも、新しい仲間ができました。2022 年初頭、アフラック（米国法人）は、数々の受賞歴をもつ *My Special Aflac Duck* プログラムの対象を、鎌状赤血球症などの血液疾患を持つ子どもたちにも拡大しました。このダックには、鎌状赤血球症などの血液疾患を持つ子どもの治療に特化した新しいアクセサリーとして、暖かいブランケット、ポート IV アダプターや無料アプリでの新しいデジタル体験などがカスタム・パッケージに収められています。これまで病院や支援団体を通じてのみ入手可能でしたが、アフラックのパートナーであり、*My Special Aflac Duck* のクリエイターである Empath Labs を通じて、3 歳以上のがんや血液疾患の子どもたちのご家族に直接ダックをお届けすることができるようになりました。実際、2024 年には、新しいプログラム「Direct To Family」によって、がんや鎌状赤血球症と向き合う子どもたちの家庭に 300 羽以上を発送することができました。

My Special Aflac Duck®の寄贈イベント

アフラックは、がんや鎌状赤血球症に直面している子どもたちに、文字通り抱きしめることができるもの、彼らに喜びを与え、彼らの闘病生活を支えるものを贈りたいと考えました。そして、双方向のコミュニケーション技術を使い、子どもたちの孤独を和らげるようサポートする、スマートで安心できるパートナー、*My Special Aflac Duck* を開発しました。一部の病院では、*My Special Aflac Duck* を受け取った人が、自分だけの友達ロボットに会うために、エキサイティングなスカベンジャーハントに参加することもあります。ハントの後、患者の皆様とそのご家族は、ダックの出生証明書やビーズのネックレスを作ったり、塗り絵をしたりと、さまざまな活動を通して新しい友情を祝います。2024 年、アフラック（米国法人）はサウスカロライナ州グリーンビル、コロラド州オーロラ、サウスカロライナ州コロンビア、ワシントン DC、ニューヨーク州ブロンクス、カリフォルニア州ローズビルでさらに 6 回の *My Special Aflac Duck* 寄贈イベントを開催しました。また、アフラック（日本法人）では、2024 年は 36 病院・施設に 115 羽を寄贈しました。

***My Special Aflac Duck*についての詳細や、団体向け、またはがんや鎌状赤血球症の治療を受けている子どもたちのためのダックのリクエストは、アフラック小児がんキャンペーンをご覧ください。**

一部の病院では、*My Special Aflac Duck*を受け取った人が、自分だけの友達ロボットに会うために、エキサイティングなスカベンジャーハントに参加することもあります。ハントの後、患者の皆様とそのご家族は、ダックの出生証明書やビーズのネックレスを作ったり、塗り絵をしたりと、さまざまな活動を通して新しい友情を祝います。2024年、アフラック（米国法人）はサウスカロライナ州グリーンビル、コロラド州オーロラ、サウスカロライナ州コロンビア、ワシントンDC、ニューヨーク州ブロンクス、カリフォルニア州ローズビルでさらに6回の*My Special Aflac Duck*寄贈イベントを開催しました。また、アフラック（日本法人）では、2024年は36病院・施設に115羽を寄贈しました。

My Special Aflac Duck®は、私たちの願いを実現しています。それは、子どもたちががんと向き合うのを支援することです。

直感的に、また子どもの反応を見て、*My Special Aflac Duck*ががん治療を受けている子どもたちやご家族の支援に効果的であると確信していましたが、これまでは「経験的に」としか言えませんでした。最近の臨床研究によると、アフラックのロボットダックは小児がん患者が治療に伴う苦痛や不安に対処するのに役立っていることがわかりました。

2024年4月5日に発表された臨床試験によると、複数年にわたる研究において、*My Special Aflac Duck*® を受け取った子どもたちの親や介護者のどちらもが、子どもたちの苦痛、吐き気、痛み、そして治療及び医療処置に伴う不安が軽減されたと報告しています。

アトランタの小児医療センターとエモリー大学医学部の研究者たちは、*My Special Aflac Duck* を利用した無作為化臨床試験を実施しました。研究チームは、アメリカ国内の８つの病院でがん治療を受けている子どもたちの介護者 160 人を対象に３年間にわたって調査を行いました。研究チームは、このダックが小児がん患者に安らぎをもたらすと予想していましたが、一つ驚きの発見がありました。

研究者たちが介護者に尋ねた質問は、「親の苦痛の包括的指標」と呼ばれる 18 の症状を説明するもので、このダックが介護者にとってどの程度役立つかを総合的に調査しました。初期の観察では、*My Special Aflac Duck* を渡したグループの子どもたちに対して統計的に有意で肯定的な結果が得られただけでなく、この研究は親や保護者などの介護者にもこのダックが有益であることを発見しました。この発見は、この研究で親の苦痛の包括的指標を利用したことから注目されるものであり、*My Special Aflac Duck* の介入ががん治療中の幼い子どもたちをケアする人々にとっても有意な苦痛の緩和をもたらしたことを示唆しています。この予期せぬ発見は、このダックの貴重な貢献を示す全体的に肯定的な研究において、喜ばしい追加の成果となりました。

My Special Aflac Duck が、小児がん患者やその介護者の支援につながっていることを確認できたことには非常に勇気づけられます。このダックが介護者に与える影響は、小児がん患者のエコシステム全体を支援する私たちの取り組みが具体的な成果をあげていること、また、介護者が健康で強くあり続け、患者をより良くケアできるよう支援していることの証左となります。この予期せぬ発見は、プログラムの影響と成功をさらに高めるものです。

My Special Aflac Duck は、2019年から日本にも登場しました。アフラック（日本法人）は、2019年以降、95の病院で1,700人以上（2024年12月時点）のがんなどの重い病気と闘う子どもたちに*My Special Aflac Duck*を寄贈しています。

アフラックペアレンツハウス

Aflac ペアレンツハウス PARENTS HOUSE

日々の運営を担うハウスマネージャーは、「アフラックペアレンツハウス」に滞在する子どもたちやご家族のサポートをしています。

人々から評価され信頼される会社であることは、多くの場合、思いやりがあり、社会的責任を果たす会社であることも意味しています。アフラック（日本法人）は、社会的責任が私たちのパーパス（企業の存在意義）に欠くことのできない要素であることを認識しています。一企業として、アフラックの社員・代理店は小児がん支援活動をとても大切にしており、小児がん経験者やAYA世代（思春期・若年成人世代）のがん経験者が笑顔で暮らせる社会を目指し、啓発活動や各種団体への支援を行っています。

子どもが小児がんや難病に罹患すると、専門的な治療を受けるために、自宅を離れ東京や大阪に出向かなければならないこともあり、また、継続的な治療を必要とする子どもたちも少なくありません。こうした困難な状況に置かれた方々のお役に立てるよう、2001年、最初の「アフラックペアレンツハウス」がアフラック（日本法人）の寄付によって開設されました。この施設は、小児がんや難病と闘う子どもとそのご家族が、自宅のようにくつろいで宿泊できる場所としてお役立ていただいています。また、「アフラックペアレンツハウス」は小児がんに関する相談やイベント開催など総合支援センターとしてもご利用いただいており、開設以来、15万人以上の方にご利用いただいています。

子どもたちやご家族が安心して館内で過ごせるよう、多くのアフラック（日本法人）・グループ会社の役職員、代理店が衛生用品や日用品の寄付やボランティアなどで「アフラックペアレンツハウス」の運営を支援しています。

「アフラックペアレンツハウス」に家族と共に滞在する、小児がんなどの重い病気と闘う子どもたちは、「アフラックペアレンツハウス」そのものについて語ることはあまりありません。しかし、「アフラックペアレンツハウス」に時折滞在する中田 颯空（なかだ そら）君は、自分が描いた絵を通じて気持ちを表現してくれています。この絵（写真右上）には、アフラックダック、家族、「アフラックペアレンツハウス」のスタッフが、「みんな一緒だよ！」という心強い言葉と共に描かれています。このような特別な想いが、アフラックが小児がんなどの重い病気と闘う子どもたちを支援し続ける原動力となっています。颯空君は病気の症状により手を使うことが難しいため、口を使ってこの絵を描いています。

がん啓発活動

アフラック・ホリデー・ダック・プログラム

ミシシッピ州マディソンに住むエレン・ハンセンにとって、その年のアフラック・ホリデー・ダックをコレクションに加えるまでホリデーシーズンは終わりません。彼女の伝統は 2001 年に最初のアフラック・ホリデー・ダックから始まり、23 年経った今では、彼女のオフィスに常設展示されています。2024 年のホリデーシーズンには、ハンセン家のツリーの周りに配置されました。

看護及び病院の管理者であるハンセンは、ジョージア州、テキサス州、ミシシッピ州などの病院で、小児がんや血液疾患を持つ子どもたちを含む小児患者たちをケアすることに人生を捧げてきました。アフラックの代理店であるカーター・メイは、ハンセンがホリデーシーズンのぬいぐるみを愛していることを知り、彼女がテキサス州で働いていたときに毎年最新のコレクターズアイテムで彼女を驚かせることを楽しんでいました。メイは過去 13 年間で約 800 羽のダックを彼の顧客、友人、家族に贈っただろうと話しています。

2024 年のアフラック・ホリデー・ダックは、華やかなチェック柄のエプロン、シェフの帽子、そして翼にはジンジャーブレッドマンのクッキーを持つホリデーベイカーの衣装を着ています。偶然にも、2024 年のぬいぐるみはハンセン家と特別なつながりがあります。エレンの義父は長年にわたりベーカリーを経営しており、彼女の夫スティーブはパン職人を務めているのです。

しかし、アフラックのホリデーダックプログラムとハンセンとの最も意味のあるつながりは、両者とも子どもたちのケアに専念している点です。

ハンセンが 2024 年のアフラック・ホリデー・ダックを受け取る様子は、**こちらのビデオ**をご覧ください。

2024 年のアフラック・ホリデー・ダックは、2024 年のテーマを生み出すきっかけとなった、スパイシーなアイデアを持つ 2 人のアフラック従業員にとって特別な意味を持っています。華やかなチェック柄のエプロンとパン職人の帽子を身に着けた今年のぬいぐるみは、翼にジンジャーブレッドマンのクッキーを抱えています。アフラックの従業員ジュディ・デイビスとミゲル・キューバスは、1 年以上前から「このアイデアは、パン生地のように可愛らしい（a-dough-rable）ものになる」と考えていました。

アフラック・ホリデー・ダックのアイデア募集の際、品質保証及びリスクマネージャーのデイビスとシステムエンジニアのキューバスは、「ジンジャーブレッドに関するもの」と「ジンジャーブレッドダック」を提案しました。どちらもホリデーシーズンのお菓子にまつわる特別な思い出からインスピレーションを得たものです。

「数年前に母が亡くなりましたが、彼女はいつもクリスマスにはジンジャーブレッドをテーマにしていました」とデイビスは言います。「今年のホリデーダックは、私がアフラックで働いた 38 年間の中で最も記憶に残るものになるでしょう。」

キューバスと彼のガールフレンド（彼女もアフラックの従業員）には、毎年ホリデーシーズンにジンジャーブレッドクッキーを焼くという習慣があります。

2001 年以来、アフラック・ホリデーダックプログラムの純収益は 400 万ドル以上になり、小児がんや血液疾患を治療する全国の病院に寄付されています。

がん経験者支援

アフラック（日本法人）では、がんを経験した方ががんになっても自分らしく生きるために、不安や寂しさなどを受け入れ、精神的に支える「開かれた相談の場」が社会に必要と考えています。アフラック（日本法人）は、「マギーズ東京」や「元ちゃんハウス」* など、「開かれた相談の場」として活動する団体に寄付などを通じて活動を支援しています。

マギーズ東京は、がんを経験された方・家族・友人が、居心地のよい環境でゆっくり過ごしたり、医療者と話をしたりしながら、自分の力を取り戻していけるようなサポートを行っています。

* 元ちゃんハウスは、石川県金沢市にあり、がんを抱えた方やご家族などが同じ境遇の人や専門職につながれる場所として活動しています。

がん啓発展示会・がん教育

アフラック（日本法人）は、がん保険のパイオニアとして、またリーディングカンパニーとしての義務と責任を認識しています。お客様は、がん保険のパイオニアである当社とその商品に信頼を寄せてくださっています。私たちは、その信頼にお応えできるよう日々力を尽くしています。例えば、日本の全 47 都道府県と連携し、がん予防の啓発や早期発見の重要性を多くの人々に知ってもらうための活動に積極的に取り組んでいます。具体的には、がんの「早期発見・早期治療」の大切さについて考えるきっかけにしてほしいとの想いで、2004 年にがんに関する展示会「がんを知る展」を開始しました。

アフラック（日本法人）では、小・中・高等学校でのがん教育を通じて、がんに対する正しい知識、がん患者・経験者への理解及び命の大切さを伝える支援を行っています。

2024年はがんを知る教室を10会場で開催し、22,000人以上が来場しました。11月には東京大学安田講堂でも開催しています。

がん教育が小学校・中学校・高等学校で義務教育化されたことに伴い、自治体と連携し、地域におけるがん教育の推進に積極的に取り組んでいます。

アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度

アフラック（日本法人）は1995年、「アフラック全国アソシエイツ会」と共同で、がんで親を亡くし、経済的に困難な環境にあるがん遺児を支援するために奨学金制度を設立。その後、2014年には小児がんを経験した高校生にも対象を拡大し、子どもたちの学びを支えています。設立以降、奨学金給付額は21億円を超え、これまでに3,600人以上の子どもたちを応援してきました。（2024年6月時点）

アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の元奨学生：尾藤 あづみさん

尾藤さんは、アフラック（日本法人）の創業50周年式典でフルートを演奏しました。

尾藤 あづみさんは、2012 年、小学５年生の時に父親をがんで亡くしました。闘病中の父親が一時帰宅した際に交わした会話に背中を押され、フルートを始めました。プロ奏者を目指し、現在は東京にある音楽大学で学んでいます。音楽大学へ進学することには金銭面の不安もありましたが、がんで親を亡くした子どもたちを支援するアフラックの奨学金制度を知り、利用しました。

尾藤さんは、悲しみや辛さを感じても最後には幸せな温かい気持ちになれる、聞く人の心を満たす演奏ができるようになりたいと、日々努力を続けています。

アフラック（日本法人）は、これからも奨学金制度を通じて、多くの子どもたちの学びや希望を支えていきます。

アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度を支える活動として、毎年、がん征圧月間である9月を中心にアフラック全国アソシエイツ会が主体となり、全国各地で街頭募金活動を行っています。アフラック（日本法人）の拠点の一つである調布市では、調布市職員がアフラック社員と一緒に街頭募金活動を行いました。

ゴールドリボン運動

小児がんは、大人のがんに比べて発症する人数が少ないため、治療方法が少なく、情報や支援が十分とはいえません。また、小児がんを取り巻く課題は、心身及び経済的な負担が長期間にわたるため、さまざまな支援が必要とされています。アフラック（日本法人）は、小児がんの子どもたちや経験者、家族が笑顔で暮らせる社会の実現に向けた活動に取り組んでいます。ゴールドリボンは小児がんへの支援を表すシンボルマークです。

ゴールドリボンウオーキング

アフラック（日本法人）は、小児がんの子どもたちへの理解と支援の呼びかけを目的として、2007 年からウオーキングイベントを開催しています。2024 年 ４月に開催されたゴールドリボンウオーキングには、アフラック（日本法人）の役職員や代理店、提携先関係者、小児がんの子どもたちやそのご家族など約 2,900 人が参加しました。また、当日は多くのアフラック（日本法人）役職員がボランティアとしてイベントを支援しました。

小児がん支援：パラ卓球
舟山 真弘選手への支援

舟山 真弘選手は、2008 年、４歳の時に小児がんの一種である右上腕骨骨肉腫を罹患し、１年２カ月間の入院生活を経験しました。

「長期間の入院生活の中で、同年代の子どもたちが同じ病室にいたことが心強かったです。また、病院内で開催されるハロウィンパーティーやクリスマスパーティーなどの季節を感じられるイベントが、外の世界と隔たれている感覚を和らげ、励みになった」と振り返ります。「退院後は、一緒に闘病を経験した友人と再会できるゴールドリボンウオーキングが楽しみでした」と語ります。

小学校５年生の時にパラ卓球の日本代表選手（当時）から「パラリンピックを一緒に目指そう」と言われたことをきっかけに卓球をはじめ、2024 年にはパリ・パラリンピックに出場し、５位入賞を果たしました。現在は、2028 年のロサンゼルス・パラリンピックの出場を目指しています。

アフラック（日本法人）では、小児がんの子どもたちや経験者、家族が笑顔で暮らせる社会を目指し、啓発活動や各種団体への支援を行っています。その一環として、パラ卓球、舟山真弘後援会へのユニフォームスポンサー特別協賛を通じて、舟山選手を応援しています。

写真上：2024年パリ・パラリンピックに出場した舟山選手。
写真下：ゴールドリボンウオーキング2018に参加した時の様子。

アフラッククラシックチャリティーコンサート

小児がんに対する正しい理解と認知向上、寄付を通じた支援を行うため、10月に「アフラッククラシックチャリティーコンサート」を開催しました。このイベントでは、小児がんと闘う子どもたちとご家族、がんで親を亡くした高校生にスポットライトがあてられ、アフラック（日本法人）の奨学金制度や小児がんの子どもたちを支援するための取り組みが紹介されました。

がん啓発：Bridge to Brighter

小児がん及び鎌状赤血球症の啓発月間にあたる2023年9月、アフラックは意識を高めるだけでなく、研究や患者への支援を推進するために Bridge to Brighter キャンペーンを初めて開始しました。小児がん及び鎌状赤血球症の啓発月間に関する意識と支援を広めるために、アフラックはコミュニティ内外の人々を支援するための専用ウェブページを設けています。提供される情報には以下の内容が含まれます。

- 小児がん及び鎌状赤血球症に関わる人々へのインタビューを含むビデオニュース。このビデオは、米国の主要な都市で放送されます。
- アフラックの受賞歴のある友達ロボットの*My Special Aflac Duck*®に関する情報。がん及び鎌状赤血球症の3歳以上の患者のために無料でダックを注文する方法など。
- 伝説的なスポーツコーチ、ドーン・ステイリーとダボ・スウィニーからの感動的なメッセージ。
- アフラックがんキャンペーン及びアトランタ小児病院のアフラックがん・血液病センターを支援する寄付などのさまざまな方法。

この Bridge to Brighter キャンペーンには、新しく以下の情報が追加されました（英語及びスペイン語）。

- コミュニティ内の子どもの病気に関する難しい診断や治療に直面している家族を支援する方法を示すデジタルツールキット。
- 支援及び情報を共有するためのソーシャルメディア用の画像、キャプション、及びハッシュタグ#AflacBridgeToBrighter。

より良い医療成果を支援するための地域社会へのCareGrants

2022年、アフラックは医療債務という緊急課題に苦しむ地域社会の人々を支援するために、助成金プログラム CareGrants を導入しました。この助成金は、支援が必要な地域に住む個人の医療成果を改善する団体に提供されます。コミュニティ CareGrants は研究に資金を提供し、医療成果を改善し、人々が経済的負担ではなく治療に集中できるよう支援します。

2024年には、アフラックはミレッジビル（ジョージア州）、タルサ（オクラホマ州）、ニューオーリンズ、ツーソン（アリゾナ州）、オマハ（ネブラスカ州）の組織に5つのコミュニティ CareGrants を提供し、プログラム開始以来の助成金総額は約300万ドルに達しました。

アフラック・パークベンチはコミュニティ CareGrants が提供される地域に設置されます。これらのベンチは、医療債務に対する教育、支援、提言活動への取り組みを象徴するとともに、地域社会に休息、思索、平和そして快適な空間を提供します。

Community Health Connectionを通じた医療サービスの利用利便性向上

写真：ヴァージル・ミラー（アフラック米国法人社長）、ケイト・ニアリー（Community Health Connection CEO）、カシア・カー（タルサ副市長）がアフラック・コミュニティ・CareGrantを祝う様子。

2024年6月、オクラホマ州タルサで地域社会のリーダーたちや住民と共に、Community Health Connection への10万ドルのコミュニティ・CareGrant とアフラック・パークベンチの設置を祝いました。同団体は、タルサ地域の青少年やホームレスの若者に対する医療サービスの拡充及び利用利便性の改善に資金を充てるとともに、新しいクリニック設立の支援や新しいスタッフの雇用も行いました。

ルイジアナ州ザビエル大学と共に医療の公平性と教育を推進

写真：ヴァージル・ミラー（アフラック米国法人社長）、キャスリーン・ケネディ博士（ルイジアナ州ザビエル大学薬学部学部長）、レイノルド・ヴェレット博士（ルイジアナ州ザビエル大学学長）が、XULAキャンパスに設置されたアフラック・パークベンチの除幕式でリボンをカットする様子。

コミュニティ CareGrants の開始以来、アフラックは教育プログラム、地域医療支援活動、及び地域社会の医療成果を改善するための研究活動を行っている歴史的黒人大学（HBCUs）に対して、20万ドルの助成金を3回提供してきました。10月には、アフラックはルイジアナ州のザビエル大学（XULA）の薬学部にコミュニティ CareGrant を授与し、患者中心の医療サービス、地域社会への関与、及び研究を通じて、地域住民の健康を改善する取り組みを支援しました。XULA は、この助成金を地域医療イベント、健康格差研究、及び学生奨学金に充て、その中にはアフラック健康格差研究奨学生プログラムの立ち上げも含まれています。また、アフラック・パークベンチがキャンパス内に設置され、学生、教職員、及び地域住民の憩いの場となっています。

地域社会への投資

写真：アフラックの社員であるケンドラ・フリーマン（アフラック・アソシエイト・ブランド・マネージャー）とジャコビ・マッキー（アフラック・ビデオ・プロデューサー）が、2024年のHBCUオールスターゲームで誇らしげに小切手を贈呈する様子。

アフラックは、歴史的に支援が行き届いていない地域社会を支援することに取り組んでおり、医療成果の改善、認知度の向上、そして専門能力開発の機会を創出することを目指しています。最近のデータによると、黒人成人の60%が医療費の負担に困難を感じていると報告しており、これは白人成人の39%と比較して高い割合です。アフラックは20年以上にわたり、HBCU（歴史的黒人大学）を支援し、HBCUの学生、家族、及び支援者に影響を与える制度上の問題について解決策を提供し、認識を高めてきました。2024年もその姿勢は変わらず、こうした大切な人たちにしっかりと届くよう工夫された、意義のあるプログラムや活動が展開されました。

アフラックは、HBCUにコミュニティCareGrantsを提供するだけでなく、金融リテラシーと学業成績の向上を促進する取り組みも長年にわたり支援してきました。2024年にはHBCUレガシーツアーのスポンサーとなり、青少年にHBCUを紹介し、また、これらの大学への奨学金や寄付金を集めるための一連のイベントを支援しました。さらに、ディラード大学の「授乳における健康の公平性に関するプログラム」の卒業式を支援し、学生に血圧計を提供することで、授乳専門家になるためのトレーニングを強化しました。また、2014年以来サウスカロライナ州のクラフリン大学を長年支援しており、30万ドル以上を寄付しています。2024年には、クラフリンで開催されたPAWSUp Boots & Blazer's Women's BrunchとCentral Intercollegiate Athletic Association（CIAA）のトーナメントのスポンサーを務めました。

アフラックは大学スポーツの力を活用し、HBCUを支援しています。当社は、大学バスケットボールHBCUオールスターゲームの創設パートナーとして、HBCUオールスター奨学金基金に貢献し続けており、この基金はHBCUで高等教育を追求する高校生に奨学金を提供し、支援を必要とするHBCUの学生に経済的援助を提供しています。2024年のHBCUオールスターゲームでは、この基金からHBCUの学長に2万5千ドルの小切手を贈呈しました。また、毎年開催しているHBCUオールスターズ大学入学・奨学金フェアを支援し、出席した高校生たちに学業奨学金を授与しました。さらに2024年、アルバニー州立大学とフォートバレー州立大学の毎年恒例の対戦であるFountain City Classicのスポンサーも務めました。

米国ヒスパニック系コミュニティでの活動

2024年、アフラックは、米国におけるヒスパニック系の人々と強固な絆を築くために、引き続き、文化や言語に根差した有意義な情報をスペイン語で提供しました。小児がんや鎌状赤血球症に直面している人々に心強い仲間、*My Special Aflac Duck*®を提供するほか、健康習慣の重要性、その習慣がより良い健康状態につながること、また、補完医療保険、特に当社がん保険商品の価値についての啓発に努めています。

- 年間を通じて、アフラックは、ブロンクスのモンテフィオーレ小児病院やカリフォルニア州ローズビルのキートンズ小児がんアライアンスなど、ヒスパニック系住民が多く住む地域の病院で、がんや鎌状赤血球症を患う子どもたちに数百羽の*My Special Aflac Duck*を贈りました。これらの活動では、スペイン語を話す子どもたちや家族向けに、スペイン語でのゲームやアクティビティ、デモンストレーションを実施しました。また、介護者、患者、ご家族に新しい遊び方や追加情報、サポートを提供するために、英語及びスペイン語の新しい資料セットを[AflacChildhoodCancer.org](AflacChildhoodCancer.org)に掲載しました。
- ”fútbol”（スペイン語でサッカーの意味）と6月に開催された夏のチャンピオンシップゲームの盛り上がりを受けて、アフラックはマイアミにあるニクラウス小児病院の小児患者たちを対象に、サッカーをテーマにした楽しいサッカー・デーを開催しました。このイベントは、小児患者たちに楽しんでもらうとともに、インタラクティブな一日を提供することを目的とし、ラテンアメリカ文化に深く根ざしたスポーツへの愛を祝うものです。また、子どもたちにはトーナメントに参加する国々をバーチャルに「探検」する機会を提供しました。
- 8月には、「2024 Wellness Matters Survey」の調査結果を発表しました。調査結果によると、米国のヒスパニック系住民は、一般住民の約2倍の割合でがん診断を受けたと回答しているにもかかわらず、80%が重要な健康診断を先延ばしにしていることが明らかになりました。また、88%の米国ヒスパニック系住民が、重要な健康診断の受診を家族や友人からの勧めに頼っていることも明らかになりました。このデータを基に、アフラッ

クは調査結果に対する認識を高め、このコミュニティの人々が予防的な健康習慣を通じて健康管理を行うよう奨励するための取り組みに着手しました。この取り組みの一環として、12月に初のスペイン語によるサテライト・メディア・ツアーを実施し、視聴者に健康を優先することのメリットを伝えると同時に、大切な人々にも同じことをするよう呼びかけるという重要なメッセージを全国の様々な地域で伝えました。これにより、主要なヒスパニックマーケットで79件のメディアに掲載され、860万人以上に情報を届けることが出来ました。

- 11月に、当社は「2024-2025 Aflac WorkForces Report」を発表し、職場における米国人、特に燃え尽き症候群を経験する可能性がほぼ2倍であるヒスパニック系勤労者に影響を及ぼす、燃え尽き症候群や経済的な課題といった重大な問題に光を当てました。

エージェント・オブ・ケア

アフラックのエージェント・オブ・ケア・プログラムは、職務において、また、地域社会において、卓越した活動を行うアフラックの募集人を表彰するものです。表彰対象となる募集人は全国的に認知されており、模範的なレベルの努力、地域社会への貢献、そして、人々の人生にポジティブな変化をもたらすというアフラックのミッションに合致していることを評価され、数千人の中からマーケットディレクターによって推薦されます。2024 年には、5 人の募集人がその卓越した活動によって表彰され、地域社会への貢献において顕著な功績を称えられました。

アフラックのベテラン募集人であるパトリック・フラーは、ミシガン州オセアナ郡で医療債務救済への多大な貢献が評価され、推薦されました。2013 年にパトリックは、がんの診断や重大なライフイベントにかかる医療費に苦しむ地元の家族や個人を支援するため、「Cancer and Critical Care Fund」を設立しました。彼の基金は毎年の募金活動を通じて 7 万ドル以上を集め、未払いの医療費を援助するために 500 ドルから 5,000 ドルの範囲で数多くの助成金を提供してきました。

写真：パトリック・フラー、フィールドセールスエージェント

写真左から右へ：メアリー・シルバーバーグ（Make-A-Wish South Carolina）、アマンダ・グローバー（アフラック）、エイヴァ（ローワンの姉）、アンジェラ（ローワンの母）、ローワン、カムデン（ローワンの兄）、ティミー（ローワンの父）、ボブ・ラフ（アフラック）。[写真提供：ジュリー・ワトソン（アフラック）]

ローワンの願いが叶う

家族と一緒にウォルト・ディズニー・ワールドの魔法を体験したいという 3 歳のローワンの願いが、アフラックと Make-A-Wish South Carolina の支援により叶いました。嚢胞性線維症の治療を受けているローワンは、サウスカロライナ州コロンビアで開催された願いごと発表イベントで表彰されました。2018 年以来、アフラックは Make-A-Wish South Carolina に約 6 万ドルを提供し、健康上の課題を抱える地元の子どもたちの数多くの願いを叶えるための支援をしてきました。

がんを患う子どもたちを常に応援

アフラックは 1995 年以来、がんを患う子どもたち、そのご家族、そして彼らをケアする医療専門家を支援するために 1 億 8500 万ドル以上を提供してきました。4 月 6 日、サウスカロライナ州コロンビアでプリズマヘルス小児病院への寄付金を募る「第 11 回 Curing Kids Cancer Fire Truck Pull」が開催され、アフラックの従業員もこれに参加しました。同イベントでは、参加者が消防車をゴールラインまで引っ張ります。アフラックは 2005 年に Curing Kids Cancer の支援を始めました。アフラックグループは過去 5 年間、このイベントのプレゼンティングスポンサーを務めています。アフラック従業員による 3 チームは、がん治療を受けているアレクサンダー、オーブリー、ケレンを応援すべく、子どもたちが好きなもの（レースカー、ゲーム、クレイジーヘアとチュチュ）をテーマにしたコスチュームを身にまとい、より多くの募金を集めました。その結果、2024 年の寄付総額は 3,150 ドルに達し、2017 年以降の累計は 33,000 ドルを超えました。

写真左から右へ：アフラックの従業員、チーム・オーブリーのメンバー – トム・バフ、ナターシャ・サムター、ボブ・ラフ、アロンゾ・ライアント

私たちが支えるコミュニティで楽しむ

全米バスケットボール協会（NBA）のスター選手、アレックス・イングリッシュが1991年に現役を引退したとき、サウスカロライナ大学やNBAでの記録樹立、大学バスケットボールの殿堂入りやネイスミス記念バスケットボールの殿堂入りなど、多くの勝利と功績を残しました。アレックスはその知名度によって国内外の観客から注目されましたが、サウスカロライナ州コロンビアの故郷のコミュニティを支援することの重要性を見失うことはありませんでした。アレックスは、自身のLet's Share Foundationを通じて、アフラック協賛のもと、Alex English Basketball Campを開催し、サウスカロライナ州の支援が行き届いていない地域の青少年を支援し、彼らにバスケットボールのスキルを教え、コート内外で得た人生の大切な教訓を伝えています。

アフラックのグループ・ボランタリー・ベネフィット担当のシニア・バイス・プレジデントであるボブ・ラフは、スポーツの経験から人生の教訓を学ぶことに共鳴しています。バージニア工科大学で 4 年間フットボールをプレーした後、ボブはフィールドでの経験から得た重要な学びを土台としてビジネスキャリアを踏み出しました。Alex English Basketball Camp に招かれたボブは、7 歳から 18 歳までの参加者に、チームワーク、練習、前向きな姿勢を持つことの重要性を強調し、人生の教訓を共有しました。アフラックは Alex English Basketball Camp のスポンサーとして、20 人の青少年にキャンプに無料で参加できる奨学金を提供しました。

写真左から右へ：ボブ・ラフ（アフラックグループ・ボランタリー・ベネフィット担当シニア・バイス・プレジデント）、アレックス・イングリッシュ

付録

GRI 内容インデックス

使用宣言	アフラック・インコーポレーテッドは、GRIスタンダードを参照して、2024年1月1日から2024年12月31日までの期間について、本GRI内容インデックスに引用されている情報を報告する。
使用したGRI 1	GRI 1: 基礎2021

開示項目		開示場所
GRI 2：一般的な開示 2021年		
2-1	**組織の詳細**	**組織の名称：**アフラック・インコーポレーテッド（NYSE：AFL）
		所有権と法人格：アフラック・インコーポレーテッド（親会社）は、1973 年にジョージア州法に基づき法人化されました。
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 概要」2 ページ
		本社所在地：Aflac Worldwide Headquarters, 1932 Wynnton Road, Columbus, GA, U.S.
		事業所所在地：「アフラック・インコーポレーテッドについて」8 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 概要」2 ページ
		2024 CDP レポート
2-2	**組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体**	「本レポートについて - 報告の範囲と境界」6 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 長期的な成長戦略」2-3 ページ
		2024 CDP レポート
2-3	**報告期間、報告頻度、連絡先**	**報告期間：**2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日
		報告サイクル：年次
		報告書の発行日：2025 年 3 月
		報告書に関するお問い合わせ窓口：aflacir@aflac.com
2-4	**情報の修正・訂正記述**	該当なし

開示項目		開示場所
2-5	**外部保証**	「本レポートについて - 基準と枠組み」6 ページ、「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」54 ページ、「付録 - アフラックの温室効果ガス排出量に関する声明」87 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
2-6	**活動内容、バリューチェーン、その他の取引関係**	「アフラック・インコーポレーテッドについて」1 ページ、「アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）について」8-28 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 概要」2 ページ、「収益を生み出す活動」2 ページ、「アフラック（日本法人）について」3-5 ページ、アフラック（米国法人）について」5-9 ページ、「全社（アフラック（日本法人）及びアフラック（米国法人）を除く）及びその他」9-10 ページ
		2025 年株主総会招集通知「アフラック・インコーポレーテッドについて」表紙内側
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
		アフラック・サプライヤー情報
2-7	**従業員**	「アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）について - 高品質の補完保険商品を提供するリーディング・カンパニー」8 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 – 人財」10-12 ページ
		2024 CDP レポート
2-8	**従業員以外の労働者**	アフラックはこの情報を開示していません。

開示項目		開示場所
2-9	ガバナンス構造と構成	「ガバナンス - 取締役会による監督」37 ページ
		2025 年株主総会招集通知「投票ロードマップ - 取締役候補の概要」7-9 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役候補」11-15 ページ、「取締役の独立性」16 ページ、「取締役候補のスキル、経験、属性」17 ページ、「取締役会のサクセッション・プランニングと更改プロセス」16 ページ、「当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21-24 ページ
		ガイドライン
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	***2025 年株主総会招集通知***「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役指名プロセス」21-22 ページ
		ガイドライン
2-11	最高ガバナンス機関の議長	ダニエル・P. エイモス氏は 2001 年から取締役会議長を、1990 年から最高経営責任者を務めています。
		2025 年株主総会招集通知「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 取締役会のリーダーシップ構造」21 ページ
2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	「ガバナンス - 取締役会による監督」37 ページ
		2025 年株主総会招集通知「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21-24 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」27 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	「ガバナンス - 取締役会による監督」37 ページ
		2025 年株主総会招集通知「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21-24 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」27 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	「ガバナンス - 取締役会の監督」37 ページ
		2025 年株主総会招集通知「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 当社の取締役会と委員会 - 委員会構成」21-24 ページ、「取締役会の責任 - 企業の社会的責任とサステナビリティへのコミットメント」27 ページ
		2024 年 CDP レポート

開示項目		開示場所
2-15	利益相反	***2025 年株主総会招集通知***「監査事項 - 関連者取引」78-79 ページ
2-16	重大な懸念事項の伝達	***2025 年株主総会招集通知***「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - 株主への働きかけ - 取締役とのコミュニケーション」31 ページ
2-17	最高ガバナンス機関の集合知見	ガイドライン
2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	***2025 年株主総会招集通知***「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役会の自己評価」19 ページ
		評価の頻度：年次
		ガイドライン
2-19	報酬方針	***2025 年株主総会招集通知***「投票ロードマップ - 役員報酬ハイライト」9 ページ、「2024 年役員報酬」9 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役報酬」32-33 ページ、「CD&A At-A-Glance」34 ページ、「役員報酬 - 概要 - 業績報酬の考え方」37 ページ、「2024 年役員報酬」47-56 ページ、「追加の役員報酬計画の実践と手順」57-58 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
2-20	報酬の決定プロセス	***2025 年株主総会招集通知***「投票ロードマップ - 最近の Say-On-Pay 投票」9 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役報酬」32 ページ、「役員報酬 - 概要 -2024 年 Say-On-Pay 投票の結果」41 ページ、「報酬の設計と思想 - 役員報酬の設定プロセス」
		ガイドライン
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-21	年間総報酬総額の比率	***2025 年株主総会招集通知***「役員報酬 -CEO 給与比率」72 ページ
2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	「アフラック・インコーポレーテッド会長兼最高経営責任者 ダニエル・P. エイモスからのメッセージ」4-5 ページ

開示項目		開示場所
2-23	方針声明	「ガバナンス」36 ページ、「倫理とコンプライアンス」40 ページ
		2025 年株主総会招集通知「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - ガバナンス文書 - 行動倫理憲章」31 ページ
		行動倫理憲章
		サプライヤー行動憲章
		サプライヤー情報 - 倫理
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-24	方針声明の実践	「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」40 ページ
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-25	マイナスインパクトの是正プロセス	アフラックはこの情報を開示していません。
2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」40 ページ
		行動倫理憲章
		サプライヤー行動憲章
		サプライヤー情報 - 倫理
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
2-27	法令遵守	アフラックはこの情報を開示していません。
2-28	会員資格を持つ団体	「アフラック（日本法人）について - アフラック（日本法人）の受賞」20 ページ、「アフラック（米国法人）について - アフラック・インコーポレーテッドの受賞、表彰、エンゲージメント及びメンバーシップ」28 ページ
		2024 CDP レポート
		サプライヤー情報 - サプライヤーの多様性
		サプライヤー情報 - 持続可能な調達
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」39 ページ
		2025 年株主総会招集通知「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の責任 - 株主へのエンゲージメント」30 ページ
		2024 CDP レポート

開示項目		開示場所
GRI 3：マテリアルな項目 2021		
3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」39 ページ
3-2	マテリアルな項目のリスト	「ガバナンス - 取締役会による監督 - リスク管理プロセス」39 ページ
3-3	マテリアルな項目のマネジメント	「サステナビリティ・ハイライト」33-35 ページ、「ガバナンス」36-40 ページ、「サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護」41-43 ページ、「政治活動報告」44 ページ、「資産運用」45-47 ページ、「環境」48-54 ページ、「人財」55-67 ページ、「アフラックの戦略的フィランソロピー」68-81 ページ
		行動倫理憲章
		サプライヤー行動憲章
		サプライヤー情報 - 倫理
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
		2024 年アフラック政治活動報告
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
GRI 201：経済パフォーマンス 2016		
201-1	創出、分配した直接的経済価値	**収益**：189 億ドル
		「アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）について - 高品質の補完保険商品を提供するリーディング・カンパニー」8 ページ、「2024 年アフラック（日本法人）財務ハイライト」11 ページ、「2024 年アフラック（米国法人）財務ハイライト」21 ページ、「財務ハイライト - アフラック・インコーポレーテッドの投資家情報」29-30 ページ、「財務諸表からの抜粋」31-32 ページ、「サステナビリティ・ハイライト - 責任投資」33 ページ、「フィランソロピー」34 ページ、「地域社会への投資」34 ページ、「コミュニティ投資とフィランソロピー」35 ページ、「資産運用」45-47 ページ、「アフラックの戦略的フィランソロピー」68-81 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 人財」10-12 ページ、項目 7.「経営陣による財務状況及び経営成績の検討と分析 - エグゼクティブ・サマリー - 業績ハイライト」33 ページ
		2025 年株主総会招集通知「2024 年ビジネスハイライト」5 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 -CD&A At-A Glance」34 ページ、「役員報酬 - 概要 - 2024 年の事業概要」38 ページ
		アフラック・インコーポレーテッド Policies and Statements
		サステナビリティ・ボンド報告「サステナビリティ・ボンドの枠組み概要」47 ページ
		2024 CDP レポート

開示項目		開示場所
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	*2024 Form 10-K*：項目 1A.「リスク要因 - 一般的リスク要因」25-27 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	*2024 Form 10-K*：項目 8.「財務諸表及び補足資料 -14. ベネフィット・プラン」176-182 ページ
		2025 年株主総会招集通知「役員報酬 -2024 年役員報酬 - その他の報酬 - 確定給付年金」56 ページ、「役員報酬表 - 年金給付」66 ページ
201-4	政府から受けた資金援助	該当なし
GRI 204：調達慣行 2016		
204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	2024 CDP レポート
GRI 205：腐敗防止 2016		
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	「サステナビリティ・ハイライト - 責任ある行動を促すためのポリシー」34 ページ、「ガバナンス - 倫理とコンプライアンス」40 ページ
GRI 207：税金 2019		
207-1	税金へのアプローチ	アフラック・インコーポレーテッド　Policies and Statements
207-2	税務ガバナンス、管理及びリスクマネジメント	アフラック・インコーポレーテッド　Policies and Statements
GRI 302：エネルギー 2016		
302-1	組織内のエネルギー消費量	付録 -「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」87 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート

開示項目		開示場所
GRI 305：大気への排出 2016		
305-1	直接的な GHG 排出（スコープ 1）	「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」49 ページ、「スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」54 ページ、付録 -「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」87 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
305-2	間接的な GHG 排出（スコープ 2）	「環境 - 温室効果ガス削減の進捗」49 ページ、「スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」54 ページ、付録 -「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」87 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
305-3	その他の間接的な GHG 排出（スコープ 3）	「環境 - スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の温室効果ガス排出量」54 ページ、付録 -「アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明」87 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
305-4	温室効果ガス（GHG）排出原単位	2024 CDP レポート
305-5	温室効果ガス（GHG）排出量の削減	「サステナビリティ・ハイライト - 環境」33 ページ、「環境 - 温室効果ガス排出量の進捗」49 ページ
		2025 年株主総会招集通知「2024 年ビジネスハイライト - 企業の社会的責任とサステナビリティのハイライト - 環境」29 ページ
		2024 TCFD レポート
		2024 CDP レポート
GRI 306: 廃棄物 2020		
306-4	処分されなかった廃棄物	「環境 - 廃棄物の削減」51 ページ
GRI 401: 雇用 2016		
401-1	従業員の新規雇用と離職	「人財 - 従業員の多様性 - 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す – 米国の従業員の新規採用」65 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 人財 - 従業員の構成」11 ページ

開示項目		開示場所
401-2	フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	「人財 - 従業員の健康推進とワーク・ライフ・バランス」56 ページ
		2024 Form 10-K:項目 8.「財務諸表及び補足資料 -14. ベネフィット・プラン」176-182 ページ
		2025 年株主総会招集通知「役員報酬 -2024 年役員報酬 - その他の報酬 -401(k) 貯蓄及び利益分配制度」56 ページ、「その他のベネフィット」56 ページ
		アフラック・インコーポレーテッド　Policies and Statement
401-3	育児休暇	「人財 - 人財開発 - 日本の Work SMART」61 ページ
GRI 404：研修と教育 2016		
404-2	従業員スキル向上プログラム及び移行支援プログラム	「人財 – 人財開発」60 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 人財 - タレント」10 ページ
		アフラック・インコーポレーテッド　Policies and Statement
GRI 405：ダイバーシティと機会均等 2016		
405-1	ガバナンス機関及び従業員のダイバーシティ	「サステナビリティ・ハイライト - 人財」35 ページ、「人財」62 ページ、「ガバナンス - 取締役会による監督」37 ページ、「従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す」64-65 ページ
		2024 Form 10-K：項目 1.「事業 - 人財 - 従業員の構成」11 ページ
		2025 年株主総会招集通知「投票ロードマップ - 取締役候補の概要」7-8 ページ、「コーポレート・ガバナンスに関する事項 - 取締役会の構成 - 取締役会のサクセッション・プランニングと更改プロセス」16 ページ、「取締役候補のスキル、経験及び属性」17 ページ、「取締役会の責務 - 人的資本政策の監督 - 従業員の構成」27 ページ
		EEO-1 レポート
405-2	基本給と報酬の男女比	「人財 – 従業員の多様性 - 従業員は、当社が事業展開している地域社会を映し出す – 公平な報酬」65 ページ

開示項目		開示場所
GRI 415：公共政策 2016		
415-1	政治献金	「ガバナンス - 政治活動報告」44 ページ
		2024 年 アフラック政治活動報告
GRI 417：マーケティングとラベリング 2016		
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	該当なし
		「アフラック（米国法人）及びアフラック（日本法人）について – アフラック（米国法人）マーケティング戦略」26 ページ
GRI 418：顧客プライバシー 2016		
418-1	顧客プライバシーの侵害及び顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	該当なし
		「サイバーセキュリティによるお客様とデータの保護」41-43 ページ

独立監査人によるレビューレポート
アフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明

独立監査人によるレビューレポート及びアフラック・インコーポレーテッドの温室効果ガス排出量に関する声明ついては、こちら（英語のみ）をご覧ください。

取締役及び経営陣

取締役

ダニエル P. エイモス
アフラック・インコーポレーテッド
会長兼最高経営責任者

W. ポール バウワース
ジョージア・パワー・カンパニーの
退任した会長兼最高経営責任者

アーサー R . コリンズ
ザ・グループの創業者及び会長

細田 満和子
星槎大学教授

トーマス J. ケニー
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント
グローバル・フィクスト・インカム元パートナー兼
共同代表

ジョージェット D. カイザー
ザ・カーライル・グループ
元マネージング・ディレクター兼チーフ・インフォメーション・オフィサー

キャロル F. ロイド
公認会計士
アーンスト・アンド・ヤング LLP の退任した監査パートナー

森 信親
株式会社日本金融経済リサーチ
代表取締役

ジョセフ L. モスコウィッツ
プライメリカ・インクの退任した
エグゼクティブ・バイス・プレジデント

キャサリン T. ローラー
プリンストン大学名誉副学部長

経営陣

ダニエル P. エイモス
アフラック・インコーポレーテッド
会長兼最高経営責任者

ヴァージル R. ミラー
アフラック・インコーポレーテッド社長
アフラック（米国法人）社長

マックス K. ブローデン
アフラック・インコーポレーテッド
シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント
チーフ・フィナンシャル・オフィサー

オードリー ブーン ティルマン
アフラック・インコーポレーテッド
シニア・エグゼクティブ・バイス・プレジデント
最高法律顧問

チャールズ D. レイク二世
アフラック・インターナショナル社長
アフラック生命保険株式会社
代表取締役会長

古出 眞敏
アフラック生命保険株式会社
代表取締役社長

スティーブン K. ビーバー
アフラック生命保険株式会社
取締役専務執行役員
チーフ・フィナンシャル・オフィサー
チーフ・リスク・オフィサー

ブラッドリー E . ディスリン
アフラック・インコーポレーテッド
エグゼクティブ・バイス・プレジデント
グローバル・チーフ・インベストメント・オフィサー
アフラック・グローバル・インベストメンツ社長

フレデリック J. シマード
アフラック（米国法人）
エグゼクティブ・バイス・プレジデント
チーフ・フィナンシャル・オフィサー
チーフ・オペレーティング・オフィサー

ロビン L. ブラックモン
アフラック・インコーポレーテッド
フィナンシャル・サービス担当
シニア・バイス・プレジデント
チーフ・アカウンティング・オフィサー

アフラック・インコーポレーテッド
（ニューヨーク証券取引所のティッカー・シンボル：AFL）

当社及びForm10-Kを含む米国証券取引委員会（SEC）提出書類、本レポートについて、詳細は下記までお問い合わせください。（英語のみ）

コーポレート・サステナビリティ
Delia Moore

インターネット：
investors.aflac.com

電話：
+1.800.235.2667 または +1.706.596.3264

Eメール：
aflacir@aflac.com

シェアホルダー・サービス

個別株式記録、配当金再投資、配当金支払い、配当金納税申告書、または配当金の口座振込に関する情報やサポートについては、下記までお問い合わせください。（英語のみ）

インターネット:
https://shareholder.broadridge.com/aflac

電話:
+1.800.227.4756 または +1.706.596.3581

Eメール:
shareholder@broadridge.com または shareholder@aflac.com

© 2025 アフラック・インコーポレーテッド 無断複写・転載を禁じます。

アフラック・インコーポレーテッド

1932 Wynnton Road
Columbus, GA 31999
+1.706.323.3431